

東京の高齢者福祉施設による、地域によりそうキャンペーン

つながれ ひろがれ ちいきの輪

in
TOKYO

2024 報告書



社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会

東京都高齢者福祉施設協議会は、東京都内の特別養護老人ホーム・養護老人ホーム・軽費老人ホーム・地域包括支援センター・在宅介護支援センター・デイサービスセンター約1,200ヶ所が集まるネットワークです。



はじめに

本書は、福祉や介護サービスが必要な高齢者だけではなく、だれもが安心して暮らせるまちづくりをめざして、東京の高齢者福祉施設・事業所が地域の中で試みている様子をまとめ、伝える報告書として発刊しました。取組みごとの実施レポートを掲載する一方、「つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO」という全都的なキャンペーンとして取組んできた背景やキャンペーンの流れについても分かりやすく伝えるよう心掛けています。また、コンパクトなサイズになっており、本書を手にとった方が活用しやすい冊子となっております。

東京都内の高齢者福祉施設・事業所における地域によりそう活動への理解を深めるとともに、地域での実践の一助となれば幸いです。

●本書の構成について

本書は、4つの章で構成されています。

I 章 図解 明日が待ち遠しい暮らしをデザインする

地域の中における高齢者福祉施設・事業所の現状や地域住民の暮らしによりそうために求められているものをつなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYOを実施する背景と合わせてイラストや図で解説します。また、地域の中で実践するためのポイントを「地域によりそいはじめるための10のステップ」としてまとめています。

.....

II 章 地域のニーズにこたえるヒント～実践報告会より～

2024年1月に開催された実践報告会での報告やコメントなどから、それぞれの地域のニーズや取組みでの工夫やヒントを学びます。地域につながる中でみつけたたくさんの気づきが書かれています。

.....

III 章 キャンペーン実施に至るまで～2024年度のふりかえり～

2024年度のキャンペーンを実施するにあたり、どのようなしかけをつくってきたか、学びの場づくりの様子やワーキングチームの活動の様子などから理解を深めます。

.....

IV 章 きっとみつける！あなたのまちの『ちいきの輪』

～キャンペーン取組みレポート～

都内の各地の地域によりそう取組みの様子についてキャンペーン参加施設・事業所から届いたレポートを掲載しています。

目次

I 明日が待ち遠しい暮らしをデザインする

図解 明日が待ち遠しい暮らしをデザインする	
～地域の中でつながりあう施設とは～	2
地域によりそいはじめるための10のステップ	4

Ⅱ 地域のニーズにこたえるヒント～実践報告会より～

第1節

実践報告会について.....	8
「地域防災訓練」.....	9
「あしたばカフェ」.....	12
「パールよろず博」.....	15
「多世代の居場所づくりプロジェクトUI～結～」.....	18

第2節

実践報告会参加者インタビュー..... 21

第3節

参加者の声..... 26

Ⅲ キャンペーン実施に至るまで～2024年度のふりかえり～

つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYOとは？	28
2024年の「つなひろ」を振り返る～再開後2年目の成果と課題～	30
見学会.....	32
つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYOワーキングチーム	34

Ⅳ きっとみつける！あなたのまちの「ちいきの輪」 ～キャンペーン取組みレポート～

実施施設・事業所 一覧.....	40
実施施設・事業所取り組みレポート2024	42

資料

実施施設・事業所 募集要項	112
実施状況	116
広報グッズ紹介	117
広報ツール紹介	118
つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム名簿	123

I

明日が待ち遠しい 暮らしをデザインする ～地域の中でつながりあう施設とは～



明日が待ち遠しい暮らしをデザインする ～地域の中でつながりあう施設とは～

■ つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYOとは？

地域でこぼれ落ちる人がいないよう、誰もが安心して暮らせるまちを目指して、高齢者福祉施設・事業所が地域によりそうことで「ちいきの輪」をつくります。

「ちいきの輪」とは、一人ひとりの生活を、点（福祉サービス）のみではなく、面（ネットワーキング）で支えること（地域包括ケアの実現）を示しています。制度の狭間でこぼれ落ちる人がいないよう、サービス利用者や地域住民によりそう具体的な8つの取組み例として右記イラストにまとめています。

■ キーワード

地域でこぼれ落ちる人

- ・高齢者とその家族を取り巻く様々な暮らしの課題が多様化・複雑化し、社会のセーフティネットからこぼれ落ちる可能性のある人への支援が必要。
- ・東京のさまざまな場所にある高齢者のための施設・事業所は、福祉や介護サービスが必要な高齢者だけではなく、地域でくらす住民のみなさんの役に立ちたいと願っている。

地域によりそう

- ・高齢者福祉施設・事業所が地域の課題や住民の個々の生活ニーズを把握し、専門性を発揮しながら、解決に結びつくアクションを起こしている。
- ・地域住民にとって身近な存在として感じてもらうために暮らしの中でのちょっとした困りごとや悩みによりそい、支える活動を展開。
- ・合わせて、広く市民全体に知ってもらうために都内の高齢者福祉施設・事業所が一体となったキャンペーンを実施。

施設・事業所も地域の一員として、地域のゆるやかな支え合いネットワークを形成するために地域に入り込み、住民とかかわり、地域の高齢者が施設・事業所に利用者としてかかわる前に要介護状態を予防するはたらきかけを行います。かかわりの入口は高齢者ですが、家族・自治会・商店街などそれぞれの地域住民の生活ニーズ把握を重ねていくことで、いずれは地域全体の課題をつかみ、新しい社会資源（サービス、ネットワーク等）を生み出すきっかけをつくり、最期の時まで安心して暮らせる地域の実現をめざしています。



■ 東京の地域を取り巻く課題～制度の狭間にこぼれ落ちる人～

①高齢化の進行

2035年には、高齢者人口が約354万人、高齢化率は25%、都民の4人に一人が高齢者になると見込まれている。
出典：東京都政策企画局『「未来の東京」戦略 version up 2023 附属資料 東京の将来人口』
<https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/seisakukikaku/jinkou>

②孤立の増加

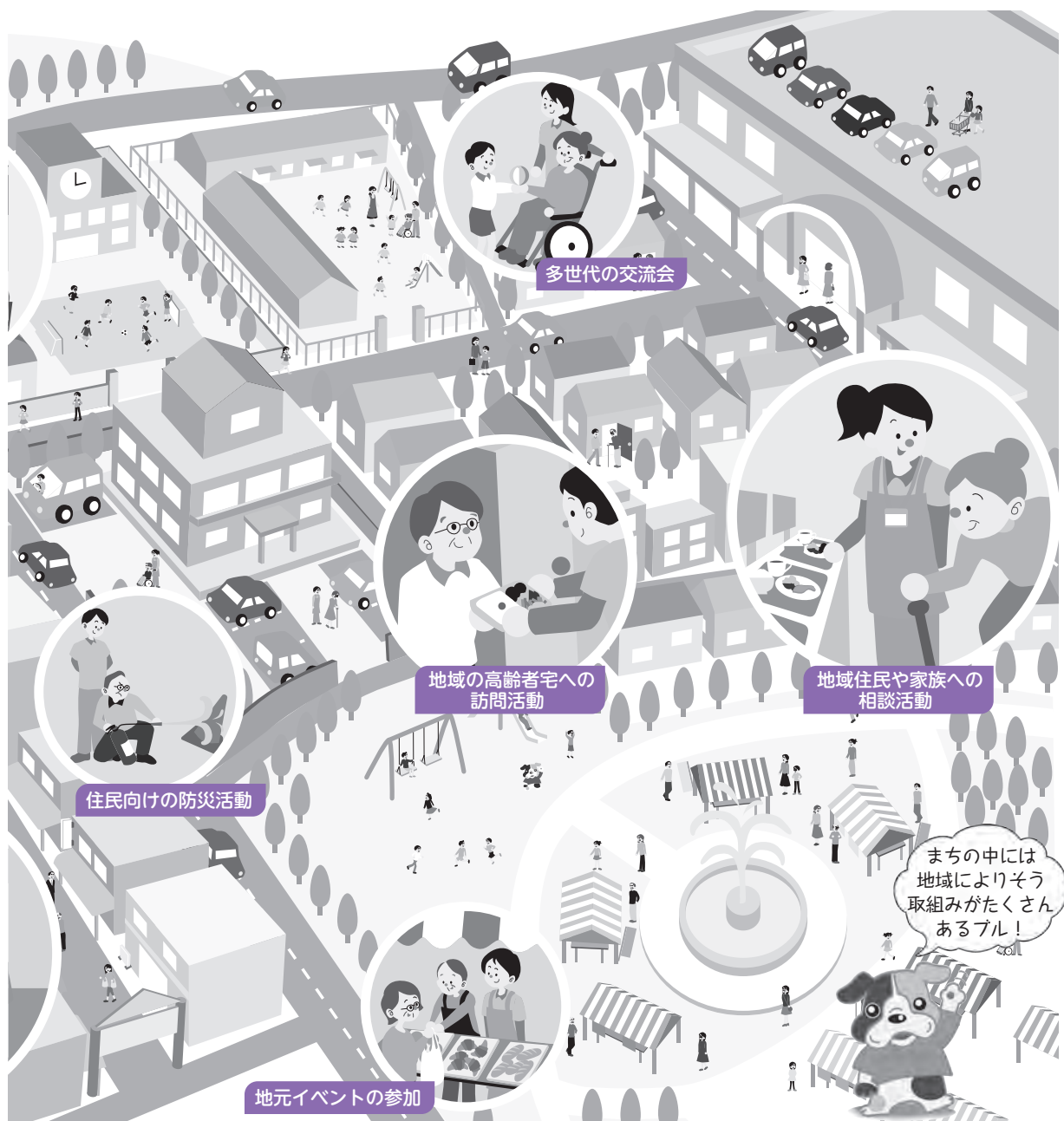
65歳以上の一人暮らし世帯について、2020年では約92万世帯であるのが、2050年には約126万世帯に増える見込まれている。また、コロナ禍を経て他者とのつながりを保ちにくくなった地域もある。
出典：東京都政策企画局『「未来の東京」戦略 version up 2023 附属資料 東京の将来人口』
<https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/seisakukikaku/jinkou>

③経済的に困窮している高齢者の増加

高齢者世帯の37%が年収200万円以下となっている。
出典：令和3年版高齢社会白書
https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2021/html/zenbun/s1_2_1.html

④多面的なかかわりの必要性

本人ならびに家族に、多様かつ複雑な課題があるため、サービスの充実だけでは対応が不十分なケースが増えている。

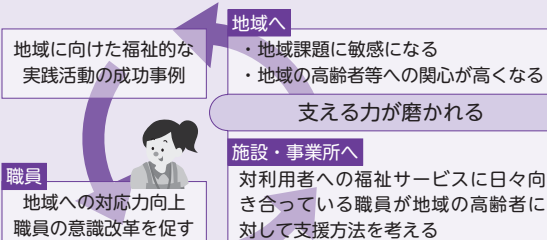


■ 地域によりそうことで生まれる効果



- ・車の両輪のように「福祉（施設・事業所利用者へのサービスの質）」「地域（地域住民全体に向けた支援）」の2つが比例して高齢者福祉施設・事業所の支援の質が高められる。
- ・1施設では、地域への対応力に限界があるため、公私にわたる多様な機関との協働が欠かせない。

■ 包括的な視点に基づく福祉的な取り組みサイクル



上記の一連のサイクルを通して、新たな暮らしの課題解決に向けた視点が形成されるとともに、施設・事業所の地域のニーズに対する支える力が磨かれ、自ずと支え手のあらゆる可能性を引き出します。

地域によりそいはじめるための10のステップ

このページでは、高齢者福祉施設・事業所が地域によりそうために必要なことを10のステップとしてまとめてみました。すでに地域で行っていることやこれから取り組もうとしていることを見返すチェックポイントとして活用ください。ここに示しているものはほんの一例であり、高齢者福祉施設・事業所のそれぞれが取り組む上での大切なポイント（活動への効果と最初にできることなど）をから考えていくためのツールとしても利用できます。

1

STEP

地域の一員として力になる

- ⇒施設で行う特別なことではなく、従来行われている地域に馴染のあるイベント（例：お祭りなど）に協力する。施設から地域に歩みより、ともに汗をかくことで、距離感が縮まり、互いに話しやすい関係性が構築される。
- ⇒まずは、町内会のイベントをのぞき、地域の団体が集まる定例の会議に参加していく中で積極的に協力してみよう。

2

STEP

活動を応援してくれる地域の仲間を増やす

- ⇒日頃から顔の見える関係をつくり、気軽に相談できる環境をつくること。普段から考えをめぐらせていることを伝える中で共感し、活動の協力者になることも。企画を練る段階から一緒に入ってもらうことで一体感を持った取組みができ、今後のつながりとひろがり生まれやすくなる。
- ⇒地域の方々や団体などに名前を覚えてもらえるよう話かけに行く。どんなに小さなことでも頼って相談しに行こう。特に自分たちだけではできないことをする際には得意とする分野を持つ地域住民や団体を巻き込むのも1つの方法。

3

STEP

1人1人のニーズを地域のニーズと照らし合わせて考える

- ⇒高齢者福祉の現場で日々起こっている困りごとは、地域の方々の目にどのように映るのだろうか、地域の中での日常の暮らしとどのようにつながっているのだろうか。地域での出来事や暮らしの困りごと（高齢者にとらわれない）は、高齢者福祉施設・事業所の目から見てどう捉え、利用者やスタッフにつながっているのか考えて行動することで、ニーズをキャッチするアンテナを敏感に持つことができる。
- ⇒ふと立ち止まって他人事を自分事として考える時間をつくり、多くの人と共有してみよう。

4

STEP

参加者の目線に立った企画づくり

- ⇒自施設・事業所の取組みのターゲットにしている人はどんな暮らしをしている人が想像し、何を求めているのかを考えながら企画づくりをすすめる。また、実施する際はその人の目線に合わせて、どうしたら楽しんでもらえるのか、伝え方やはたらきかけ方を工夫することで、地域の方がより身近に感じ、参加したいと思ってもらえる可能性が高まる。
- ⇒高齢者福祉施設・事業所の当たり前だと思っていることが、実はそうでないことを意識しながら、ターゲットとしている人が親しみを持てるようにする。

5

STEP

参加者や地域の方の自主性を高めるしくみをつくる

- ⇒使い方を覚えれば自由に施設の設定が利用できるように環境を整える、早い時期から参加している方が先輩となって教えたり、活動の協力者になったりすることで、地域の方同士の助け合いが生まれるしくみが展開される。参加者が活動の運営に目を向けるきっかけとなり、スタッフの負

担を分けることでゆるやかに長く続けられる活動に結びつく。

⇒参加者の声をじっくり聞く機会をつくり、取組みに対する率直な意見を伺いながら、現状を変えるために地域住民と高齢者福祉施設・事業所ができそうなことは何か一緒に考え、やってみる。

6 STEP できることから実践してみる

⇒地域住民や団体、高齢者福祉施設・事業所内の利用者やスタッフが地域のニーズに気づき、活動として応えたいという声に対して、自分たちが無理なく手伝えることを思い描き、地域へ発信することで、具体的な活動に結びつく可能性を高めることができる。

⇒見学会、カフェ、地域のイベントへの参画、学校の授業への協力など、取り組みやすいものから始める。施設・事業所内外の協力を得る際は計画的にかかわり、少しずつ段取りを整えていこう。

7 STEP 高齢者福祉施設ならではの強みを有効活用する

⇒取組みを行う際に新しく何かを準備する必要は決してなく、すでに身の回りにあるものを有効活用することで思いもよらない効果を生むこともある。特に地域交流スペース、リハビリのトレーニング機器、給食室などの設備などは活動する場をつくることにもつながる。

⇒まず、施設・事業所の設備や環境の中からこういったものが地域の方の日常をより豊かにする可能性があるのか1つずつあげて整理してみよう。

8 STEP スタッフも楽しみながら取組める体制をつくる

⇒ただ、お願いするのではなく、その人が得意なことをまかせ、協力者であるスタッフやボランティアが楽しみながら参画することで、活動に参加する意味を見出し、今後のモチベーションにつなげることができる。ときには、活動を発展させるためのアイデアをくれたり、新たな仲間を呼んで来たりすることもある。

⇒活動の意味・今回の目標・実施のイメージを事前に共有し、その人に合った役割をお願いしてみよう。終了後には参加者の声を伝えたり、ねぎらいの会を開いたり、取組みを楽しくふりかえれる場をつくってみよう。

9 STEP 活動の運営に困ったら具体的に呼びかける

⇒活動に必要な人・モノ・金（技術や知識も含む）を自分たちの中で用意していくには限界がある。運営上の困りごとを、より多くの方に取組みを知ってもらえるチャンスと捉え、協力できる可能性を持つ人や団体の立場に立ってできそうなことを具体的に示しながら協力を呼びかける。例えば、参加費の徴収、寄付（モノ・金）やボランティアの募集などがある。呼びかけたいターゲットに合わせて、ウェブサイトやチラシなど活動の様子を積極的に発信することでより多くの協力を得られる可能性が高まる。

⇒今行っている活動の中で課題となっていることや不足しているものを常に把握し、どういった協力なら得ることができるのかを考えて少しずつ行動する。

10 STEP 1回の活動で終わらず、次を意識する

⇒1回のイベントを行うことに満足せず、次回以降の取組みに向けての種まきを行うと、参加者や協力者が徐々に増え、活動に継続性を持たせることができる。加えて、連続して参加した人に対して意識した心配り（名前を覚える、前回の話題を出すなどのコミュニケーションをとるなど）を積み重ねることで、今後の活動への協力者になってくれることもある。

⇒次回のイベントの案内、リピーター参加における特典（プレゼント配布）など、次回へのお楽しみを用意する。

地域によりそいはじめるための10のステップ

- 1 地域の一員として力になる
- 2 活動を応援してくれる地域の仲間を増やす
- 3 1人1人のニーズを地域のニーズと照らし合わせて考える
- 4 参加者の目線に立った企画づくり
- 5 参加者や地域の方の自主性を高めるしくみをつくる
- 6 できることから実践してみる
- 7 高齢者福祉施設ならではの強みを有効活用する
- 8 スタッフも楽しみながら取組める体制をつくる
- 9 活動の運営に困ったら具体的に呼びかける
- 10 1回の活動で終わらず、次を意識する

10
STEP

Ⅱ

地域のニーズに こたえるヒント ～実践報告会より～



だれもが安心して暮らせるために地域でできること ～つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO の取り組みから～

※報告書掲載にあたり、一部要約しております。

日時：令和7年1月20日（月）14：00～17：00

会場：研究社英語センタービル地下2階 大会議室

つなひろキャンペーン終了後の2025年1月20日（月）に、実践報告会を開催しました。実践報告会では、今年度キャンペーンに参加した4つの取り組みを、それぞれの事業所からご報告いただきました。

コロナ禍で地域へ向けた活動が休止し、再開することの難しさを痛感していますが、活動の意義についてもより一層実感しています。つなぐれ、ひろぐれ地域の輪！&支え合える関係づくりを進めていきたいです。

内 容

〔1：実践報告〕

- ・テーマ1 防災「地域防災訓練」
大野 香菜子 氏（府中市立介護予防推進センター）
- ・テーマ2 カフェ・居場所「あしたばカフェ」
遠藤 信裕 氏（特別養護老人ホーム なぎさ和楽苑）
- ・テーマ3 地域交流「パールよろず博」
新井 伴明 氏（社会福祉法人パール）
- ・テーマ4 カフェ・居場所「多世代の居場所づくりプロジェクトUI～結～」
岩淵 百合子 氏（特別養護老人ホーム 神明園）

〔2：情報交換会〕

実践報告 1

「地域防災訓練」

社会福祉法人多摩養育園 府中市立介護予防推進センター（府中市）

大野 香菜子氏

詳細はP79



いきいきプラザおよび府中市立介護予防推進センターについて

いきいきプラザは平成18年4月に開設された複合施設で、1・2階に光明高倉保育園、3～5階に府中市立介護予防推進センターがあります。指定管理者として社会福祉法人多摩養育園が受託し、5年ごとの指定管理プロポーザルを経て現在に至っています。府中市全域の65歳以上の高齢者を主な対象として、フレイル予防、健康体操の普及、ボランティア育成、自主グループの支援など、高齢者の心と体の健康推進を目指して、自助・共助の仕組みづくりや活動支援を展開しています。

当センターでは、介護予防事業としてご当地健康体操や介護予防教室を行っています。そして、介護予防教室卒業生の中から介護予防事業を普及するボランティアとして「元気一番!!ひろめ隊」を育成し、活動支援を行っています。「元気一番!!ひろめ隊」には運動普及員と文化交流普及員がおり、現在110名ほどの方が活躍されています。

運動普及員は、自らご利用者様の前に立って運動を指導し、自主講座を開催する方に介護予防教室の補助、そして地域の活動の補助などをしていただいております。また文化交流普及員は、自分の趣味、折り紙や切り絵や手話などの特技を生かし、いきいきプラザ交流サロンや地域で講師として活動しています。

介護予防教室卒業生の自主グループでは、散歩、料理、カーレット（卓上版のカーリング）、絵本の読み聞かせなど、様々な活動が積極的に行われています。

さらに、保育園との複合施設として世代間事業にも力を入れています。同法人運営のメリットを生かして、核家族化、少子高齢化が進む社会の中で、健全な児童の育成と高齢者の社会参加、そして生きがいづくりを目的に進めています。

自治会との連携

開設当初は、市立の看板をつけて立ち上げたため府中市も介在しながら運営協議会・組織を介して地域との関わりをする形でした。10年を経過して保育所が市立から私立に移行する中、地域・自治会との関係も近づきましたが、総会への参加や行事の時に参加させていただく来賓扱いのままというのが現状でした。

コロナ禍を経て、地域との交流、連携の再強化を進めていく必要があると強く感じ、来

賓から自治会の一員となるべく、行事の準備から参加しました。当初はいきいきプラザの総合避難訓練で自治会の役員さんをお呼びしていましたが、令和5年度から自治会の方からの声がけで合同防災訓練開催へと結びつきました。

令和5年度、初めての合同防災訓練は、いきいきプラザの総合避難訓練を置き換えて計画しました。いきいきプラザは会場の提供と市民団体パブリカさんとコラボをして防災クッキングへの参加をしました。この際の課題として挙げられたのは、開催日の設定です。自治会の方は土日の開催が望ましく、保育園のほうは平日の開催が有効ということで、次年度に向けての検討課題となりました。

分梅高倉自治会との合同防災訓練開催後、2月に開催する分梅自治会連合会合同防災訓練への協力要請がありました。検討会議にはセンター長が参加し、防災クッキングと、そして避難所の生活での口腔ケア、エコノミー症候群対策などに参画しました。

令和6年度分梅高倉自治会との合同防災訓練は、9月7日（土）開催で計画しました。前年度の課題をふまえ、避難訓練ではなく防災訓練として実施することにしました。参加者はブースを回りながら防災の知識を学び、各ブースでの体験を通して学びを深めていくことを目的として実施することといたしました。また、保育園は保護者懇談会開催日と重なるため、家族で参加できるように設定をしました。

合同防災訓練の内容は昨年度とほぼ同じ内容でしたが、新たに起震車体験、児童の防火衣試着体験を追加しました。保護者と園児の参加も前年度より増え100名程度ご参加いただきました。いつ起こるか分からない災害に備えて、意識強化に結びついたのではないかと思います。



地域との連携、今後について

令和6年度からはセンター長が役員会にも参加し、地域の一員として地域の活性化を目指し活動しています。苦楽を共にして地域に寄り添うことで、地域の課題や地域の方々の思いに触れる機会をいただき、学ぶことが多くあります。つなひろの取り組みを通じて、自分たちからまず一歩近づいていくことの大切さを改めて痛感しています。

この2年間で近隣自治会との合同防災訓練をきっかけに連合自治会との連携につながりました。今のつながりを大切にしながら、今後のつながりの輪がさらに広がっていくことを願っています。

介護予防推進センターの目的である「心と体の健康増進」、「その人らしい人生を支援」を基盤に、法人の理念である「地域福祉の拠点」として役割を担っていけるように、多種多様な方々と連携して未来に進めていきたいと思っています。

少子高齢化社会と人生100年時代の到来により、介護予防も自助が求められています。今後は高齢者のみが対象ではなく、多世代の方に対して「心と体の健康は自分で守る」という意識づくりの推進が大きな役割の一つとなっていくと感じています。また、社会福祉法人として、地域をつなぎ、そして地域と共に歩んでいく福祉の拠点としての役割を全うしていくために、これからも尽力していきたいと思っています。

「あしたばカフェ」

社会福祉法人東京栄和会 特別養護老人ホームなぎさ和楽苑（江戸川区）

遠藤 信裕氏

詳細はP73



なぎさ和楽苑について

なぎさ和楽苑は江戸川区で初めての高齢者福祉施設であり、当時多くの方が見学に来られました。当時の高齢化率は6%で、地域の方からは「私たちの地域に高齢者福祉施設をなぜ建てるのか」とご意見が寄せられました。そこで、地域の方に高齢者福祉施設や介護のことを知っていただく目的で、ボランティアの専属担当を配置し、地域と施設の架け橋を担っていただいています。

なぎさ和楽苑は3つの特徴があります。①地域と共に歩む。②多種多様な高齢者福祉サービスの実施。介護予防から看取りまで高齢者福祉サービスの一連を行っており、利用者・家族・地域のニーズに広く対応しています。③地域のニーズに応える。地域に広くアンテナを張り、新しい情報を取り入れ、新たなサービスやシステムに取り組む姿勢を持っています。近年は地域共生社会、地域包括ケアを鑑み、計画相談、短期入所、訪問介護等の障害サービスも実施しております。

若年性認知症支援事業を行うようになった経緯

若年性認知症支援事業を開始した背景には、若年性認知症の方がデイサービスを利用した際、高齢者向けのサービスが合わず対応に苦慮した経験があります。

当事者は、高齢者向けのデイサービスを利用することに抵抗を感じる一方で、同年代と過ごせる場所がないことに悩みを抱えています。また、家族にとっても、高齢者向けのデイサービスに通わせることに抵抗があるものの、自宅で一人にしておくことが難しいという課題があります。これらの課題に直面し、若年性認知症の当事者にとって適切な居場所や就労の場を提供する必要性を感じ、若年性認知症支援事業を行うようになりました。

若年性認知症支援事業について

若年性認知症支援事業は以下4つ実施しています。

①フリーサロンあしたば（当事者支援）

週3日、1日の定員6名で実施。当事者でその日のプログラムを企画。

②あしたば会（家族支援）

毎月第4土曜日の定例会とあしたばカフェを主催。

③地域啓発

年2回のセミナー、ワークショップを開催。機関誌「あしたば通信」を年に3回発刊。

④若年性認知症相談窓口

そして、全て横断的に行われる事業を「あしたばカフェ」と位置づけております。

3年間のモデル事業を実施し、ご家族からは、あしたばに通うことで当事者の居場所が分かり安心、日中活動することによって夜よく眠れるようになる、帰宅後、当事者が穏やかに過ごすようになり、それに伴って当事者に優しく接することができるなど貴重なご意見をいただきました。当事者支援と共に欠かせないのが家族への支援であり、いわば車両の両輪であると考えます。

そこで家族支援を行うべく、平成24年12月1日に若年性認知症家族会「あしたば会」を発足しました。ご家族からは、職場や親戚には話せない、若年性認知症に特化した家族会で情報を得たいなどのご意見をいただき、職員・施設の役割は、まだどこにもつながっていない本人・家族へのアプローチ、同じ悩みを持つ方々への情報提供だと考えました。

より多くの方に若年性認知症のことを知っていただきたい、フリーサロンあしたばや当事者家族につながっていただきたい、関わる皆さんの居場所でありたいと思います。それためにはどうしたらよいか家族会で検討し、オレンジカフェの若年性認知症バージョンとなる「あしたばカフェ」を平成27年9月21日にオープンしました。

あしたばカフェは、館内の地域交流スペースで実行委員を中心に当事者（以下、「メンバー」という）、家族、職員、専門職、ボランティア、地域の方の協力により開催しています。実行委員会形式にしたのは、職員主導ではなく、それぞれの立場の思いを発信・共有する場にしたいと思ったからです。時には意見が異なることもありますが、お互いを尊重する気持ち・姿勢を持ちながら運営しています。あしたばカフェに参加されたメンバーがフリーサロンあしたばの見学及び利用につながり、家族であしたば会に参加されるなどの広がりも見られています。

参加者それぞれの思いとしては、メンバーはあしたばに参加することで社会とのつながりを持つことができ、活躍できる場となり、同世代の仲間に出会えます。またご家族としては、事前申込みがなく気軽に参加でき、当事者と一緒に参加できるため、家に残す不安もありません。そして、若年性認知症に特化したカフェにしたことで、悩みを打ち明けられ、共有できることも多くあります。ボランティアさんは企画から関わることで、やりがいや有用感を高められ、認知症サポーター養成講座の卒業生の活躍の場にもなっています。

職員はこれらの活動から、居場所、情報の提供、専門機関や窓口の紹介、継続的な支援といった、当事者・家族の支援を行っています。

新型コロナウイルス感染症による影響と再認識したあしたばカフェのコンセプト

感染症拡大前は、事前申込みなく気軽に立ち寄れる対面式の開催で、自由に出入りがで

きるイベントが中心でした。しかし、感染症が蔓延した令和2年12月からは、主体となる特別養護老人ホームの入居者の安全・安心を第一として、事前申込みのオンライン開催になりました。その後は、感染者数も落ち着き、オンラインと対面式のハイブリッド形式で開催しています。こうしや経験から、画面越しに対面する方々の笑顔を見て、あしたばカフェの居場所は、場所などの物理的なもののみを指すのではなく、SNS等を介した目には見えないつながりも居場所であると気づくことができました。

新型コロナウイルス感染症を経て、実行委員会で今後のあしたばカフェを数回にわたり検討し、あしたばカフェの「はなす」「たのしむ」「まなぶ」というコンセプトを再認識しました。参加者は誰でも気兼ねなく「はなし」、参加の体験の共有を「たのしみ」、時には今後のことを「まなぶ」。家族同士情報交換を行い、参加する皆さんが自由に楽しむことができ、時には専門職からの情報提供ができるカフェを目指すこととなりました。

あしたばカフェが目指すもの

参加された方が若年性認知症や当事者・家族の理解につながり、フリーサロンや家族会の参加に結びついています。あしたばカフェが目指すものは、参加する皆さんとつながり、それぞれの居場所となることです。参加する皆さんが主役になれるカフェであり、それぞれ自身の思いを表現し活動できる場でありたいと思います。

そして、参加する方々の変化に合わせ、ニーズに応えられるカフェでありたいと考えています。それぞれの思いが詰まったカフェであり、その時々に変え、その人のベストでありたい。あしたばカフェは、物理的なものでも空間的なものでもなくて、生き物だと思っていますので、さらに成長できるように活動を続けていきます。

私たちは若年性認知症の支援としてフリーサロン、家族会、そしてカフェにおいて、その人がその人らしく過ごせるようにという思いをのせて活動しています。

実践報告 3

「パールよろず博」

社会福祉法人パール（渋谷区）

新井 伴明氏

詳細はP56



社会福祉法人パールについて

社会福祉法人パールは創立して26年目、渋谷と代官山の間位置し、地下1階、地上4階の施設を拠点としています。創設者 新谷弘子さんの理念とともに、地域福祉を推進してきました。

新谷さんはもともと東京都職員としての経験を持ち、アメリカ滞在中に現地のボランティア活動を目の当たりにしたことで、日本にも同様の活動を広めたいという想いで福祉活動を始めました。社会活動教育研究所（後の社会福祉活動教育研究所）という団体をつくり、病院などでボランティア活動を始め、訪問介護や移送サービス（ハンディキャブ）、配食サービスなどにも着手し始めました。そして、1997年に社会福祉法人として認可され、1999年に今の場所に移り、社会福祉法人パールとなりました。

パールは介護保険事業を中心に、特別養護老人ホームや通所介護、認知症対応型通所介護、訪問介護、訪問看護など多岐にわたるサービスを提供しています。また、介護相談や福祉教育、地域貢献事業、世代間交流なども行い、地域の福祉拠点としての役割を果たしています。

地域貢献事業について

パールでは、地域住民の健康増進や社会交流を目的に、週3回のフレイル予防活動として、体操、音楽、麻雀など様々な活動を提供しています。また、地域の方を講師に招き、書道や茶道、英語など多彩なプログラムを用意することで、地域住民の多様なニーズに応えています。毎回10～15名参加しており、音楽のグループは代官山で行われる「フェット・ドラ・ミュージック」というイベントに、書道のほうも新宿のフェスティバルに展示するなど、外に出ていく活動も行っています。さらに、高齢者に向けて活動だけでなく、「こどもテーブル」という、地域の子どもたちを対象としたプログラムも実施しています。そのほか、保育園児から高齢の方々まで幅広い世代の活動支援・ボランティアの受入れを行っており、地域住民と一体的に活動を展開しています。

また、渋谷区の地域イベントにも積極的に参加し、区長や町会の方々とも関係を構築しながら地域貢献を進めています。地域イベントに参加することで、地域住民とのつながり

を強化するだけでなく、地域の現状や課題を理解する機会にもなっており、活動の大きな魅力の一つとなっています。

パールよろず博について

つなひろなど地域のイベントなどに遊びに行くうちに、地域の皆さんが笑顔でつながる様子が見て、縮小版をパールの中でできないかと考えたことが「パールよろず博」のきっかけです。パールに集まり、地域の皆さんと福祉の専門家が関わることで、地域ニーズをより理解し、解決につなげることができるのではないかと考えました。そして、地域の皆さんと直に接する機会をつくることで、我々が支える力となれるということをよりアピールしていこうと思ったのです。

では、何ができるのかと考えました。例えば健康増進ゾーンというものがあったら、福祉・介護・健康何でも相談、訪問看護をやっているため薬や健康などの紹介・レクチャーなどができます。イベント・ゾーンがあれば、施設の案内ツアーや介護技術教室、車椅子体験、料理教室等いろいろなものが浮かびます。さらに、バザーや飲食コーナー、ステージにはボランティアによるパフォーマンスがあれば面白いかなと様々な発想を浮かびました。

このような案を出したところ、施設からはぜひやってくださいと言っていただき、平成29年から「パールよろず博」を開催することとなりました。

コロナ禍の影響で一時中断を余儀なくされましたが、昨年から2日間開催として再開しました。今年は「こどもテーブル・スペシャル」として、ポケモンのゲーム大会やカラオケ大会、プロサッカーチームの協力によるフットボール大会を開催し、さらに幅広い層の参加を促しています。

課題と今後に向けて

地域貢献事業を様々行っていますが、職員の意識を高めることが一番難しいと感じます。職員の中には、普段の業務そのものが地域貢献事業であり、日常業務だけで忙しく無理だという発想を持っている方も多くいます。モチベーションの持ち方に個人差がありますが、全員の考えが一律になるのを待っていたら何もできません。関心があってできる人、やりたい気持ちがある職員が率先して動き、少しずつ全体に浸透していけばよいと思っています。まずはできることから一步一步やっていけばいいのかなと考えているところ です。

職員の中にはできないと拒絶してしまう方もいますが、初めからその考えでは私たちの存在価値はなくなってしまいます。我々の業務の目標は、地域住民の生活を今よりも良くしていくことです。そこへの追求があるからこそ、私たちは地域の皆様から期待され、その結果が生じることで良い評価につながると考えます。

社会福祉法人として、地域のニーズを支援することが私たちの存在意義であり、本旨だと思っています。そのためにも、地域住民の生の声を聞く機会をつくっていきながら、対応し実現に向けて努力できる法人づくりを目指したいと思います。そのため、少しばかり

変わった発想を持ちながら、はみ出す行動力を持っていくことが必要だとも考えます。決まりきった活動にとどまらず、これからも地域に寄り添いながら福祉の本質を追求していこうと思います。

「多世代の居場所づくりプロジェクトU～結～」

社会福祉法人亀鶴会 特別養護老人ホーム神明園（羽村市）

岩淵 百合子氏

詳細はP93



亀鶴会では、入所者の方々が地域の皆さんと交流し、社会とのつながりを保てる場づくりを目指しています。また、介護人材の育成も重要な課題として、子どもの頃から介護の仕事や高齢者への関心を育む機会を大切に、市内の保育園や小中学校との交流を積極的に行っています。コロナ禍で地域との交流の機会が減少したとき、何ができるか話し合いを重ね、「多世代の居場所づくりプロジェクトU～結～」を立ち上げました。今回は、つなひろにエントリーした3つの活動についてご紹介します。

亀鶴会の公益活動の拠点、神明台sTorehouse（ストアハウス）について

神明台sTorehouseは、神明園の大規模災害対策として建設されました。災害時に備えた炊き出し設備と飲食スペースを備え、平常時はこれらの機能を活かして活動拠点としています。

私たちは地域の方々が災害時に混乱なく避難できる体制づくりに取り組んでいます。日頃からのつながりが非常時の安心感につながると考え、地域のセーフティネット機能強化に努めるとともに、地域防災の取り組みも進めています。

○かふえてりあ はろ

「はろ」は水曜日と土曜日の週2回、15～18時に小学3年生から中学1年生を対象に開催しています。自由参加制で、子どもたちが気軽に来られるよう食事代は無料にしました。毎月の活動予定はポスターで掲示していますが、ほとんどの子は自分のペースで過ごしています。

2022年の活動開始当初、多いときには30名近くの子どもが集まりましたが、子ども同士のトラブルが発生し、保護者からのクレームもあったため、登録制・予約制に切り替えました。その結果、本当に居場所を必要とする子どもたちが残り、参加は交友関係に左右されるようになりました。来ている子どもの中には家庭環境や発育に課題を抱える子もいて、最初は大人に心を開かず、スタッフとの会話も「うざい」「うるさい」といった言葉がほとんどでした。活動の方向性についてボランティアの間でも意見の相違が生じ、協力者が減少する時期もありました。

2023年度には対象を小学生と中学生に変更し、子どもへの関わりを重視した活動へと

シフトしました。食事をとっていない子や身だしなみが気になる子もいる中、支援の範囲について悩むことも多かったですが、理解者や協力者との出会いにも恵まれました。

その後、小中学生間のトラブル増加や、ルールを守らない子どもの存在から、参加者はさらに固定化。2024年度からは対象を小学生のみに変更し、中学生は「神明台自習室みらい」へつなげるよう調整しました。しかし、「子ども食堂＝貧しい子が行く場所」「はろ＝難しい子が行く場所」というイメージが想像以上に強く、参加者が増えない状況が続きました。

活動継続に悩む日々が続く中、「東京都社会福祉協議会 地域課題を解決するための助成」を活用し、駄菓子屋をオープン。これをきっかけに10月にリニューアルし、子どもたちがストアハウスに集まるきっかけができました。

そんななか見えてきたのは、継続して来る子どもたちには“来る理由がある”ということです。一見問題がなさそうでも、兄弟の受験で家では我慢している子など、一時的な関わりでも居場所の一つになったことに意味があります。「来る子がない＝居場所は不要」ということではないと実感しています。

○神明台自習室みらい

2022～2023年度は年3回、定期考査前に申し込み制で実施しました。家で落ち着いて勉強できない、一人では進まない、食事が食べられるなどの理由で、近隣の中学生在が利用していました。

2024年度からは週2回、15～19時の自由参加制に変更。実施方法の変更により、参加者の認識にずれが生じ、集中して学習できる環境ではなくなっていました。そこで「むすびえ こども食堂基金」の助成金でブーステーブルを設置しました。一時的に利用者は増えたものの、誰がいるか確認して帰ってしまう子が増え、再び利用者が減少しました。学習に対する姿勢の違いから、同じ空間で過ごすことが難しかったようです。

この活動には当法人理事の東京工科大学講師 池田晋平氏が関わり、アンケート調査から効果検証を行っています。昨年12月には意見交換会を開催し、教育現場の先生方からの意見を次年度の方向性に活かすことができました。

○高齢者の居場所「より処」

「より処」は月会費500円の会員制で、週4回、10～15時まで活動しています。2023年10月のオープン以来、徐々に参加者が増え、今年度4～12月までの延べ利用者数は1,335人となりました。

活動を始めて分かったのは、地域コミュニティに入りづらいと感じている高齢者の単身世帯が想像以上に多いことです。行き場所に悩む方や、在宅を心配する家族からの問い合わせも多くあります。

地域の高齢化で、高齢者向けの会が縮小・消滅する中、「より処にメンバーを取られる」との懸念から老人会との連携はなかなか進みませんでした。活動開始から1年が経ち、参加判断は交友関係が大きな要素となりました。現在61名の登録者のうち、継続利用者は

約4割。みんなが心地よく過ごせる場づくりが課題です。

また、待っているだけでは人は集まらないため、様々なイベントを企画しました。特に一緒に作って食べるイベントが人気で、笑いヨガや体操教室も「元気になる」「続けたい」という声から継続利用につながりました。活動に関心を持つ方も増え、プロのネイリストによる500円のネイルケアサービスなども実施しています。

UIの実施方法と特徴

UIの特徴は、専任職員の配置により開催頻度を高め、来場者との関わりを大切にしていることです。また助成金を積極的に活用しています。申請・報告作業は大変ですが、活動を客観視するきっかけになり、成果が数値化しにくい活動において、応援されているという実感がモチベーション維持につながります。

神明台sTorehouse活用をきっかけに活動を展開し、上記3つ以外にも、ベンチを設置したり、駄菓子屋を開いたり、地元農家協力による神明マルシェの開催、防災機能向上のための非常食づくりなど、人が集まる場づくりを実施しています。

居場所づくりの活動継続・拡大のため、羽村市内で活動している個人・団体との協力関係構築を目指し、神明園園長発起による協議会を設立しました。協議会での意見交換・情報共有は有意義で、共同でのイベント開催も実現できました。

人が集まることで見えてきたことも多くあります。小規模だからこそ、来られる方の抱える課題や背景が見えやすく、地域の方々のニーズを理解するきっかけとなりました。これからも深い関わりを大切に、地域の助け合い関係を築き、地域に働きかける拠点としての機能を担っていきたいと思います。

課題・今後の展望

活動を通して、想像以上に複雑化・深刻化した課題に気づくことがあります。公益事業の枠組みでは対応できないことも多く、関わりが途切れてしまう難しさを感じています。地域共生社会の発展には、個人・団体・行政・地域が協働・連携できる体制づくりが必要です。つながりが必要な人を取りこぼさないために、活動団体が増え、地域に根づき、大切な資源となる取り組みを進めていきたいと考えています。

居場所には目的が明確な「目的型」と出入り自由の「共生型」があります。イベント企画で参加のきっかけを作り、参加者増加につながりましたが、継続的な活動のためには、利用者が主体となり役割が生まれる場にする必要があります。今後は多様性を重視した共生型の居場所を目指し、仲間と共に行動し、考え、学ぶ存在になりたいと思います。

地域にとって誰かが取り組むべき活動であることは確かです。現在は投資と考え、公益活動を事業化して予算を捻出していますが、収益のない活動をどう継続するかは当法人でも議論となっています。運営費確保は大きな課題であり、インセンティブ制度の導入など、今後の検討が望まれます。社会福祉法人は地域の一部です。地域の声を聞き、地縁組織では対応困難な部分をカバーし、解決を目指す活動を続けていきたいと思います。

実践報告会

参加者インタビュー

実践報告会で出会った仲間

2025年1月20日（月）に毎年恒例となった「実践報告会」が開催されました。

当日は今年度『つなひろ』に参加した施設の方、地域との繋がりについての情報収集のために参加された方、福祉を志す大学生・等が集まり、実践の報告を聞くと共に参加者同士で情報交換も行いました。学生さんは施設実習とは違った、施設の活動を知れる良い機会となったようでした。熱気溢れる意見交換の時間はアツと言う間に過ぎましたが、心温まる時間を共有することができました。

今回は実践報告会で出会った素敵な仲間を紹介します。

【武井圭佑さん】

社会福祉法人 三幸福社会 癒しの南千住
管理栄養士

管理栄養士を目指し大学で学び、卒業後「栄養士として介護の現場で働くために、介護の事も知りたい！」と、老人ホームで介護士として勤務。

介護士経験を経て、大学に戻り、助手をしながら研究や教育活動を行い、現職に至る。

現在は、管理栄養士として勤務すると共に、研修の講師等も務めている。



－実践報告会に参加したきっかけは？－

今年度「つなひろキャンペーン」に参加していたので、その流れで報告会の案内を目にして参加してみようと思いました。キャンペーンへは、（つなひろのことを）あまり理解していない中で何となくエントリーして、実践報告会まで来たと言う感じです。

－実践報告会の感想をお聞かせください－

実践報告会には施設長と一緒に参加しました。参加者は地域活動に携わる方が多く、誰かに相談したいけれど中々相談できないという状況は自分も同じだと感じました。

地域活動自体が現場のスタッフに受け入れてもらえているかというところもあり、色々な悩みを抱えながら活動している人も多く、施設内の職員に普段話せない、話しても伝わらない・伝わりにくいことが、別の施設で地域活動を頑張っている人に話したら共感してもらえたことなど嬉しかったです。

自身の活動のヒント等、有意義な情報交換ができました。

－武井さんが関わっている地域支援は？－

法人では行政や地域包括支援センターと連携して色々な事業を行っていますが、今年度つなひろにエントリーした『いやし食堂』は自分が主として行っています。

毎月第四土曜日に、居場所作りの一環として地域食堂を開催しています。食事は特別養護老人ホームのご利用者と同じものを提供して、お話をしながら食べて頂いています。

ポイントは、各専門職と連携して行なうことです。嚥下の体操や栄養についての講座、レクリエーション等、リハビリ担当者、管理栄養士、介護士が協力して毎回、食事の前30分程の活動を企画しています。実習生にも参加してもらいます。

毎回、15名程度の方が参加されています。自発的に参加される方に加え、地域包括支援センターの職員が他者との交流が減少している方等を個別にお誘いしています。男性の参加者が多い事も特徴の一つです。男性はレクリエーション的な事は敬遠されがちですが、専門職による講話等は積極的に参加されます。



－楽しく実践していますか？－

法人（三幸福社会）自体が地域貢献活動や外部との関りを大切にしている、施設長も後押ししてくれるので活動は進めやすいです。担当者がやりたいと言っても、上の方がやらなくても良いと言う施設もあると聞くので自分はやりがいを持って活動できます。

地域も含め外に発信する事や動くことは好きな方なので、現場の業務を行いつつ、これからも続けたいと思っています。

－食の力は大きいですね－

本当にそう思います。あまり話さないような方も男女関係なく、食を通して関係性を築くこともあるのでこういった場所が増えると良いと思います。

－施設の仲間－

現場の職員も地域活動に携わることで意識も変わってくると思います。また、上席の理解があることで活動の幅が広がります。自分は実践報告会も一緒に参加してくれる上司なので、活動が行いやすいです。

－来年度は『つなひろ』のワーキングチームの一員ですね－

今年度、なんとなくキャンペーンにエントリーした流れで実践報告会に参加して、そこ

で自分の悩みが解消されて、この活動を広めていきたいと思いました。私は地域活動自体も好きなのでそこも広めたいと思っています。

三幸福社会は地域相談員という役職があって、ボランティア受入れを含め地域関係の活動を推進して行くのですが、地域貢献活動等を行うにあたり、現場業務を行いながら活動するため苦戦することもあります。そのような担当者が実践報告会に参加したら活動のヒントが見つかり、もっと効率良く進めることができると思い、この機会を宣伝したい気持ちもあります。



ー地域相談員は専任ですか？ー

専任ではなく、介護の現場と両立しながら行っております。法人の今後の目標として、各施設1名の地域貢献活動担当者を配置することを目標としております。社会福祉法の「地域における公益的な取組」を全施設で行えるように社会福祉士の有資格者を中心に取り組んでおります。

ー最後に『つなひろワーキングチーム』の一員としての意気込みをどうぞ！ー

つなひろの活動自体は、まあまあ認知されているのだと思いますが、それがどれだけ重要なのか、その活動はどういった役割を持っているのかという所がまだ浸透されていない事を個人的に感じたので、何をやるという具体的なイメージはまだありませんが、そこを浸透させられるような活動をしたいと思っています。



ー武井さんの印象ー

いやし食堂の開催に合わせ、癒しの里南千住へ訪問しました。

参加者の皆様はとても美味しそうに、朗らかな笑顔で食事を摂られていました。若い実習生（栄養士の卵たち）がテキパキとお手伝いをしていました。

終了後、武井さんにインタビューをさせて頂きました。外見は、明るく爽やかな印象の好青年です。お話からは勉強熱心で真面目な様子も伝わってきました。来年度のワーキングメンバーとして活躍を期待しています。

(ワーキングチームメンバーより)

【齊藤恵里さん】

社会福祉法人 品川総合福祉センター 事務局 地域福祉課
地域福祉課長

大学卒業後、品川総合福祉センター 地域福祉課に勤務、地域イベント、ボランティア担当等、地域や外部の関係機関と施設を結ぶ役割や法人のイベント等を担う。

その後、知的障害者入所施設、障害者地域活動支援センター等の勤務を経て現職に至る。

高校生の娘を持つ母。手話が得意。

－実践報告会に参加したきっかけは？－

実践報告会への参加は昨年に引き続き2回目になります。

昨年は、報告者と言う立場で参加しました。今回は、他施設の取組みを聞きたかった事と、昨年参加した際の情報交換会で、自身の活動のヒントを得られたこと、同じ思いを共有する仲間との出会いに心が温かくなり元気を頂けたので、今年は自法人の仲間を誘い参加しました。

－地域福祉課は地域に向けた専任部署ですか？－

私の勤める法人は『地域とともに』をスローガンとして、地域福祉に力を入れています。法人設立時から存在する課で、担当する業務は多岐に渡ります。地域交流、福祉教育・啓発、地域との関係機関との調整、ボランティアの受入れ等に加え、広報誌の作成やホームページの管理等や、最近はヤングケアラーの支援にも力を入れています。

－ヤングケアラーの支援に力を入れているとのことですが－

以前より福祉啓発としてボランティア講座を行っています。傾聴ボランティアの育成等も行い、講座参加者は傾聴ボランティアとして継続して活動しています。3年前よりヤングケアラーの支援に目を向け講座を開催し、今年度はヤングケアラーサポーター養成講座として3回コースで実施しました。講師として町亞聖さんにも協力して頂きました。

－昨年の実践報告会で感じたのですが、企業や著名人と繋がるのが上手ですね－

仕事の性質上、色々な機関との交流が生まれ、情報提供や時には頼まれごともあります。どんな場面でも「そのままにしない」「断らない」事を心掛けています。そんな中で次々に有難いお話も頂けます。人との繋がり、交流を大切にすることで、新たな企画へと発展します。

－1年を通して毎日が『つなひろ』ですね－

常に地域のためを考えて活動していますが、課員が2名なので手が回らない現状もあり

ます。しかし、法人内の施設職員の協力も得て地域ニーズに応える取り組みも始めることができました。

今年度は「しなふく食堂」を新たに始めました。チラシ・ポスターでの広報もしましたが、より支援が必要な方が来所出来るよう、民生委員、児童センター、子ども家庭支援センター等の職員にも協力して頂き個別に声をかけています。直近では30名程の参加者となりました。

小・中学校での福祉講座にも力を入れています。毎年、区内数カ所で開催しますが、法人の特性を活かし、障害を持つご利用者にも協力頂き活動をしています。ご利用者、介護現場の職員と共に、学生に福祉を理解してもらえるよう活動しています。

－新たなチャレンジが楽しみです－

最近の特別養護老人ホームでは『看取り対応』が当たり前になって来ましたが、在宅の高齢者が孤独死すると言う報道も聞きます。入所している方だけでなく、地域の施設として、その地域に暮らす方全員が福祉の対象者だと考え、施設の専門性を活かし何が出来るのか考えて行く時期に来ていると思います。

外国人が増えている地域では、子どもが親の通訳をしています。それもヤングケアラーであり、親はコミュニケーションに困っている状況があります。だとしたら、保育園が保護者に向けて日本語講座を行なうことも地域に向けたプラスαの取組みになると考えます。

人が足りなくて出来ない、目の前の業務に気を取られプラスαまで気が回らない等、色々乗り越えなくてはならない課題はありますが、つなひろの活動を通して前向きな気持ちになりました。仲間を増やして地域のために必要な活動を実践したいと思います。

－斎藤さんのお仕事を見学に行きました－

斎藤さんが勤務する法人本部は障害者施設（入所・通所）、特別養護老人ホームが併設する6階建ての施設でした。次々に来館者が訪れるのですが、どの方も顔見知りのようで、皆さんに声を掛け（掛けられ）ていました。

仕事の内容や、今後取り組みたい事、夢も語って頂きましたが、地域福祉に対する熱い・熱い思いが伝わってきました。こんな担当者がいる地域はきっと素敵な地域になるのだと確信しました。頑張ってください！

（ワーキングチームメンバー）

参加者の声

- 実践内容を、園に持ち帰り参考にさせていただきたいと思います。
- 様々な取り組みの報告がありましたが、どの活動も地域などのニーズをキャッチして対応することで始まり、継続されているとお話で、とても学びになりました。地域に何が必要なのか、自分たちには何ができるかというシンプルだけど根源的な、そこに立ち返って、自分が所属している組織の事業を振り返ってみようと思いました。
- 地域の方に理解してもらうためには、大変な努力が必要であり、その実践をたくさん聞かせていただいた。
- どの事業者様も、普段の業務+αで地域のニーズに答えようとされている姿勢に感動しました。漠然と何をしたらいいのか、現状の活動の悩みばかり気にして、理想が見えていなかった所にヒントを得たような気がします。できないと閉じこもらず、発想を常に大事にしていきたいと思いました。
- 普段、話すことのできない悩みを話すことができた。
- 他事業所の話・報告が聞けて大変良かった。
- 普段の生活や仕事に関する世間話等、意味のある話が楽しかった。
- 他の事業所がどのような取組を行っているのか知ることができ、勉強になりました。
- 他施設の工夫を聞くことができて勉強になりました。
- 色々な事業の話が聞けて良かった !!
- 大変参考になり、参加して良かったです。実践に生かせるよう、積極的に取り組む勇気をいただきました。
- 地域交流に焦点を当てた会に参加するのが初めてであった。他の事業所・法人がどのような取組がなされ、課題と向き合っているのか意見交換ができ、とても楽しく学ぶことができた。
- 他の法人がどういう取り組みをしているのかを聞けて良い機会となった。コロナ禍前後で抱えている課題が同じであり安心した。また、その課題に対しての対策を聞けてよかった。

Ⅲ

キャンペーン実施に 至るまで

～2024年度のふりかえり～



つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO とは？

東京の高齢者福祉施設がお互いに協力しながら、地域によりそつためのイベントや交流会を各地で一斉におこなうキャンペーンです。

地域包括ケアを推進し、だれもが安心して暮らせるまちづくりのために、地域で暮らす方々がつながり、その輪がひろがることをめざしています。

豊かな暮らしを支えるしくみがととのえられていく中で、高齢化の進行、社会的な孤立の問題、生活への困窮などが課題となっています。

そこで、「地域の中で、制度の狭間でこぼれ落ちる人がいないよう、一人ひとりによりそうこと」「一人ひとりの生活を、点（サービス）のみではなく、面（ネットワーキング）で支えるための『ちいきの輪』をつくること」を展開するための1つの方法として地域の多様な人びとをつなぐ取組みを行っています。

2024年度 キャンペーン実績

実施期間 2024年9月1日～11月30日

実施数 都内で69事業・509団体

参加数 述べ 10,505名

※詳細はP116参照

「Ⅳきっとみつかる！あなたのまちの『ちいきの輪』（P39）」では、今年度のキャンペーンにおける各施設・事業所の取組みについて区市町村別に下記のテーマと合わせて掲載しております。

キャンペーン取組みレポート テーマ一覧

	テーマ	内容例
Ⅰ 高齢者を 支える	1 認知症	・認知症カフェなど認知症高齢者やその家族を対象とした事業
	2 介護予防・高齢者支援	・介護予防教室など、高齢者を対象とし、閉じこもり防止や交流を目的とした事業
	3 アウトリーチ	・高齢者や地域住民を対象とした訪問・見守り・配食活動
Ⅱ 多世代 交流を 支える	4 相談・家族支援	・福祉や介護に関する相談の場の提供 ・介護をする家族を対象とした講座
	5 カフェ・居場所	・多世代を対象としたカフェなど地域住民の誰もが交流や食事ができる場所の提供
	6 学びの機会	・地域住民に対する学びの場の提供
Ⅲ 地域を 支える	7 地域団体との協働	・1つの施設・事業所だけでなく自治会や学校など、地域団体やその他の団体と複数で協働して行っている事業
	8 地域交流	・地域住民を招き、交流する事業
	9 防災	・防災訓練や福祉避難所など、地域の防災に関する事業

高齢者福祉施設・事業所での取組み例

第8回八王子介護フェア

「楽しく介護を知ろう」をテーマに、地域公益活動の一環として、ソーシャルワーク機能を生かしたアウトリーチ事業を行うとともに、参加施設・事業所の広報活動を行いました。
 (偕楽園ホーム・第二偕楽園ホーム・桜の里・ファミリーマイホーム・地域包括支援センター加住／八王子市)
 詳細はP75



あだちご近所マルシェ

駐車場を利用して社会福祉法人、地域活動団体などの販売会や各種イベントを開催。施設利用者様の買い物支援や地域交流、多世代交流の場となっています。

(社会福祉法人道心会 介護老人福祉施設ケアホーム足立／足立区)

詳細はP65

語り合いサロン「ぱらとなみき」

地域にお住まいの高齢者の方が、介護予防体操や介護・医療の情報交換等を通じて交流するサロンです。10年以上続くこの取り組みは今や皆さんの拠り所となっています。

(社会福祉法人至誠学舎立川 至誠ホームミンナ／国分寺市)

詳細はP85



2024年の「つなひろ」を振り返る

～再開後2年目の成果と課題～

社会福祉法人秋川あすなろ会
あすなろみんなの家
今 裕司



■再開後2年目のキャンペーン

“高齢者福祉・介護に関わる社会福祉法人・施設・事業所として、地域の方々に向けた活動を展開し、その実績を広く知っていただく取り組みが必要では？”といった思いからスタートした「つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in 東京（以下、つなひろ）」。平成28（2016）年度以降の4年にわたる取り組みで、各施設・事業所の取り組みが、地域の中で様々なつながりを生み、広がっていると実感していました。

しかしコロナ禍により状況は一変し、我々の事業は、感染対策の名のもとに、他者との交わりを絶たざるを得なくなり「つなひろ」も、活動情報収集や共有にとどまり、キャンペーンとしては3年間行うことができませんでした。

令和5年5月の新型コロナウイルス感染症の5類への見直しを機に、昨年度4年ぶりにキャンペーンを再開し、今年度に至っています。

■今年度のキャンペーンから見えること

今年度のキャンペーンへの参加は、イベント数、参加施設・事業所数ともに、昨年度よりは増加したものの、コロナ禍以前の4年間と比べ半数程度からそれ以下にとどまりました。

参加減少にはいくつかの要因が考えられます。

まず、一番大きいと思われるのは新型コロナウイルスをはじめとした感染症への対応だと思われます。5類へ移行してから1年以上が経過し、世の中は感染症を理由とした活動の制約がほぼなくなっていると言えますが、私たちの職場環境では引き続き細心の注意を払う必要があり、活動の制約を緩和し広げていくことには慎重な施設・事業所が多いと思われます。

そのため、外部の方を招き入れる、職員が出向くといった活動には踏み出せず、結果としてキャンペーンの参加に至らなかったと考えられます。

また、コロナ禍による「空白の三年間」により、施設・事業所だけでなく、地域の団体等も、これまで築きあげ引き継がれてきた関係やノウハウ等が弱まり途切れ、担い手を失ってしまったのではないかと考えられます。

新型コロナ以外では、私たちを取り巻く人材不足のさらなる深刻化が、「つなひろ」の

ような活動への取り組みをますます困難にしていると考えられますし、取り組もうという意欲や活動の必要性を考える余裕すら持ちにくくなっているとも考えられます。

再開後2年目として、参加数の復調を期待していましたが、期待ほどの増加には至らず施設・事業所を取り巻く環境の厳しさを改めて認識させるものとなりました。

一方で、複数の取り組みで参加してくださった施設・事業所も目立っています。地域に向けた取り組みを積極的に行っていこうという施設・事業所があることは心強い思いです。

今年度の参加施設・事業所の取り組みからも、さまざまな工夫と成果が見られました。

感染対策などにより開催方法を見直したものの、コロナ禍の経験を踏まえて新たな取り組みで参加くださった施設・事業所もありましたし、コロナ禍以前の姿を取り戻した活動もありました。

1月に行った事例報告会では、複数の取り組みで参加してくださった施設や、昨年までの取り組みを拡充した事例、コロナ禍以前より状況の変化に対応しながら継続している取り組みなどの報告があり、たくさんのヒントや刺激を得ることができました。

事例報告会の内容は、本書にも記載していますので、皆さんにも共有していただきたいと思います。

■キャンペーンのこれから

令和7年度は委員会の再編に伴い、ワーキングチームは実行委員会へと形を変えますが、次年度のキャンペーン実施への準備がすでに始まっています。

昨年度のキャンペーンや事例報告会をきっかけに新たなメンバーも増え、活動の充実に向けて検討を進めています。

それぞれの取り組みを共有しヒントを得られるよう、見学会や事例報告等の充実を図っていくことや、キャンペーン期間以外の取り組み事例の収集・発信について取り組みたいと考えています。

感染症への対策はおろそかにはできませんし、人材難などの職場環境も劇的に改善するのは難しい状況ですが、それらを「地域に向けた取り組みができない理由」にしたままではいられません。

「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in 東京」キャンペーンが目標としている「地域でこぼれ落ちる人がいないよう、誰もが安心して暮らせるまち」づくりへの貢献と、社会福祉法人や高齢者福祉施設・事業所に対する「信頼と評価」という成果を得るためにも、多くの施設・事業所の参加を期待しています。



見学会

開催内容（全3回）

第1回 地域防災訓練（府中市）

日 時 2024年9月7日（土）10：00～12：30

会 場 社会福祉法人多摩養育園 府中市介護予防推進センター

参加人数 6名

※キックオフ記者会見としてメディアを対象に開催

第2回 あしたばカフェ 若年認知症カフェ（江戸川区）

日 時 2024年10月20日（日）13：30～15：30

会 場 社会福祉法人東京英和会 なぎさ和楽苑

参加人数 7名

第3回 パールよろず博 2024（渋谷区）

日 時 2024年11月29日（金）10：00～

会 場 社会福祉法人パール パール総合福祉プラザ

参加人数 8名

『つなひろ』キャンペーン再開2年目、今年度も見学会を行いました。つなひろに参加していただいた都内社会福祉法人の様々な取組の中から、今回も3か所の見学会を実施しました。燦々と輝く銀河の綺羅星のような活動の中から3か所に絞り込むのにWTはかなり苦労しました。そして今年も見学会では地域の実情や取組みの目的、開催にあたっての課題等、担当する職員から生の声を聞くことが出来ました。また、参加された地域住民や高齢当事者・ご家族の目の輝きから活動を通じた生きがいや充実感を垣間見ることができました。

新型コロナウイルス感染症に振り回された4年余りの期間に、今までつながっていた関係が薄くなったり、場合によっては作り直さなければいけないこともあり、地域の方も私達社会福祉法人職員も新たな一步を踏み出すために大きな労力を要しました。しかしながら、くじけそうになった心を、暖かな眼差しや声援が後押ししてくださって再び前に歩みだせそうです。

見学会には、施設・事業所の関係者だけでなく、メディア関係者の参加もあり、私たちの取り組みをたくさんの方々に知って頂く良い機会にもなりました。今年の取り組みが次年度に繋がり、誰もが安心して暮らせるまちへと続く一步となることを期待します。

見学会当日の様子

地域防災訓練

センターの位置する地区の自治会と、いきいきプラザ（介護予防推進センター・保育園）の合同防災訓練で、自治会の方々や保育園児・保護者、センター利用者、行政職員など100人を超える参加のもと、消火訓練煙体験・起震車体験・バッククッキング試食などがありました。報道関係者にも来ていただき、つなひろキャンペーンのキックオフ記者会見も行いました。（介護予防推進センター／府中市）

詳細はP79



あしたばカフェ（若年認知症カフェ）

若年性認知症専門デイサービスとその家族会が協力しているイベントです。今回は、理学療法士の方によるフレイル予防講座と家族会の方が演奏する生ギター・ピアノのミニコンサートがありました。カフェの進行も家族会の方が中心で進められていてとてもアットホームな印象を受けました。当事者の方もたくさん参加されていて、表情豊かに笑顔がはちきれんばかりでした。カフェの開催中に、和楽苑の屋上で栽培したという4種類のサツマイモがベランダで焼き芋に変身し、皆で美味しくいただきました。淹れたて珈琲も美味でした。

（なぎさ和楽苑／江戸川区）

詳細はP73

パールよろず博2024

閑静な住宅街にある特養を中心とした総合福祉プラザが、年に1回地域住民・関係機関などの皆様に、施設見学や活動体験をしていただき、身近な存在としての社会福祉法人を知っていただくためのイベントでした。法人創始者の理事長さんの苦労話も日本の福祉の歴史を聞くいい機会となりました。様々な体験ができましたが中でも、美味しいおでんが秀逸でした。

（パール総合福祉プラザ／渋谷区）

詳細はP56



つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム

開催内容（2024年度実績：全7回）

第1回 2024年5月9日

今年度活動内容確認

第2回 2024年6月7日

募集内容確認・説明会検討・広報方法検討（チラシ・キャンペーングッズ作衛等）

第3回 2024年8月5日

応募状況確認・見学会検討

第4回 2024年11月1日

実施状況確認・見学会・実践報告会検討

第5回 2024年12月4日

実施状況確認・実践報告会検討

第6回 2025年2月3日

報告書企画検討・次年度実施計画について

第7回 2025年3月4日

報告書企画検討・次年度実施計画について

新型コロナウイルス感染症は「5類」へ移行となり、地域交流も再開し始め、コロナ禍における新たな交流の在り方、地域貢献の在り方を考え各高齢者施設・事業所が活動している状況です。そうした中、キャンペーンを企画し、実施していく上で、幅広い視点・様々な角度から検討することに重きを置き、ワーキングチームのメンバーは、所属する施設・事業所の種別に偏りのない構成となっています。今年度は9名のメンバーで始まり、入れ替わりもありましたが年度末には新たなメンバーを加え10名となり楽しく活動を行いました。

今年度は、各メンバーの地域に寄り添った活動経験や身近な地域の状況等について情報交換をしながら事業計画の検討を重ね、研修会や見学会、実践報告会の運営、つなひろ通信の原稿執筆等を行いました。

社会福祉法人の地域貢献が求められる中、事業に参加される高齢者施設・事業所が地域から求められる存在となるよう、ワーキング



情報交換会・説明会の様子。

チームは「都内の各高齢者福祉施設が福祉や介護サービスを必要とする高齢者の為だけでなく、地域の誰もが安心して暮らせる街作りや街の活性化の為に何ができるのか」を考えていき、今後のキャンペーンの在り方、意味合い、趣旨を確認しながら活動を行っていきます。



実践報告会では、グループワークに入って一緒に考えることも。

ワーキングチームの1年（2024年度実績）

時期	主なできごと
4月	
5月	ワーキングチーム（第1回） 
6月	ワーキングチーム（第2回）
7月	情報交換会 
8月	ワーキングチーム（第3回） プレスリリース
9月	つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO キャンペーン開始 見学会（第1回、メディア向け）
10月	見学会（第2回） 
11月	ワーキングチーム（第4回） 見学会（第3回） つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO キャンペーン終了
12月	ワーキングチーム（第5回）
1月	実践報告会
2月	ワーキングチーム（第6回） 報告書作成 
3月	ワーキングチーム（第7回）

ワーキングチームからの声～キャンペーンをふりかえって～

※所属は2025年3月時点



大脇秀一
とらいふ武蔵野

まだまだ新型コロナウイルスは続いているですが、各地域で様々な活動、しかもコロナ禍の経験を活かした活動が行われていることに新たな刺激を受けました。社会福祉法人として地域貢献は義務付けられていますが、窮屈に考えるのではなく、地域と一緒に楽しむ気持ちで取り組めたら最高だと思います。その為にもWTに参加して都内の色々な取組みに触れることはとてもいい参考となります。地域交流に行き詰まりを感じている方は是非、WTに入って一緒に活動しましょう！



小山正子
品川区立中延
在宅サービスセンター

今年も『つなひろ』を通してたくさんの出会いがあり、また一つ成長させて頂きました。新たな気づきもあり、次年度に向けて準備中です。失敗を恐れず一歩踏み出す勇気を、共に歩む仲間が贈ってくれました。この信頼する仲間と共に新たなミッションを成し遂げます。人生も仕事もチャレンジの連続ですね。



相澤和彦
高田介護予防センター

今年度は「つなひろ」の打合せや見学会など、ほとんど参加することができませんでした。それでもたまに参加する際、つなひろWTのメンバーはいつも暖かく受け入れてくれ、「つなひろ」の活動以外のことでも相談できたり助けてもらったり、法人を超えた仲間がいることを改めて感じた1年間でした。皆さんも素敵な仲間をつくり、「つなひろ」で一緒に活動しませんか？



清野哲男
府中市地域包括
支援センター白糸台

新型コロナウイルスが5類対応となって、感染爆発以前と同じとはいえないまでも様々な活動が動き出しました。都内の社会福祉法人もそれに合わせる形でいろいろな取組（中には感染対策を通じて新しい形もあり）を行っていることを2024年度のつなひろキャンペーンの中で見聞することができました。人と人とのつながりはそこに「人と地域を愛する気持ち」がある限り決して無くならないと確信したことを今年度の「つなひろWTのふりかえり」とさせていただきます。



津雪聡子
東久留米市中部包括
支援センター

今年度のつなひろのキャンペーンは、4事業所の見学会を開催し、実践報告を1月に行いました。実践報告会では、8名の大学生もグループワークに参加され、社会福祉法人が地域に寄り添う取り組みの生お声を聴いていただけたと思います。やはり、対面で話すことは良いですね。色々な取り組みや悩み事を聞けて、有意義な時間を過ごすことが出来ました。次回も、たくさんの方にお会いできることを楽しみにしています。



沼尾治巳
府中市立介護予防
推進センター

キックオフ施設として紹介して頂き、地域の方や市民団体等と協力し、達成感のある体験をさせていただきました。地域活動の中で、笑顔の輪が繋がる瞬間が、一番のご褒美です。これからも人と人とのご縁を大切に、社福としてできることを確実に歩んでいきたいです。



榎本朝美
東京ボランティア・
市民活動センター

つなひろワーキングに今年もオブザーバーとして参加させていただきました。メンバーのみなさんとの打ち合わせも楽しみです。情報交換会や実践報告会など施設のみなさんのお話を聞いたり交流できる場というのは大きな学びがあります。高齢者施設と地域とのつながりに若い世代にも今以上に興味をもっていただけたらいいなと思っています。今後とも、誰もが安心して暮らせるまちづくりを、一緒に目指していきたいです。



藤野真琴
東京都民生
児童委員連合会

普段の業務では、東京都民生児童委員連合会の事務局として民生児童委員さんを支える仕事をしていますので、高齢者施設の現状や、地域での取り組みはなかなか見えづらい状況にあります。ですが、つなひろワーキングチームに参加することで、実際に現場で活躍している皆さんと言葉を交わし、それらを学ぶことができました。とても貴重な体験をさせていただいていることを、感謝いたします。



渡邊明日香
東京都社会福祉協議会
福祉部高齢担当
(事務局)

昨年度からつなひろの事務局を担当しています。高齢者福祉施設が地域とつながる様子を間近で見て、こういう取組みができるのは社会福祉法人ならではの魅力だと感じました。コロナ禍などの困難はあったものの、対策をしながら取組みを再開したところでは、人とのつながりや笑顔であふれていました。このキャンペーンのタイトル通り、地域のつながりが、今後もひろがっていくことを願っています。



今裕司
あすなろみんなの家

今年度も「つなひろ」キャンペーンが無事に実施できたこと、ワーキングチームに楽しんで参加できたことをうれしく思っています。見学会や実践報告会の際は、毎回さまざまな気づきや学びがあり、刺激を受け、自分の施設での活動へのヒントや自分自身への元気をいただきました。

この活動に関わってくださったすべての皆様に感謝するとともに、次年度はもっと大きな輪ができることを願っています。

Ⅳ

きっとみつける！ あなたのまちの「ちいきの輪」 ～キャンペーン取組みレポート～



つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO 2024 実施施設・事業所一覧

区市町村	No.	テーマ	施設種別	主催団体名	事業・イベント名	掲載ページ
文京区	1	地域交流	特養	洛和ヴィラ文京春日	洛和メディカルフェスティバル	
台東区	2	カフェ・居場所	包括	やなか地域包括支援センター	カフェやなか	
墨田区	3	地域交流	特養	墨田区特別養護老人ホーム たちばなホーム	たちばなカフェから繋がる地域共生社会の輪	
品川区	4	地域交流	特養	社会福祉法人品川総合福祉センター かえで荘	しなふく紅葉フェスタ	
	5	地域交流	デイ	大井在宅サービスセンター	こすもすパーティ	
	6	地域交流	特養、デイ、在宅、ボランティア団体	品川区中延在宅介護支援センター	喫茶せせらぎ	
	7	地域交流	特養、デイ、在宅	品川区立中延在宅サービスセンター	くつろぎ祭り	
	8	相談・家族支援	特養、デイ、在宅	品川区立中延在宅サービスセンター	食は生きる源！栄養満点のスープで元気をつけよう	
	9	学びの機会	特養、デイ、在宅	品川区立中延特別養護老人ホーム	老人ホームでお手伝いをしよう！	
	10	地域交流	特養、デイ、地元町内会	品川区立中延特別養護老人ホーム	旗が岡八幡神社例大祭	
大田区	11	介護予防・高齢者支援	養護	社会福祉法人 東京蒼生会 大森老人ホーム	ホームdeランチ	
	12	介護予防・高齢者支援	特養、包括、デイ	社会福祉法人響会	ひびき ほっとサロン	
世田谷区	13	介護予防・高齢者支援	デイ	社会福祉法人奉優会 等々力の家デイホーム	理学療法士体操教室とAI健康測定会	
	14	カフェ・居場所	特養、包括、デイ	特別養護老人ホーム 博水の郷	博水の郷カフェ	
渋谷区	15	地域交流	特養、デイ、居宅介護事業所・訪問看護・訪問介護・福祉用具・配食 等	社会福祉法人パール	パールよろず博 2024	
	16	介護予防・高齢者支援	社会福祉活動教育研究所	社会福祉法人パール	地域のたまり場 パールライフ	
	17	地域交流	デイ	総合ケアコミュニティ・せせらぎ高齢者在宅サービスセンター	職業体験	
豊島区	18	地域交流	特養、軽費(ケアハウス)、包括、グループホーム(認知症対応型共同生活介護)	菊かおる園	にしすがも友遊まつり	
荒川区	19	カフェ・居場所	特養	特別養護老人ホーム 癒しの里 南千住	いやし食堂	
練馬区	20	認知症	特養、包括、デイ、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、はつらつセンター	関町特別養護老人ホーム	つながりの輪をひろげよう～認知症にやさしい地域づくり～パネル展示と体験イベント	
	21	カフェ・居場所	特養	第3育秀苑 (特養・認知症対応型デイサービス)	なないろカフェの実施 (オレンジカフェ)	
	22	地域交流	特養、包括、デイ、居宅介護支援事業所・訪問介護	第二光陽苑	第二光陽苑 秋祭り	
	23	地域貢献	特養	富士見台特別養護老人ホーム	地域をきれいにしよう！	
足立区	24	地域交流	特養	介護老人福祉施設ケアホーム足立	あだちご近所マルシェ	
	25	地域交流	デイ	高齢者在宅サービスセンター西新井	ボランティア活動紹介・交流会	
	26	地域交流	特養	社会福祉法人聖風会 花畑あすか苑	あすかフェスティバル	
	27	学びの機会	特養、包括、デイ	社会福祉法人聖風会 足立新生苑	クローバー大学	
	28	地域交流	特養、デイ、ショートステイ	特別養護老人ホーム 新田楽生苑	新田しまなみ祭り	
	29	介護予防・高齢者支援	特養	特別養護老人ホーム奉優の家	地域高齢者への見守りを兼ねた宅配パントリー	
江戸川区	30	フードロス対策、生活困窮者支援	特養、軽費(ケアハウス)、包括、デイ	社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑	なぎさ◎フードドライブ	
	31	地域交流	特養、軽費(ケアハウス)、包括、デイ	社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑	なぎさ★キッチン	
	32	カフェ・居場所	特養、軽費(ケアハウス)、包括、デイ	社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑	あしたばカフェ	
	33	認知症	特養、軽費(ケアハウス)、包括、デイ	社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑	アルツハイマーデイ	

区市町村	No.	テーマ	施設種別	主催団体名	事業・イベント名	掲載ページ
八王子市	34	防災	特養、包括、デイ、施設連絡会、複数施設共催、近隣介護施設、近隣老人保健施設、近隣医療機関、近隣有料老人ホーム、近隣大学など	偕楽園ホーム・第二偕楽園ホーム・柊の里・ファミリーマイホーム・地域包括支援センター加住	第8回八王子介護フェア	
立川市	35	地域交流	包括、デイ、居宅介護支援	社会福祉法人 恵比寿会	羽衣センター祭り	
武蔵野市	36	学びの機会	特養	とらいふ武蔵野	もしもの会	
府中市	37	学びの機会	特養、養護、包括	社会福祉法人 多摩同例会 緑苑	安心シニア塾	
	38	防災	介護予防推進センター	府中市立介護予防推進センター	地域防災訓練	
小平市	39	カフェ・居場所	特養、包括	社会福祉法人 緑友会 小川ホーム	だれでも食堂「おがワン広場」	
	40	地域団体との協働	特養、包括、デイ	社会福祉法人 緑友会 小川ホーム	ふれあい交流イベント おがワンフェスティバル	
東村山市	41	地域交流	特養、デイ、在宅、複数施設共催、法人内の障害・保育事業所	社会福祉法人 村山苑	村山苑 ふりば	
	42	カフェ・居場所	複数施設共催	村山苑高齢事業	リハビリ・運動教室	
	43	地域交流	特養	白十字ホーム	第9回 八国山フリーマーケット	
国分寺市	44	介護予防・高齢者支援	特養	至誠ホームミンナ	語り合いサロン「ぶらっとなみき」	
福生市	45	近隣のゴミ拾い及び緑化整備活動	特養、包括、デイ、訪問介護、居宅介護支援、認知症対応型共同生活介護	特別養護老人ホームヨコタホーム	街もきれいに心もきれいに	
東久留米市	46	カフェ・居場所	包括	社会福祉法人 三育ライフ	失語症当事者の会 チャレンジ	
	47	地域交流	特養、包括、デイ	社会福祉法人 三育ライフ	シャローム祭	
	48	若年性認知症カフェ	特養	社会福祉法人 三育ライフ	佳辰の会（かしのかい）	
	49	地域交流	特養	特別養護老人ホーム けんちの里	けんちの里 文化祭	
稲城市	50	地域交流	デイ	デイサービスセンターハーモニー松葉	体操&歌の祭典	
	51	地域団体との協働	軽費（ケアハウス）、包括、複数施設共催、松葉保育園	ハーモニー松葉、松葉保育園、包括支援センターやのくち	やのくち子ども食堂	
羽村市	52	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人亀鶴会 特別養護老人ホーム神明園	多世代の居場所づくりプロジェクトUI〜結〜 高齢者に居場所 より処	
	53	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人亀鶴会 特別養護老人ホーム神明園	多世代の居場所づくりプロジェクトUI〜結〜 かふえてりあ はろ	
	54	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人亀鶴会 特別養護老人ホーム神明園	多世代の居場所づくりプロジェクトUI〜結〜 神明台自習室 みらい	
あきる野市	55	地域団体との協働	自治体・事業者団体等の協働	あきる野市、あきる野市地域包括支援センター、あきる野市介護事業者連絡協議会	介護サービス普及啓発イベント「介護の日」	
	56	地域交流	デイ	あすなろみんなの家	ふれあいお茶飲み会	
	57	地域交流	デイ	あすなろみんなの家	あすなろマルシェ	
	58	地域交流	デイ	あすなろみんなの家	シルバー麻雀「リーチクラブ」への協力	
	59	防災	特養	増戸ホーム、五日市ホーム	地域とつながる防災訓練	
	60	地域交流	特養	麦久保育園	地域敬老会サポート	
瑞穂町	61	地域交流	特養、デイ、在宅、ショートステイ	社会福祉法人 梅の樹会 フラワープラム	こども食堂	
	62	カフェ・居場所	特養、デイ、在宅、ショートステイ	社会福祉法人 梅の樹会 フラワープラム	認知症カフェ	
	63	介護予防・高齢者支援	特養	良友園	ふれんどサロン	
	64	地域交流	特養	良友園	ふれんどファーム	
日の出町	65	防災	特養、複数施設共催	ひのでホーム	応援協定による地域との防災訓練	
	66	地域交流	特養	社会福祉法人ほうえい会特別養護老人ホーム栄光の杜	日の出町産業祭りで地域交流	
	67	カフェ・居場所	特養	特別養護老人ホーム 第3サンシャインビル	モノづくりカフェ	
	68	地域交流	特養	特別養護老人ホーム藤香苑	みんなのホットランチSP	
檜原村	69	介護予防・高齢者支援	特養	松原サナホーム	とびっこクラブ	

洛和福祉会 洛和メディカルフェスティバル

- 開催日程 10/27 10:30～14:30
- 参加団体 洛和福祉会、ボランティア団体「学習支援なごみ」
- 参加人数 200名

実施の目的

地域交流

当日の様子

施設の入り口ではポップコーン、地域交流スペースでは、ヨーヨー、射的、くじ引き、提灯づくりバザー、介護相談を実施した。

近隣へのポスティングの成果が出て、200名ほどの来場者があった。

会場内はにぎわっており楽しい雰囲気で終えることができた。

地域の課題や今後の課題

今回は2団体で実施したが、以前（コロナ前）かかわりのあった障害者施設などにも声をかけ、実施団体を増やすことで地域貢献を広げていきたい。

やなか地域包括支援センター カフェやなか

■開催日程 10/16 14:00～15:30

■参加人数 24名

実施の目的

認知症の方とその家族、地域の方など誰もが気軽に立ち寄れる場とし悩み相談や、情報共有を通して、交流を深めることを目的としている。

当日の様子

参加者全員で自己紹介、体操を行った後に医師・薬剤師より1時間程、認知症や身近な薬についての講義を行った。その後、フリートークを行い、参加者より講師に様々な質問をし交流を図った。参加者から普段聞くことができない話を聞くことができ勉強になったと発言があった。会では飲み物や地域の障がい者就労施設で購入したお菓子を配った。



地域の課題や今後の課題

今後も実施内容を参加者のニーズにより変更しながら認知症カフェを継続して行い、誰でも気軽に参加できる交流の場を提供していきたい。また、より地域の方に認知症カフェを知ってもらえるよう周知活動を引き続き行っていきたい。地域の課題としては会場が区境付近にあるため支援がないと来場が困難な方もいることがあげられる。

墨田区特別養護老人ホーム たちばなホーム たちばなカフェ ～カフェから繋がる地域共生社会の輪～

■開催日程 ① 9 / 13 10 : 30～11 : 30

② 10 / 29 14 : 30～15 : 30

■参加団体 墨田区社会福祉事業団「すみだステップハウスおおぞら」、都市型ケアハウス「さんいくハイツ東あずま」、千葉大学墨田キャンパス環境デザイン研究所、墨田区社会福祉協議会、吾妻立花中学職場体験生

■参加人数 110名

実施の目的

当初「たちばなカフェ」は世代や分野を超えて地域と繋がることを目的とした。継続する中で活動が広がり、現在は「交流拠点と相談の場」を目的とする、たちばな版・地域福祉プラットフォームを目指している。

当日の様子

現在14回目の活動をしている。毎回、喫茶形式で飲み物とケーキかプリンを提供している。10回目は吾妻立花中学職場体験生と特養利用者、重度障がい者、地域住民おりがみの会の計14名が参加して、ホワイトボードを利用したお絵描きをした。世代を越えた交流は、非言語コミュニケーションで盛り上がった。11回目は、特養利用者と都市型ケアハウスの利用者。千葉大学環境デザイン研究室の助教と学生、民生委員が参加して助教が準備した薬膳ドリンクの提供や薬膳ブレンド体験にチャレンジした。

地域の課題や今後の課題

今後の課題は、①参加ボランティアが疲弊しないように、更なるボランティアの確保 ②地域住民の参加を増やし、近隣の多世代の住民が参加できる活動内容を考える ③全て寄付金で実施しているので、クラウドファンディング等で運営資金をまかなう の3点がある。また、カフェという形態もあり、地域住民は女性だけだが、独りで生活している地域の男性こそ参加して欲しい。このような取り組みを継続していくことが大切だと考えている。

社会福祉法人品川総合福祉センター かえで荘 しなふく紅葉フェスタ

■開催日程 10/20 11:00～14:30

■参加団体 ①プルデンシャル生命保険株式会社 品川第一支社・大崎第一支社、
②八潮ハーモニー、③クリーン薬局、④八潮学園、⑤NPO法人みんな
の食育、⑥明治安田生命保険、⑦関東電気保安協会、⑧明るい選挙推
進協会、⑨品川児童相談所 等

■参加人数（のべ） 600名

実施の目的

- ①地域の方々に感謝の意を表し、地域交流の機会とする。
- ②施設ご利用者の文化的な活動を推進し、自己実現の機会を増やしていく。
- ③参加型のプログラムを行い、共に楽しみ、地域住民と施設利用者との相互理解を深める。
- ④地域住民に広く周知し、区民相互の地域のつながりを強化し、協力体制を構築していくと同時に、地域福祉力の向上を図る。

当日の様子

オープニングで区長の挨拶をいただき、八潮学園の吹奏楽演奏でオーニング。ステージは1. 八潮学園吹奏楽部 約30名 2. MAPLES（キッズチアダンス）約50名 3. 品川総合福祉センター森のひかり（①リズム舞踊約20名・②手話舞踊約20名）4. 着物リメイクファッションショー（地域より約15名・ご利用者・ご家族・職員参加25名）
会場には、模擬店、お得な野菜販売、パン・ケーキ類の販売、健康活動コーナーでは、先進測定機器の体験と健康相談ができるコーナーを設け、ノベルティ無料製品の提供や、来場者には防災備蓄のプレゼントを、つながひろグッズの布袋に入れて無料配布した。

地域の課題や今後の課題

地域住民の高齢化、一人暮らし高齢者世帯・生活困窮世帯・貧困・ヤングケアラー等社会福祉法人として、地域の課題やニーズに向き合っていくために、講座の開催、しなふく食堂の開催など行っていく。

社会福祉法人 品川総合福祉センター
大井在宅サービスセンター（地域福祉課）
こすもすパーティー

■開催日程 10/5 10:00~13:00

■参加団体 ほっとサロン、東京在宅サービス、よりみち（支え愛ほっとステーション）

■参加人数（のべ） 70名

実施の目的

地域に開かれた施設として、新規利用者のへのPRや地域住民（全世代）との交流を図る場として開催。サービスのニーズヒアリングとしても活用する。

当日の様子

- ・プチレーブの総菜パンと焼き菓子・飲み物販売。
- ・障害者作品販売・お得な野菜販売を行った。普段のプログラムの中から、いくつかを選択し、「セルフマッサージ講座・MC | プログラム体験コーナー・ツボ&温灸体験・ハーバリウム制作コーナー」等実施。

天候が悪く雨天の中、来場者が少なかったため、各コーナー余裕がある状況だった。内容について、参加された方には大変好評だった。

地域の課題や今後の課題

介護予防を楽しく行える場所として、ニーズを確認しながら、新しい企画を模索していく。一人暮らしの高齢世帯に限らず、地域住民が気軽に立ち寄れる憩いの場を目指しています。

中延高齢者複合施設 喫茶『せせらぎ』

- 開催日程 毎月第三木曜日 13:00～16:00
- 参加団体 傾聴ボランティア「クローバーの会」、明治安田生命保険相互会社
- 参加人数 20～30/回

実施の目的

誰でも気軽に集える場にすることを目的に開催。年齢を問わず交流を図り、地域との繋がりを持てるようにし孤立を防ぐ。

当日の様子

焼き立てパンとコーヒーを用意し喫茶店へ出かけるように来館を促している。傾聴ボランティアの協力により、知らない人同士が同じテーブルに着いても楽しく会話が弾み次月の参加に繋がっている。

月毎、様々なイベントも企画し来館の目的へと繋げている（脳年齢チェック、折り紙等）。

昼食を兼ねて来館する方も複数見られた。

参加者からは毎週実施して欲しいとの声が多数。

ボランティアが主体となり参加者の対応をするため、職員の負担が少ない。



地域の課題や今後の課題

元気な高齢者が多くいることが分かったため、いつまでも元気に暮らすことが出来るよう、外出や交流の場としての役割を果たしたい。元気な高齢者が集える場所だけでなく、活躍する場も用意したい。

中延高齢者複合施設 くつろぎ祭り

- 開催日程 10/12 11:00～14:30
- 参加団体 社会福祉法人 福栄会、明治安田生命保険相互会社、近隣小学校
- 参加人数 150名

実施の目的

イベントを通じて福祉施設への来館を促し、身近な存在に感じてもらい気軽に立ち寄れる場とする。気軽に立ち寄り相談が出来るようにする。

当日の様子

オープニングに近隣小学校の金管クラブの発表を行うことで、高齢者施設に馴染みのない若年層の来場が多く見られた。また、3世代での参加も多数あり世代を問わず楽しんでた様子。子ども向けのゲームコーナーも好評で多くの子どもが集まったが、高齢者も一緒にゲームに参加し交流を図ることが出来ていた。

高齢者が中心となり活動している手話ダンスの会にもダンスを披露して頂いたが、発表の場があることが励みになると出演者からも喜ばれた。

地域の課題や今後の課題

施設の園芸サークルで用意した植物の販売を行ったところ、非常に好評であった。また当日の様子にも記したように、高齢者の活躍の場も大切だと感じた。そのようなことから、施設の活動に地域の高齢者の手を借りる（活躍してもらう）ことで、元気な方がいつまでも元気でいられるような支援ができるのではないかと感じた。

品川区立中延在宅サービスセンター

食は生きる源！ 栄養満点のスープで元気をつけよう

■開催日程 11/16 14:00～15:30

■参加人数 8名

実施の目的

子どもから大人まで、一つの鍋で家族全員が食することができる料理で家族の絆を深める事、調理の手間を掛けない事を知ってもらう。また、参加者同士の交流を図る。

当日の様子

併設する特別養護老人ホームの管理栄養士が講師となり、実演でスープの調理を行った。実際の調理はアシスタントが行い、管理栄養士は栄養の話や食材についての豆知識を参加者にレクチャーした。出来上がったスープにパンを添え、実食しながら参加者と職員で交流の時間を持った。高校生から介護者、高齢者と多世代の参加があり、介護の話し（相談）や独居高齢者からの食事に関わる相談等は想定していた話題だったが、参加した高校生から管理栄養士の仕事についての質問があり将来の仕事として考えたいとの意見があった。

地域の課題や今後の課題

介護者が悩みを相談する場としての開催を目的としているが、それを前面に出すよりも身近なテーマがあった方が参加しやすいと感じた。特に「食」は興味を持つ人が多く参加しやすいテーマだと思う。在宅介護を支える家族への支援は今後も継続したい。

今回の活動から学生に向けた福祉の仕事を知ってもらう機会を実施したいと感じた。（特に管理栄養士の役割を知らない中高生は多いので学生向けの講座として開催してみようかと思っている）

品川区立中延特別養護老人ホーム 老人ホームでお手伝いをしよう

■開催日程 ① 8 / 10 10 : 00 ~ 13 : 30

② 11 / 23 10 : 00 ~ 13 : 30

■参加人数 15名

実施の目的

小中学生に福祉施設を知ってもらおうと共に、行き場所のない子どもたちの居場所となることを目的とする。

当日の様子

小学生から高校生と幼稚園児（保護者同席）の計10名が参加。イベントに向けた装飾品の工作を職員、一部ご利用者と共に実施。

ご利用者には、子供たち用の昼食作りをして頂く。ご利用者の調理活動は定期的に実施しているが、「食べさせたい人」がいる状況での活動は、生き生きとしているように感じた。

子どもたちも楽しんで活動をしているように見えた。

地域の課題や今後の課題

昼食を提供する事を事前にアナウンスしていたが、対象と考えていた層の子どもの参加は無かった。参加案内を回覧板、地域掲示板、児童センターにて行っただが、対象としたい子どもの目に触れるには至らなかった。

次回は子ども家庭支援センター等と連携を図りたい。

中延6丁目町会（旗が岡八幡神社氏子町会）

旗が岡八幡神社例大祭

- 開催日程 ①9/7 13:00～21:00
②9/8 10:00～16:00
- 参加団体 中延6丁目町会、中延複合施設
- 参加人数 150名

実施の目的

地元神社の例大祭を地域の町会と協働して行う。施設を利用されている方を含め、地域住民が一体となり、伝統行事を楽しむ。

当日の様子

日中は子供神輿の渡御を高齢者施設のご利用者が応援し盛り上げ、その後「かき氷」を振舞ったが、子ども、大人共に良い交流となった。夜は盆踊り大会を実施。会場に入りきれない程の人数が参加している。

地域の課題や今後の課題

戸建て住宅が多い地域で、親子三世代同居も多く存在するため、世代交代も上手く進み、祭礼も順調に執り行われている。例大祭に合わせ実施する「盆踊り」は比較的高年齢層の住民が担当しているが、施設に入所する方も多く参加しているため、施設スタッフが継続して手伝えと良いと感じた。

社会福祉法人 東京蒼生会 大森老人ホーム ホームdeランチ

- 開催日程 ①9/6 12:15～13:15
②9/9 12:15～13:15
毎月4回実施
- 参加団体 社会福祉法人 東京蒼生会 大森老人ホーム
- 参加人数 187名

実施の目的

地域との交流を目的として、近隣在住の高齢者の皆様を中心にバランスのとれた昼食を提供すること。

当日の様子

12時15分 個々に来園。1階なごみにて時間まで待機（お金の支払）。

時間まで健康や食事について質問などに対応。

夏（7月～9月）は、イオン水を提供。

12時30分 食堂に誘導、配膳。

13時15分 解散。個々 少し談笑されてから帰る

新型コロナの影響で4年ぶりの開催になったが、栄養士を中心に定期的に連絡（年賀状・電話）を取っていたこともあり、再開の周知はスムーズだった。

敬老会の催しにも声かけ、以前のように参加して頂いた。

地域の課題や今後の課題

夏の開催は、ランチのため猛暑が長く続く中での来園となっている。

今後も夏場はもイオン水を提供し脱水防止に努める対応が必要。

参加者の高齢化も見られており、安全に参加できる支援の検討と、参加者が増加した場合のランチ提供体制についても今後検討課題である。

社会福祉法人響会 ひびき ほっとサロン

- 開催日程 ① 9 / 15 10 : 30 ~ 12 : 10
② 11 / 17 10 : 30 ~ 12 : 10
- 参加人数 32名

実施の目的

地域の高齢者の方の、「ほっとできる」「ホットな」交流の場として開催。地域の一人暮らし高齢者、又は高齢世帯の方々に対して、交流の機会と場を設け、孤立感の解消の支援を目的とする。



当日の様子

① 9月15日は、「サックス演奏会」 & 「昼食会」を行った。本格的な生演奏に聞き惚れたり、実際に楽器に触れたりし、「楽しいひと時だった」と、大好評だった。又、無事、数年ぶりに昼食会が再開できた。② 11月17日は、「ポールウォーキング」 & 「昼食会」を行った。ポールウォーキングは、大田区ポールdeウォーク推進協議会リーダーの方を招き、杖の持ち方から教えていただいた。屋外に行くと、「楽しくなってきた」「今後もやってみたい」と声が聞かれた。姿勢良く歩くこと、健康づくりを体験した。

地域の課題や今後の課題

「ひびき ほっとサロン」は、平成28年より始まり、コロナ禍で休止していた時期もあったが、11月の開催で通算27回目となった。地域の高齢者の交流の機会として定着してきていると考える。参加者同士で、イベントの感想を話したり、情報交換をしたりするなど、楽しく参加されている様子であった。「演奏会」「ポールウォーキング」と、参加者が楽しめる企画を行うことができたと考える。今後も、高齢者の社会参加や元気維持・介護予防に寄与していきたい。

社会福祉法人奉優会 等々力の家デイホーム 理学療法士体操教室とAI健康測定会

■開催日程 9/22 14:00～15:00

■参加人数 5名

実施の目的

地域の皆様の健康と生活の質の向上を目的に理学療法士による介護予防体操教室を開催。AIによる歩行の分析体験を行い、歩く能力を可視化した解析結果をお渡しし、ご自身の状態を理解し、今後の運動や体操への参加意欲向上を目的としています。



当日の様子

理学療法士によるマンツーマンの体操セッションとAIによる測定を実施しました。歩行や膝の問題について確認を行い、理学療法士からは具体的な改善策と指導を提供しました。また、「トルト」というAIを利用した歩行分析も行いました。AIから得られたデータを基に、体のバランスの状態を評価し、適切な体操の提案も行いました。参加された方からは、「とても良い機会でした。ありがとうございました」との感謝の言葉をいただきました。

地域の課題や今後の課題

地域貢献活動における主な課題は、広報の不足、参加者数の少なさ、そして分析データを介護予防に活用することです。今後の展開としては、情報提供の機会や時間の確保、地域機関との連携強化、そしてフィードバックを用いたプログラム改善を行っていきたいと考えます。活動の認知度を高め、より多くの参加者に来所頂き、効果的な介護予防活動等を提供していく事を目指したいと思います。

特別養護老人ホーム 博水の郷

博水の郷カフェ

■開催日程 10/16 13:30～15:00

■参加団体 特養博水の郷、デイ博水の郷、居宅介護支援事業所博水の郷

■参加人数 (のべ) 35名 (令和6年度3回開催)

実施の目的

気軽に集い利用できる場として2ヶ月に1回認知症カフェを開催している。ご本人とご家族の癒しの場になるよう介護・看護・ケアマネ等多職種でお迎えしている。今回管理栄養士を中心に介護食の試食会を開催した。



当日の様子

いつもの気軽に話せるカフェの雰囲気に加えて、高齢者の必要なカロリー数や嚥下の仕組みなどを介護職員から伝え、勉強会式方式で実施した。また特養入所者の夕食をお食事形態別（常食、一口大、粗刻み、極刻み、ソフト食、ミキサー食）に提供し、試食会を行った。

実際に試食していただき、管理栄養士や参加職員と参加者がゆっくり話すことができた。ショート利用のご家族からは、在宅での食事作りに参考になったとの感想をいただいた。

地域の課題や今後の課題

地域の高齢者が気軽に集える場所や機会が少ないので、2ヶ月に1回だが楽しみにしているとお声を頂いている。

居場所作りとしてホームページやInstagramへの案内、社協へチラシを持参して活動周知を行っているが、20名の参加者定員までには至っていない。引き続き周知活動を強化していきたい。

社会福祉法人パール（社会福祉活動教育研究所） パールよろず博 2024

■開催日程 ①11/29 10:00～16:00

②11/30 10:00～16:00

■参加人数 2日合計100名

実施の目的

地域住民・関係機関等の皆様に、社会福祉法人パール「福祉総合プラザ」に足を運んでいただき、施設内やスタッフ、ボランティア等の業務・活動を見ていただくことで、「パールってどんな所で、普段何をやっているの?」という役割・存在意義をより理解し、身近な存在として認知していただくことを実施目的とします。今年で5回目の開催となりました。



当日の様子

来訪者の皆様には今年も「間近で見る施設ツアー」より特養やデイサービス、フレイル教室等の見学と「活動報告ポスター展」を見て、「将来お世話になりたいと思い、安心しました」「いろいろなサービスを知りました」等の声を頂戴しました。また「感染予防～手指消毒体験」「介護用品紹介」や、「手作り作品販売」「音楽パフォーマンス」「ハンドケア」「マッサージ」等のプログラムや、「おでん」「抹茶と和菓子」「コーヒーとクッキー」等のイート・コーナーのプログラムで、ゆっくりとお過ごしいただきました。また、今年は「こどもテーブル・スペシャル（サッカー・ゲーム・カラオケ）」も同時に開催し、超世代交流イベントとなりました。

地域の課題や今後の課題

渋谷という大都会において、誰もが取り残されることなく、安心して、その人らしく生きていける環境作りに寄与できるよう、今後も行政・町会・地域の皆様と協力して、様々な機会を作っていきたい。

社会福祉法人パール（社会福祉活動教育研究所）
地域のたまり場・パールライフ
（東京都フレイル地域支援赤十字奉仕団）

■開催日程 毎週月・水・金曜日 11時～14時

■参加人数 429名

実施の目的

高齢化社会を迎え、世代を超えて地域の住民が「声を掛け合い」「助け合い」「支え合い」誰もが安心して一生涯、この地で生活し続けることができる地域社会創造を目指しています。



当日の様子

午前中はフレイル予防を目的とした「体操」「太極拳」。ランチを挟み、午後は「数独」「音楽」「麻雀」「お話し」「英語」「茶道」「書道」など多彩なプログラムを行いました。同じ時間・体験・目標を共有することで、仲間意識、次回への参加意欲に繋がっています。「人と繋がる場所がある」という安心感や、生きがい創りに貢献できています。

地域の課題や今後の課題

地域の元気な高齢者が集まる場所・機会が少ない。今後はコロナ禍以前に実施していた「出張版パールライフ」の再開等も企画していきたい。

社会福祉法人 奉優会 渋谷区総合ケアコミュニティ・
せせらぎ高齢者在宅サービスセンター

職業体験「高齢者と作る絵手紙～季節を感じる作品を～」

■開催日程 ①10/15 9:00～13:00

②10/16 9:00～13:00

■参加人数 2名

実施の目的

福祉の現場を体験する事で、高齢者介護について理解を深めて頂く。

当日の様子

はじめはご利用者とのコミュニケーションや歩行など日常動作のペースなど戸惑う様子が見られましたが、職員からのフォローを受ける事でだんだんと慣れてきている様でした。お茶出しや脳トレ、体操を通じて次第にご利用者の笑顔を引き出せたり、お互い笑い声が上がる時間を過ごしていました。

地域の課題や今後の課題

今後も様々なボランティアの方を受け入れていきたいと考えております。＜職業体験＞を通じて福祉の業界を知っていただき、遣り甲斐などを見出していただければ幸いです。

区民ひろば西巣鴨運営協議会 にしすがも友遊まつり

■開催日程 10/5 13:00～15:30

■参加団体 西巣鴨新田町会、庚申塚町会、菊かおる園、小菊の家、西巣鴨小学校及びPTA、子どもスキップ西巣鴨、大正大学、淑徳巣鴨中学高等学校、巣鴨北中学校PTA、第一地区青少年育成委員会、巣鴨地区民生児童委員会、巣鴨庚申堂奉賛会、庚申塚商栄会、豊島区民社会福祉協議会

■参加人数 296名

実施の目的

- ・ 地域における世代間交流
- ・ 豊島区が推進するSDGsの普及啓発 等

当日の様子

<オープニングセレモニー>

■会長挨拶 ■西巣鴨小学校児童有志による「にしすっ子ダンス」

<区民ひろば西巣鴨第一>

■SDGsコーナー ■防災コーナー ■ダーツ ■ソースせんべい

■チョコバナナ ■カフェ

<区民ひろば西巣鴨第二>

■缶つみゲーム ■千本つり ■昭和の遊びを楽しもう

子供、親子、高齢者それぞれ参加者が各コーナーやゲーム等を楽しみ、活発な地域交流・世代間交流が図られた。

地域の課題や今後の課題

依然として運営協議会における町会等の地域選出メンバーは高齢者が主であるため、子育て世代等の若い世代の参加が増えるよう、方策を検討していく必要がある。

特別養護老人ホーム 癒しの里 南千住 いやし食堂

■開催日程 ①10/26 12:00～13:00

②11/23 12:00～13:00

毎月第4土曜日 12時～13時

■参加団体 南千住西部地域包括支援センター、じんデンタルクリニック、足立区役所

■参加人数 45名

実施の目的

特別養護老人ホームで働く管理栄養士や機能訓練指導員、連携している歯科医師等の専門職がミニ講話を行い、様々な知識を学ぶだけでなく、いやし食堂での食事を通して地域の交流の場となることを目的としている。



当日の様子

20分程度機能訓練指導員が体操を行ったり、管理栄養士や歯科医師等、癒しの里南千住に関わる様々な専門職の講話を聞いた後は、実際に特別養護老人ホーム癒しの里南千住で提供を行っている食事を提供。(参加費500円)

食事中はテレビを見たり、参加者の方と話しながらコミュニケーションを図っている。

地域の課題や今後の課題

参加メンバーの集客方法として、近くの地域包括支援センターより声掛けしていただき集客を行ったり、参加者が近隣の友人を誘い、毎回10名程度参加されているが、6月から新しく始まったため、参加者が安定しないことが現状の課題。

今後も特別養護老人ホームに通うきっかけを作り地域の方々に施設を知ってもらうことや交流の場の提供だけでなく、他のサロンでは聞くことが出来ない専門的な講座を行い、参加される方が知識を持って帰る事が出来るよう活動の計画を行っている。

関町特別養護老人ホーム

つながりの輪をひろげよう～認知症にやさしい地域づくり～ パネル展示と体験イベント

■開催日程 10/27 11：00～14：30

パネル展示は、10/24から10/30まで実施

■参加団体 同法人：関町デイサービスセンター、関町訪問介護事業所、関町居宅介護支援事業所、関町地域包括支援センター、はつらつセンター関

■参加人数 200名

実施の目的

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるために、認知症の理解を深め、様々な介護サービスの理解や認知症の人への対応を地域の方に理解していただく。

当日の様子

特養の秋祭りと同時開催し、特養の家族、地域住民や子供も多く参加していただいた。パネル展示の他に、認知症相談コーナー、脳血管年齢測定、回想法、図書紹介などを実施し、各ブース共に盛り上がっていた。

地域の課題や今後の課題

特養の建物の中に、様々な部署が併設されており、高齢者福祉の相談から介護保険の在宅サービスから施設サービスまで1箇所でも網羅できる形になっている。地域の拠点として、今後益々地域に対して認知症ケア等広く広報し誰もが安心して生活できる地域づくりを目指していきたい。地域包括ケアシステムの確立に向けて、地域との連携強化を図っていきたい。

第3 育秀苑（特養・認知症対応型サービス） なないろカフェ（オレンジカフェ）

- 開催日程 ①10/8 10:00～11:30
②11/12 10:00～11:30
毎月第2火曜日 10:00～11:30
- 参加人数 30名

実施の目的

認知症になっても住み慣れた地域で生活が継続できるように、地域の皆様に認知症について知っていただく機会となり、認知症や介護に関して気軽に相談できる場所となる。

当日の様子

10月8日は雨が降っていたが、来店された方はゆっくりとお茶を楽しまれた。一人で来店した方も職員が話しかけをし、相席を勧める事で地域の輪の広がりを感じた。

11月12日は多くの方が来店し、認知症の事について短い時間だが講話を行った。子どもを連れた子育て中の方も来店しキッズコーナーで遊んだり、子どもが飲み物を運ぶお手伝いをしている姿もあった。

地域の課題や今後の課題

地域の方とおしゃべり出来る場所ができて嬉しいと話される方がいる一方、来店された方の中にはまだ地域に慣れていないという方もおり、この取り組みを通じ孤立することなく地域で暮らし続けられる支援の必要がある。

引き続き、認知症の人や地域住民が集まれる場所にし、介護や認知症の講話や相談を行い、認知症になっても安心して住み慣れた地域で生活が出来るようにしていきたい。

社会福祉法人 泉陽会 第二光陽苑

第二光陽苑 秋祭り

■開催日程 10/20 11:00～15:00

■参加団体 社会福祉法人 泉陽会 第二光陽苑、社会福祉法人 章祐会 障害者支援施設 やすらぎの杜、練馬区立 関中学校、セブンイレブン 石神井高校前店、福祉用具販売 貸与 株式会社ヤマシタ

■参加人数（のべ） 300名

実施の目的

- ・ 地域交流
- ・ 介護や福祉に理解を深める機会の提供

当日の様子

飲食模擬店やゲームコーナー、介護ブース（高齢者疑似体験・車いす体験・福祉用具紹介・介護相談・骨密度測定）を実施。練馬区のゆるキャラ「ねり丸くん」が来場し会場に華を添えた。お祭りのフィナーレは近隣の中学校のウインドアンサンブル部による吹奏楽のコンサートを開催し大盛況であった。

コロナ禍もあり、屋外で地域の方を招いて行うイベントは7年ぶりであったが、当日は天候にも恵まれ、子供から高齢者まで幅広い年齢層の方が来場し、楽しんでいただけた。

開催にあたっては地域の町会や学校関係・業者にもご協力いただいた。



地域の課題や今後の課題

- ・ 今後も引き続き多様な地域貢献活動（出張介護教室や近隣清掃等）を行っていく。
- ・ 行事に関しては、施設側が提供するだけでなく、より多くの地域の方の参加協力（例：模擬店やフリーマーケットの出店等）や、地域の力・資源を活用できるような内容を目指していく。

練馬区社会福祉事業団 富士見台特別養護老人ホーム

地域をきれいにしよう！

■開催日程 毎月第2水曜日、第4火曜日 9時45分～10時半まで

■参加人数 10名

実施の目的

地域にひらかれた施設を目指して、施設周辺の住宅街や商店街を綺麗にする。

地域に暮らす方々との交流を増やすために商店街でのイベント参加や施設に入居されているご利用者と地域の方が関われる場繋ぎ。



当日の様子

参加職員は、2グループに分かれてゴミ袋とトングを持参し、腕章をつけて施設周辺の住宅街と商店街に清掃活動を行った。

周囲に緑も多く、秋には落ち葉がひろがるため、ゴミ袋いっぱいの落ち葉が拾える。近隣の方と挨拶を交わしたりと交流の場となった。また、商店街では、ボランティア活動をさせてもらっているカフェ店の方に駐輪許可を頂き、施設から自転車で商店街へ向かった。駅に向かう方やお散歩中の高齢者の方からも「こんにちは、ありがとうございます」等のお言葉を頂く事ができた。

地域の課題や今後の課題

施設職員と地域に暮らす方々との交流は広まりつつあるが、施設に入居されているご利用者と地域の方がより多く関われるように、商店街とのパイプを活かしていきたい。商店街イベント開催の際には、施設の開放や、お客様を案内する機会を増やしていきたい。

介護老人福祉施設ケアホーム足立 あだちご近所マルシェ

- 開催日程 毎月第2木曜日、隔月第4土曜日 11：30～14：30
- 参加団体 tgcg、にぎりむすび、カフェノトリコ、cocokaRa Co.乃梨子、おにぎりWITH ～ウィズ～、西伊興ひまわり園、平成デイサービスセンター足立ほか
- 参加人数（のべ） 120名

実施の目的

地域交流及び地域公益活動を継続するため、敷地内駐車場を利用して他の社会福祉法人や地域活動団体による販売会を開催。施設利用者だけでなく地域の方、他施設の方も利用可能。



当日の様子

ご近所の方、施設利用者様、施設職員も買い物を楽しむ様子がみられた。施設職員によるバンド演奏なども好評だった。

地域の課題や今後の課題

今後は高齢者の方がより利用しやすい内容を検討していきたい。

高齢者在宅サービスセンター西新井 ボランティア活動紹介・交流会

- 開催日程 ①11/8 13:30~15:00
②11/16 13:00~15:00
2024/11/18 10:00~11:00
- 参加人数 41名

実施の目的

当法人で活躍中のボランティア同士の活動紹介、交流の機会です。

一人で活動している方でも、団体で活動している方でも新たなつながりと広がりを持って、ボランティア活動の発展を目指して開催しています。



当日の様子

11月8日実施のステンシルアート体験では、教える側から教わる・作る側になって体験しました。11月16日の折り紙の会の折り紙体験では、実際に通所介護サービスのご利用者様の活動として行っている事も知って頂きました。11月18日のスマイル体操体験では、通所介護サービスの朝の体操の一コマとしてスマイルサポーターボランティアが行っている『スマイル体操』を体験。その後、通所介護サービスのレクリエーション活動のボウリングやストラックアウトなどで楽しく体を動かしました。互いの活動を知る楽しい会となりました。

地域の課題や今後の課題

私たちの法人は、多くのボランティアにより、多くの事業を協働で開催することやご利用者様へのサービスの充実を図っています。ボランティアを受け入れることで新たな人材の発掘や地域の困りごとの発見など地域の情報交換にも至っています。これからもボランティア活動に興味、関心がある方が活動しやすく親しみのある場所、施設を目指します。また、今後は、他の施設の情報も得ながら、ボランティアを必要とする所と活動場所を探している人をつなげることができるような取り組みも目指すことができたらと考えています。

社会福祉法人聖風会 花畑あすか苑
あすかフェスティバル 2024
heart to heart ー花咲く笑顔でー

■開催日程 ①11/2 10:00～16:00

②11/3 10:00～16:00

■参加団体 花畑あすか苑、花畑地域学習センター、大鷲会江戸あだち太鼓 ほか

■参加人数 500名

実施の目的

ふれあいまつり（花畑地域学習センター主催）と連携。花畑地域一帯での絆をより深める機会とする。合同でのお祭りを開催することで入居者やその家族、地域住民との交流の機会を設け、お楽しみいただく。また、当施設のPRの場としてこのお祭りを活用していくことを目的とする。



当日の様子

地域住民に対しても1階エントランスや駐車場を開放。多くの子供たちが“遊び”に参加してくれました。

その中で、足立区の郷土芸能保存会の一員として活躍されている大鷲会江戸あだち太鼓の皆さんによる演舞。同じく足立区中心に活動されているキッチンカーも多く出店。当施設の機能訓練指導員による“みんなで行う健康体操”など、企画盛りだくさんで盛大に開催することができました。

地域の課題や今後の課題

新型コロナウイルスの流行も長く続き、停滞していたものも改めて動き出さなければなりません。この合同開催のお祭りも、何年かぶりに地域住民を巻き込んで行うことが実現できました。引き続きこのお祭り自体も継続し、またカフェサロンの運営などを通じて地域の方々に花畑あすか苑のことを知っていただけたらと考えます。

これからも地域に根差し、地域と共生していける施設を目指します。地域の情勢やニーズを汲み取り、貢献していくための活動を今後も展開していきます。

社会福祉法人 聖風会 足立新生苑 クローバー大学

- 開催日程 ① 9 /24 10:00～11:00
② 10/22 10:00～11:00
毎月第四火曜日 10:00～11:00
- 参加団体 当事業所の職員が講師を担当しているが、内容により外部講師に依頼することもある。
- 参加人数 (9月～11月) 57名

実施の目的

『クローバー大学』とは、地域住民に向けたレクリエーション大学である。職員が講師となり“カラダがほぐれて、ココロも遊ぶ”そんな様々な学びの講座を開催している。

当日の様子

9～11月は以下のテーマで開催した。

- ・ 9月24日「介護保険及び保険外サービスについて」
- ・ 10月22日「特養とは」
- ・ 11月26日「介護用品の紹介」

参加者にアンケートを実施したところ、

「介護費用が掛かっても、一日中の企画でも良い」、「触ったのも初めてであった。良い体験でした」、「こちらに参加せてもらって知らないことが沢山。教えて頂けると嬉しい」など、参加者全員から好評であり、今後に期待するコメントも多く寄せられている。

地域の課題や今後の課題

参加者は全員が女性である。男性の孤立が地域の課題となっているが、男性でも参加のしやすいテーマや工夫が必要と考える。また、次のステップとして、ボランティア活動や就労の担い手につながるなど、地域の高齢者である参加者の社会参加、活躍の場を提供することが出来ればと考えている。

特別養護老人ホーム 新田楽生苑 新田しまなみ祭り

■開催日程 10/6 11:00～16:00

■参加団体 社会福祉法人トポスの会ウィズユー、社会福祉法人白寿会プレミア扇、社会福祉法人東京コロニー東京都葛飾福祉工場、株式会社りあんサポート、龍虎太鼓、SHINDEN to⁺、明治安田生命保険相互会社、フランスベッド株式会社、特定非営利活動法人Chance For All（駄菓子屋irodori）、にぎりむすび、キッズ・ヴィレッジ、スマイルリンク、基幹地域包括支援センター、足立区新田地域学習センター、千住消防署宮城出張所、千住消防団第八分団、足立区新田町会など

■参加人数 670名

実施の目的

- ①福祉と防災について、地域の方々特に小学生やその家族に興味関心を持っていただく。
- ②地域で活動されている方々や福祉関係の方々の協力を得て開催し、団体の方々にこの地域に興味関心を持っていただく。



当日の様子

利用者の方々はお祭り特別昼食の後、和太鼓を鑑賞した。当時を思い出し懐かしむ声や涙を浮かべながら喜んだ方もおられた。

会場では福祉と防災をテーマに「体験」できるコンテンツを複数用意した。「体験」は子どもから大人（若い世代）に人気があり、特に起震車は人気があり行列が絶えなかった。また、団体同士の交流では新しい企画や事業拡大につながっている。

地域の元気な高齢の方から急遽お手伝いを申し出て頂けるなど、開設して間もない当苑を気にかけて手を差し伸べてくれる方々がいられた。

地域の課題や今後の課題

参加人数や当日の状況から目的については概ね達成できた。しかし、この地域は川に囲まれた特殊な地域であり、公共性の高い社会的資源が不足していたり、防災に関する特殊な課題などがある。新住民も多く、住民間での地域への関わりの格差が生じている。開所間もない当苑においては、地域の認知度としてはまだ低く、同時に地域福祉への取り組みが不足している。

そのため、今回の行事を機に地域の方々、福祉・NPO関係の方々と生まれた新たなつながりを基に、熱意ある職員と共に介護レベルの向上、地域福祉の推進を行っていく。

特別養護老人ホーム奉優の家 地域高齢者への見守りを兼ねた宅配パントリー

■開催日程 毎月第4火曜日 16:00~18:00

■参加団体 さくら彩、佐野町会婦人部、児童民生委員、他法人、ボランティア

■参加人数 82名

実施の目的

地域の高齢者が抱える食の不安や孤立を解消するため実施しています。食材を無料で届けることで、経済的負担を軽減するとともに、高齢者とのつながりを深め、見守りや孤立予防の役割も果たしています。

当日の様子

残暑厳しい中、ボランティアメンバーが地域の高齢者の方々にお米や野菜、飲料や冷凍食品などの食材を届けました。私たちの到着を待っていてくださる利用者の皆様は、食材を受け取ると、喜びと感謝の表情を見せてくれました。「いつも心待ちにしています、本当にありがとう」と感謝を伝えてくれます。配達先では、笑顔が交わされるなど、温かい雰囲気が広がり、利用者の方々が安心して食生活を支えられている様子が伝わります。この活動を通じて、私たちは地域との結びつきを深め、支え合う関係性の大切さを改めて感じることができました。



地域の課題や今後の課題

地域の高齢者支援では、買い物や食事準備が困難な方が増えていることが課題です。このような方々が安心して生活できるよう、宅配パントリーを通じて食材支援を行っていますが、今後はさらに多くの高齢者のニーズに応えられるよう取り組む必要があります。また、食材配布だけでなく、地域の高齢者が集える場やコミュニケーションの機会を増やし、孤立を防ぐことも目指します。今後も地域の課題を共有し、支え合うネットワークを強化しながら、活動を継続・発展させていきたいと考えています。

社会福祉法人 なぎさ和楽苑 なぎさ☺フードドライブ

■開催日程 ① 7 / 22 10 : 00 ~ 18 : 00

② 11 / 11 10 : 00 ~ 18 : 00

12月23日～25日、3月24日～26日

■参加団体 社会福祉法人 なぎさ和楽苑、えどがわっ子食堂ネットワーク、フードバンクジョイライフ、信濃運輸株式会社

■参加人数 48名

実施の目的

食品ロス問題からフードドライブへつなげる取り組み。主に家庭に余っている食べきれない食品を持ち寄り、必要としている『個人の方』にお届けしする活動。

当日の様子

地域の住民やボランティアの方々、施設の職員、協力企業等に寄附を呼びかけ、集まった食材を必要な方にお届けしています。夏休みや冬休み等の長期のお休み前などを中心に実施しています。昨今の物価高もあり、お米や缶詰、冷凍食品などの支援に本当に助かっていますとの感謝の言葉が聞かれています。

地域の課題や今後の課題

支援を必要としている方に情報と食材をお届けしたいと考えています。利用制限を設けていないため、回数を重ねていく毎に利用世帯が増えている現状のため、食材の確保が喫緊の課題となります。

社会福祉法人 なぎさ和楽苑

多世代型の子ども食堂「なぎさ★キッチン」

■開催日程 ①9/28 16:30～18:30

②10/26 16:30～18:30

毎月第4土曜日 16:30～18:30

■参加団体 社会福祉法人 なぎさ和楽苑、ボランティアグループ たんぽぽ、ボランティアグループ なぎさグループ、フードバンクジョイライフ

■参加人数 219名

実施の目的

同じ地域に生活している高齢者と子ども達が食事を通じて世代間交流を図り、孤食の防止や栄養バランスのとれた温かい食事を提供する。また、日常生活の悩みや課題について相談支援を行う。

当日の様子

地域のボランティア、施設の管理栄養士と職員が意見交換しながら献立を考え、協力して調理をしています。4月～6月まではコロナ禍の対応として、50食を超えるお弁当のお渡しをしてきました。7月からは対面式のキッチンとして、当日は地域の住民および子どもたちが集まってワイワイと和やかな雰囲気の中で食事をしています。食事開始の1時間前から入館でき、学習支援や居場所づくりの時間として開放、交流の場を設けています。

デザートには、かき氷、スイカ割り、綿あめなど、イベント的な催しも行っています。

地域の課題や今後の課題

食事の支援や居場所を必要としている子ども達にもっと参加して欲しい。学校へQRコード付のチラシを配布し、Instagramでの情報を発信してますが、大人の参加が多い傾向にある。

社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑 若年性認知症カフェ「あしたばカフェ」

- 開催日程 10/20 13:30～15:30
- 参加団体 なぎさ和楽苑、若年性認知症支援事業家族会（あしたば会）
- 参加人数 27名

実施の目的

若年性認知症の当事者、家族、ボランティア、地域の方々、職員がカフェを通して交流をし、認知症の理解を深め啓発活動を行う。当事者や家族がコーヒーのマスターや配膳の役割を持つことで達成感や楽しみに繋げる。

当日の様子

今回の主なプログラムでは、理学療法士である当事者家族より、座りながら自宅でも出来る健康体操をレクチャーしていただき、身体を動かす効果を実感するとともに認知症予防の大切さについて身体を動かしながら楽しむことできた。また、苑内の菜園で収穫したサツマイモを販売し、予め当事者が掘っておいたものを、焼き芋にて提供し好評であった。プログラムをしながらも、当事者、家族同士の交流もでき、初めて参加された方やオンラインで参加した方とも、会場で参加されたご家族同士とマッチングをして日頃の悩みを吐露する様子が伺えた。

地域の課題や今後の課題

若年性認知症に特化したサービスが少ない中、オンライン参加の選択肢を残すことで、江戸川区の方だけではなく、他区、他県で相談場所がなく悩まれている方もいらっしゃることに気づくことができたため、ハイブリット形式を残し、参加者の範囲を広げて若年性認知症支援事業を広く知っていただく機会につなげたい。初めて参加された方や継続して参加してくださっている方のお声を聞き、楽しいイベントになる様、当事者、家族、ボランティアで協力し、ともに考えていく。

社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑 アルツハイマーデー

- 開催日程 9月1日～9月30日の一か月
- 参加団体 なぎさ和楽苑
- 参加人数 100名

実施の目的

9月21日国際アルツハイマーデー（認知症の日）の取り組みで、9月1日から30日までの一か月間をアルツハイマーデー月間として認知症への正しい理解に向けた普及活動を目的としている。



当日の様子

施設全体の取り組みとして、オレンジをテーマとしてアルツハイマーデーの紹介を兼ねたポスターと共に装飾をする。

9月の施設イベント（秋祭り、体操教室）で地域の参加者に認知症の理解についてのリーフレットと、アルツハイマーデー普及記念品（缶バッジ）を配布。

9月20日に職員、ボランティアを対象として認知症の正しい理解についての研修会を実施。

地域の課題や今後の課題

ボランティア、職員を対象として認知症についての理解を目的として研修会を実施した。認知症に関しては、なんとなく知っているが正しい理解、疑問など多く抱えている方などの多数の声があるため、次年度は地域にむけての発信としセミナーの開催を検討していく。

また、アルツハイマーデーに限らず、専門職として認知症への正しい理解に繋がる啓蒙活動となるよう、特養、デイサービス、地域包括支援センターなど、地域に向けて発信していく事を継続していく。

八王子介護フェア実行委員会 第8回八王子介護フェア

■開催日程 10/26 12:50～16:15

■参加団体 社会福祉法人一誠会・社会福祉法人多摩養育園・社会福祉法人清心福祉会・社会福祉法人八王子心成苑・医療法人社団東京愛成会・社会医療法人社団愛有会・医療法人財団敬寿会・医療法人社団珠泉会・株式会社シルバービレッジ・東京都医療ソーシャルワーカー協会・八王子市社会福祉協議会など

■参加人数 204名

実施の目的

「楽しく介護を知ろう」をテーマに、地域公益活動の一環として、ソーシャルワーク機能を生かしたアウトリーチ事業を行うとともに、参加施設・事業所の広報活動を行う。

当日の様子

今年のイベントテーマを、元日に発生した能登半島地震の影響から「大規模災害への対応 ～日ごろから備えよう！今からできる自助努力」とした。市職員による要配慮者支援への取組の基調講演から始まり、能登半島地震で被災された石川県の高齢者福祉施設職員を招待し、体験談を語っていただいた。講演以外の会場では、非常食の試食など今年のテーマに因んだブースから、利用者や入院患者の作品展示会、認知症体験VRやストレス測定、大学生主催のコミュニケーションロボットなど、介護に関連したブースも多数あり賑わいを見せていた。



地域の課題や今後の課題

主催した3法人による模擬店、民間企業による介護食や非常食などの試食コーナーも再開した。今回、あくていぶる君には、能登半島地震の応援募金活動をイベント中に担っていただき、来場者からも好評であった。

課題としては、実施している会場の立地面も含め、イベントテーマに興味を持った方々しか参加する機会がないことや、地域の子どもやその親世代の関心が得にくく、参加される方々の高齢化が目立った。

飲食を伴う模擬店などを再開しているため、昼食を兼ね楽しくイベントに参加していただくための企画や構成を検討していきたい。

社会福祉法人 恵比寿会 羽衣センター祭り

■開催日程 11/23 10:00～14:00 月に3回実施（月曜日固定）

■参加人数 バザー約150名 講演会36名 喫茶57名

実施の目的

当センターは住宅街に立地しており地域住民との関わりがかけないことから、交流を目的として毎年開催している。

当日の様子

開始前より多くの方がいらしており、10時になるとバザーに人が流れ混雑するようになった。昨年コロナ明けでバザーを再開した際、会計が一か所のみの設置だったため列が出来てしまったが、今年は二か所としトラブルなく対応出来た。

医師による講演会を10時30分より開催した。想定を上回る方が参加され、椅子を増やし資料を増刷して対応した。約一時間の講演であったが熱心に耳を傾けておられた。

喫茶では、お飲み物にお菓子をセットにして提供した。こちらも想定を上回る方がいらしたがトラブルなく終えることが出来た。

地域の課題や今後の課題

高齢化率の高い地域であり高齢者世帯も多く、介護を必要とする本人又は配偶者にトラブルが発生した場合、在宅生活が困難な状態に陥ることが多い。羽衣地域福祉センター各事業が連携して認知症家族の集いや小地域ケア会議、運営推進会議などの諸活動から得られた情報を共有し、住み慣れた地域で生活が継続できるよう支援していく。地域との繋がりを持つ意味でも羽衣センター祭りを継続していく。

センター祭りでは、ボランティア登録をされている地域の方が設営を手伝ってくれた。そのような形で地域との繋がりも広げていきたい。

特別養護老人ホームとらいふ武蔵野 もしもの会

■開催日程 11/17 14:00～15:00

■参加団体 特別養護老人ホームとらいふ武蔵野、特別養護老人ホーム三鷹げんき

■参加人数 10名

実施の目的

今回のもしもの会は、職員・家族等の介護者が介護者の気持ちを交換することで、①孤独感・不安感の軽減、②ストレス発散、③励みとモチベーションの向上、④学びと自己成長、において効果を得ることを目的に実施。



当日の様子

特養入居者、入居者家族、特養で看取りを終えたOB家族、地域住民、他施設の責任者が集まり、「介護のきっかけや背景」「介護を始めてからの考え方の変化」「日常の介護で大変なこと」「気分転換やリフレッシュについて」「不安やプレッシャーへの対処法」「周囲の人からのサポートについて」「介護をされていて感じた小さな幸せ」「他の介護者と話して役に立ったエピソード」「介護施設に望むこと」等について各自の考えや実体験を披露し、活発な意見交換を行った。

地域の課題や今後の課題

5類に移行されてもコロナ感染そのものに変わりがなく、クラスターも発生する中、どのように面会を始めとした外出・外泊・ボランティア受入等に対する規制緩和を行っていくか、地域にどこまで施設を開放していくかが現在の課題である。又、地域においても各種行事は再開しているものの、内容についてはコロナ禍前と同じ状態にまでは戻していない。そこを今後どうしていくか、高齢化が進む中でどのように世代交代を図っていくか、といったことが大きな課題となっている。

社会福祉法人 多摩同胞会 安心シニア塾

- 開催日程 ①12/19 10:00～11:30
② 1/16 10:00～11:30
③ 2/20 10:00～11:30
④ 3/20 10:00～11:30
- 参加団体 多摩同胞会 あさひ苑、泉苑、緑苑
- 参加人数 71名

実施の目的

市民のみなさまが豊かなシニアライフを過ごすため、安心して老後を迎えるために必要なことについて一緒にお考えいただくことを目的とした取り組みです。



当日の様子

「元気な高齢者でいるために」というタイトルで、地域包括支援センターに所属の看護師から、医療を中心とした様々な情報提供を行いました。

60名定員のところ、83名の応募があり、当日は71名の方が出席し、大盛況でした。

地域の課題や今後の課題

- 1/16 「認知症について学び、考えてみましょう」
- 2/20 「介護保険制度などの上手な使い方について」
- 3/30 「あらためて考える老後の住まいについて」

以上で、【基礎講座】を終了し、次年度の応用講座につなげていきます。

社会福祉法人多摩養育園 府中市立介護予防推進センター いきいきプラザ地域合同防災訓練

■開催日程 9/7 9:50~11:00

■参加団体 いきいきプラザ（府中市立介護予防推進センター・光明高倉保育園）・
分梅高倉自治会・食育推進リーダーパブリカ・府中消防署(分梅出張所)・
府中市防災危機管理課

■参加人数 100名

実施の目的

ひとり一人の防災意識の強化を目的の一つとしています。防災訓練を通じて、地域交流を図り、人と人が協働した関係づくりを進めることで、住み慣れた町で、その人らしい人生がおくれるまちづくりを目指しています。

当日の様子

天候にも恵まれ、煙体験と消火体験、起震車体験、防災危機展示、防災食試食など地域の方、保育園園児・保護者、利用者等100名あまりの方が、防災訓練に参加していただけた。また、自治会、市民団体の方との協働事業としても、意義あるものになっている。

地域の課題や今後の課題

分梅高倉自治会との共同開催の旨を保育園保護者にもお知らせしているが、参加者は一部なのが今後の課題。令和7年度は、分梅町連合会（9自治会）地域合同防災訓練を3月の日曜日にいきいきプラザで開催予定としている。防災訓練を通じて、地域との密接な関係づくりを進めている。今後の課題は、府中市全域の自治会連合会との連携を進めていきたいと考えている。

社会福祉法人 緑友会 だれでも食堂「おがワン広場」

- 開催日程 9/22 11:30~13:00 毎月第4日曜日
- 参加団体 2層協議会メンバー
- 参加人数 60名

実施の目的

温かい食事のできるほっとする居場所を作りたいという、2層協議会での話し合いのもとで小川ホームの公益事業として立ち上げた食堂。子ども、高齢者、障がいのある方もみんなが交流できる居場所といっていきたい。



当日の様子

毎月楽しみにして来てくれている方や表の看板やのぼり旗を見て来てくれた方など開始前より待ってくれる方がたくさんいた。子ども達の遊び場スペースを作っている中で、そこで遊ぶ子どもや椅子に座りおしゃべりする高齢者など待っている間も交流の場となっていた。デイサービスの活動室を利用して実施しているので、季節に合わせた飾り付けがされており、来てくれている方にも好評である。食事をしながら、同席になった子どもに話しかける高齢者の姿も見られ、穏やかな時間が過ぎていた。

地域の課題や今後の課題

高齢者施設であるため、やはり高齢者の方の参加が多くなっている。今後地域の子どもやその家族に「だれでも食堂」もっと知ってもらい、もっと子ども達の参加が増えるようにしていきたい。地域の小学校や中学校の校長先生が来てくださったりおり、少しずつ周知され始めたが、今後地域の保育園や幼稚園等にも広報活動をしていきたい。

社会福祉法人 緑友会 ふれあい交流イベント おがワンフェスティバル

■開催日程 10/22 10:00～14:00

■参加団体 2層協議会「みらい」・緑成会病院・東洋商事・富士見住宅自治会・小川中宿会（老人会）・白梅学園大学・小平市社協・Dekoneko（猫保護団体）・リズム工房（障がい者支援施設）・ボサノバアーティスト・パン、クッキー販売（あさやけ作業所、小平第2みどり作業所、生活介護事業所ひまわりばたけ）・ガールスカウト・パキスタン料理店・ロミロミマッサージ

■参加人数 400名

実施の目的

地域の方、地域で活躍する団体、企業、大学、病院、行政、障がい者関係の方などが交流する機会として、またそれぞれの活動を知ってもらう機会として実施するフェスティバル。

当日の様子

それぞれの団体の方からの周知や地域への広報も計画的に実施したので、当日はたくさんの方が参加してくれ賑やかだった。たくさんブースがあったので、それぞれの所に行ってくれるようにスタンプラリーにし、すべてを回った方には景品を渡した。バザーや作業所の販売、企業による冷凍食品販売、飲食販売、飲食場所などは外で実施し、デイサービス活動室でのステージでは、障がい支援施設の人形劇や盲目のボサノバシンガーの音楽、地域の方のバンド、新舞踊など出演してくれ、子どもから高齢者まで大盛況だった。



地域の課題や今後の課題

今回で3回目の実施となったが、少しずつ協力してくれる団体が多くなってきているが、毎年新しい団体や企業、学校などにも協力依頼を広げていきたい。まだまだ、地域の方でも知らなかったとの声も聞かれているので今後も広報活動を頑張っていき、たくさんの方々が交流でき、繋がれるフェスティバルにしていきたい。

社会福祉法人 村山苑 村山苑 ふりば

■開催日程 9/22 10:00～14:00

■参加団体 紙芝居師あんぢ・けやき第一作業所・社会福祉法人ネットかりん・シンヨーケアサービス・ほんちょうカフェ・本町高齢者見守りネットワーク「本町だいじょうぶだぁネット」・本町サロン・明星大学ダブルダッチ同好会「Shaking key!!」※その他、地域の皆様によるフリーマーケットなど

■参加人数（のべ） 150名

実施の目的

村山苑が社会福祉法人として地域住民の生活を支える一役を担い、地域共生社会の実現に貢献するため、多団体との連携のもと地域の方に楽しんでいただける催しを開催する。

当日の様子

雨天となり急遽会場レイアウトを見直したが、各団体のご協力のもと、うまく場所を調整することができた。キッチンカー2台（黒焼きそば・ケバブ）の他、ポップコーンや綿あめ、かき氷、駄菓子、焼き菓子などを提供。その他、地域の方によるフリーマーケット、学生によるダブルダッチのパフォーマンスと体験、プロによる紙芝居など、多種別（高齢・障害・保育）を運営する社会福祉法人らしく、高齢者から子どもまで楽しめる内容で実施ができた。職員も参加者も地域のみなさんも、同じように楽しみ、笑顔がたくさん見られた時間となった。



地域の課題や今後の課題

「村山苑 ふりば」は、コロナ禍により希薄になってしまった地域との繋がりを再構築すべく、「地域のために何ができるか」を考え作り上げたイベントです。R4年度に初めて企画をするものの台風により中止、R5年度に初開催、今年度は2回目の開催となりました。来場者に楽しんでいただきたい、ご協力をいただく地域の方や他団体にとっても交流の場になってほしい、という思いから、誰もが気軽に参加できる「フリーな場」→「ふりば」という名になりました。継続していくことで地域に根付いたイベントになれば嬉しいと思っています。

社会福祉法人 村山苑 リハビリ・運動教室

- 開催日程 ① 9 / 4 10 : 00 ~ 11 : 30
② 9 / 18 10 : 00 ~ 11 : 30
毎週第 1 ・ 3 水曜日 10 : 00 ~ 11 : 30
- 参加人数 60名

実施の目的

- 地域で、在宅で、自分らしい生活が継続できるよう支援する。
- 人と人とのつながりを通して個々の生活課題や地域の課題にアプローチする。

当日の様子

- 受付で体温・血圧等のバイタルチェック。
- 準備体操…ペットボトルを使ったダンベル体操。
- 脳トレ。
- 下半身運動・デュアルタスク（二重課題）・リズム体操。
- モフトレ（計測機材）を用いた運動能力テストにて現状の運動能力を知ってもらう。



地域の課題や今後の課題

- 最低 3 名のスタッフで対応している。集団体操のみなら 20 名くらいの対応が可能だが、見守りも含め 1 日 10 名程度の受け入れとなってしまふ。
- ボランティア募集をしているが応募が無く活動の拡大が図れない。

特別養護老人ホーム 白十字ホーム 第9回 八国山フリーマーケット

■開催日程 10/6 12:30~15:30

■参加団体 社会福祉法人白十字会、社会福祉法人山鳩会、社会福祉法人ユーカリ福祉会、民生委員、地域住民

■参加人数 500名

実施の目的

高齢社会にあって、地域で暮らしているながら「孤立」している状況が社会的な関心を強めています。地域の中での世代間交流の機会を増やすこと、多世代が共に見守り支え合って、地域で暮らせる町づくりを目指します。



当日の様子

当日は27の個人と団体の方が出店され、盛況なフリーマーケットになりました。アトラクションとして地域住民の方々によるお囃子、保育園の園児による踊り、障害者施設の利用者によるバンド演奏、近隣中学校の生徒さんによる吹奏楽の演奏が行われました。あいにくの雨で屋内開催となりましたが、多くの方々が来場して下さり、売れ行きやアトラクションについても非常に好評でした。出店者同士のつながり、子どもから大人まで幅広い世代のつながり、高齢・保育・障害の分野を超えたつながりがみられました。

地域の課題や今後の課題

高齢化率は年々上昇しており、老老世帯、独居世帯が増えている。畑だった場所が住宅に変わっていて、新しい住民も増えている。地域住民同士のつながりの希薄化が地域の課題となるなか、八国山フリーマーケットが、地域のつながりを作り、誰もが安心して住み慣れた地域で住み続けられるような活動にしていきたい。

社会福祉法人至誠学舎立川 至誠ホームミンナ 語り合いサロン「ぷらっとなみき」

- 開催日程 10/3 14:00～15:30
- 参加団体 国分寺市経済課
国分寺地域包括支援センターなみき
- 参加人数 13名

実施の目的

- ①地域在住の高齢者の介護予防体操
- ②保健・医療・福祉に関する情報提供と情報交換

当日の様子

施設併設の地域包括支援センターが管轄する地域は、悪質商法による消費者被害（未遂含む）が多いため、地域の皆さん向けに消費者被害対策講座を開催。国分寺市経済課による講義と、ワーキングオフの練習などを実施しました。参加者の皆さんは、ご自分のこととして真剣に聞き入っていました。

後半では、皆さんでこのサロン高齢の介護予防体操を行いました。



地域の課題や今後の課題

コロナ以降滞っていたこのサロンも昨年から徐々にフルサイズで再開できるようになってきた。更に参加者を増やすべくPRを継続するとともに、今後は地域住民の皆さんが企画・立案して実施するサロンへ移行することを目指したい。

特別養護老人ホームヨコタホーム 街もきれいに心もきれいに

- 開催日程 毎週月、水、金曜日週3回 9:15～9:30
- 参加団体 高齢者在宅サービスセンター武蔵野、ヨコタヘルパーステーション、指定居宅介護支援事業所武蔵野、認知症対応型共同生活介護グループホームヨコタ、福生市地域包括支援センター武蔵野
- 参加人数 265名

実施の目的

商業地域が多く存在する場所に位置するため、たばこのポイ捨て、ゴミ等が多く捨てられていることがある。施設周辺、街をクリーンにすることで、地域の方とのコミュニケーション、環境美化と美化意識の啓発に繋げる。



当日の様子

外出日和の翌日は、ごみ、タバコのポイ捨てがとても多い。近隣のボランティアと一緒に清掃及び緑化活動を実施。グループホーム利用者が制作する新聞紙のゴミ袋を持ち、15分間といった短い時間だがゴミを拾うことにより街も心も清々しい気持ちになる。

地域の課題や今後の課題

国道16号沿いといった商業地域のため、車両からのタバコのポイ捨て、食べ歩きのごみのポイ捨てが無くなることを望むが難しい。事業所としてはこの清掃活動を通じて環境美化・美化意識の啓発にとっても生きており、業務における視野が広がっている。雨天は中止としているが、小さなことから皆で進めることの大事さを改めて感じながら「モラル」、「マナー」の大切さを共有していきたい。今後については地域（町会、他施設）との結びつきを更に強くする活動をしていく予定である。

社会福祉法人 三育ライフ 失語症当事者の会 チャレンジ

- 開催日程 ① 9/14 13:30～15:00
② 10/9 13:00～15:00
③ 11/9 13:00～15:00

■参加人数 56名

実施の目的

失語症を抱える当事者の居場所

当日の様子

司会役と口の体操役を順番で回しているため、今日の担当者が会を仕切っていく。

まずは、名前と1か月の様子をそれぞれが話し、口の体操を行っていく。その後、参加者が作成した「詩」の群読を行う。群読は、始め句読点で句切り、慣れてきたところに1行で句切りながら行う。最初に読む者の後に続いて、全員で復唱する。最初に読む者に関しては、順番で回す。

群読が終わると、会が抱えている問題について話し合う。現在は、「意思疎通支援者の派遣について」が大きな議題となる。

地域の課題や今後の課題

現在チャレンジには、「意思疎通支援者」がボランティアで参加してくれている。他市や他区では、「意思疎通支援者」の委託事業があるところもある。この「意思疎通支援者」が、なかなか言葉が出なかったり、言い間違えてしまうところのフォローを行っているので、自分が話したいことを話せている。

最終的には、「意思疎通支援者」が、市から配置されることを目指しているが、まずは、知ってもらうことから始めていきたいと考え、市議会議員数名と障害福祉課が、11月に見学に来てくれたので、今後も積極的に周知活動を行っていく。

社会福祉法人 三育ライフ シャローム祭

■開催日程 11/3 10:30~13:30

■参加団体 社会福祉法人リブリー・社会福祉法人しおん保育園・社会福祉法人森の会・社会福祉法人すぎのこ・三沢かご店・Ykiki・なんくるエイサー・NOA・合唱団そよ風・(社会福祉法人マザアス)

■参加人数 250名

実施の目的

地域の方々や、関係する法人（高齢・障害・児童の各分野）との協力で、祭りを運営し、皆さんに楽しんでいただくことで、地域交流・法人同士の交流を深めること。

当日の様子

雨の心配がされていたが、晴れて予定通り実施できた。3連休の中日で、昨年に比べると来場者は少なかった。恒例のエイサーでスタートし、模擬店やフリーマーケットでお客様が楽しまれ、久しぶりに、合唱団そよ風の子供たちの合唱が実施でき、とても喜ばれていた。射的やヨーヨー釣りも大賑わいで、景品を獲得し嬉しそうにしていた。初めてのYkikiさんが、酒粕を使用したクッキーなど好評。野菜コーナーも完売となり、利用者が作成した手ぬぐいなども買っていました。NOAさんのパフォーマンスも今年も大好評でした。

地域の課題や今後の課題

特養において、直前までコロナ感染があり、残念ながら特養のご利用者は参加できず、寂しかった。しかし、エイサーチームには各フロアを回ってもらい、喜ばれた。合唱もお願いできたのではと思う。小学生のボランティアも参加してもらえず、課題となっている。終了後、フリーマーケットに参加してくれた法人の方々から、参加してよかった、ぜひ来年も参加したいと言われており、今後も、各法人と協力して開催していきたい。このような交流が必要であり、社会福祉法人としての使命ではないかと思う。

No.48

東久留米市

特養、包括、その他（認知症疾患医療センター・相談員、若年性認知症総合支援窓口・職員等）

認知症

社会福祉法人 三育ライフ かしんの会

- 開催日程 毎週第一木曜日 13：00～15：00
- 参加団体 社会福祉法人三育ライフ・NPO法人ゆいまある・東久留米市中部地域包括支援センター・東久留米市認知症疾患医療センター前田病院・多摩地区若年性認知症総合支援窓口
- 参加人数(のべ) 10名

実施の目的

若年性認知症カフェ

当日の様子

みんなで、集まり、たわいもない話や、やりたいこと、「自分らしさを求めて」メンバーで活動しています。

地域の課題や今後の課題

運営者にかなり負担がきている。利用の送迎が無い。

特別養護老人ホーム けんちの里 けんちの里 文化祭

■開催日程 ①10/31 10:00～15:00

②11/1 10:00～15:00

③11/2 10:00～15:00

④11/3 10:00～15:00

■参加団体 ボランティアサークル ふれんど、ボランティアサークル そよかぜ、竹恵会ボランティア

■参加人数 160名

実施の目的

開設記念日（11/1）を祝して、外部に向けて文化祭を開催。地域のみなさまとの交流を図る。

施設を身近に感じていただく機会としたい。

当日の様子

喫茶「たけのこcafe」を地域に向けてオープン。また、お客様が手がけた絵画や工芸品などを展示した作品展を開催。

ボランティアさんたちの生演奏、介護職員による介護講座、焼きたてパンの販売など催し物を多数実施。

コロナ禍でなかなかできなかった地域の皆さまとの交流ができた4日間だった。



地域の課題や今後の課題

未だ感染症の脅威はあり、地域と施設との交流の障壁になっているのが課題である。

地域の高齢化が進んでおり、住民の皆さまが安心して過ごせる、気軽に相談したり集える場所づくりが必要と感じる。

社会福祉法人博愛会 デイサービスセンターハーモニー松葉 地域交流イベント「体操＆歌の祭典」

- 開催日程 7/18 13:30～14:45
- 参加団体 社会福祉法人正吉福祉会 やのくち正吉苑
- 参加人数 84名

実施の目的

新型コロナウイルス流行禍で中止していた地域交流イベントだが、当施設の定期行事として再開することとなり、ご入居者・ご利用者及び地域住民が交流や再会し、介護予防体操や職員のギター演奏に合わせて昭和歌謡曲や唱歌等を皆で歌うことを通じ、地域交流や活性化を目標に開催した。

当日の様子

ご入居者・ご利用者を始め、地域住民や近隣施設のやのくち正吉苑のご入所者など合わせて84名にご参加いただいた。当日は介護予防体操として、稲城繁盛節、憧れのハワイ航路、きよしのズンドコ節体操を行い、懐かしの昭和歌謡曲や唱歌など計13曲を事務長のギター演奏と歌に合わせ唄い、ご参加者からは「久しぶりに参加しとても楽しかった。」「懐かしい歌を皆さんで歌うことでとても元気になった。」と満足されている様子であった。また、ご入居者及びご利用者と地域の方が会話し、地域交流機会として良いイベントとなった。



地域の課題や今後の課題

- ・新型コロナウイルスの流行により、施設と地域住民の交流やコミュニティーが減少し、再度地域との関係構築やアウトリーチする必要が出てきた。
- ・ご入居者やご利用者、職員が地域共生社会や地域包括ケアシステムの中で関わりを持てるような取り組みを今後も3ヶ月に1回積極的に行っていく。

社会福祉法人博愛会 ハーモニー松葉 やのくち子ども食堂

■開催日程 毎月第3、4水曜日

■参加団体 社会福祉法人東保育会 松葉保育園、社会福祉法人正吉福祉会 包括支援センターやのくち

■参加人数 15名

実施の目的

稲城市矢野口地域の近隣社会福祉法人3法人が連携し、夜ひとりぼっち（孤食）の子どもを対象に月に2日間実施。職員やご入居者をはじめ、2層協議体、民生児童委員などの協力を得ながら、子ども専用ではなく地域の居場所、支え合いの場所づくりとして運営している。

当日の様子

新型コロナウイルス5類移行後より、配食から会食スタイルに戻して毎月開催しているが、職員とご入居者との交流を、子ども達が喜んでくれており、夕食提供までの時間トランプをしたり、会話をしたりし過ごし、美味しい夕食を一緒に食べて良い雰囲気の中で参加者はコロナ前までには及ばないが、子どもとご入居者の地域コミュニティとして良い雰囲気で実施できております。

また最近子ども達のご両親も参加されるなど、孤食のみならず家族とご入居者や地域とのつながりの架け橋にもなっている。

80代～90代のご入居者も子ども達と毎月触れ合うことを楽しみな様子で、参加している子ども達も信頼し良い関係づくりができています。



地域の課題や今後の課題

- ・孤食に関しては、子どものみならず高齢者、障がいをお持ちの方など共通する社会的課題だと考えており、食事を通したコミュニティづくりで地域課題は少しずつ解決できると考えております。
- ・新型コロナウイルス5類移行後に会食を再開しているが、参加者がまだ少ない状況ではあるが、地域の子どものをはじめ異世代や障がい、高齢、児童が垣根なく支え合いながら生活できる地域の一翼になれるよう3法人で取り組んでまいります。

社会福祉法人亀鶴会 特別養護老人ホーム神明園 多世代の居場所づくりプロジェクトUI～結～ 高齢者の居場所「より処」

■開催日程 毎週火・水・金・土曜日（都合により変更・中止の場合あり）

10時～15時

9月15回 10月16回 11月15回 計46回

■参加人数 446名

実施の目的

- 利用する方に「つながり」と「役割」が生まれる事を目的に、気軽に集い、利用できる高齢者の居場所の創設。
- 地域がセーフティネットとして機能し、日々の生活を豊かにする地域の可能性を広げる。



当日の様子

週4回の活動では、継続的にご利用する方のなかには身近な場所と思って頂けようになった。しかし、自分にとっての居心地の良さが優先となり、特に人間関係では気の合う方でグループ化する傾向にあり、新規の方が入りにくい、ふらっと入れないという問題が出てきた。仲間がいなくてもこの場にいられる、知らない方とも話すきっかけになる為イベントには参加しているというご意見があり、色々なイベントを企画、実施した。特に手作り企画は人気だった。笑いヨガや体操教室、手芸などの活動は継続利用につながった。

地域の課題や今後の課題

活動を通し、家から出るきっかけ、行く場所がほしいと感じている方が多い事がわかった。また家に籠りがちで外出をしてほしいと家族からの相談、お問い合わせも増えている。町内会などの地縁団体の高齢化も進んでいて、身近に交流や活動の機会が減ってきていると感じる。地域と、人と繋がり続ける事ができる場の必要性和、継続する難しさがわかってきた。人が集まる場であり続けるため、参加する方に配慮した、流動的な活動を意識的に行っていきたい。

社会福祉法人亀鶴会 特別養護老人ホーム神明園 多世代の居場所づくりプロジェクトUI～結～ かふえてりあ はろ

■開催日程 毎週水・土曜日 15時～18時（夕食17時30分～）

○実施回数 9月7回 10月7回 11月7回 計21回

■参加人数 103名

実施の目的

- 市内の小学生に地域の方との交流の機会と、放課後安心して過ごす事ができる夕食付き居場所の創設。
- 地域がセーフティネットとして機能し、日々の生活を豊かにする地域の可能性を広げる。



当日の様子

月ごとに活動スケジュール（お料理、カラオケ等）を決めているが、参加不参加は自由。スケジュールが参加のきっかけとなった子もいるが、大多数は自分の過ごしたいように過ごしていた。「こども食堂」に対する貧困対策、難しい子が行く場所というイメージが強く、参加者がいない、増えない時期が続いた。気軽に行く事ができる、地域の遊び場の一つとなるよう食事代を無料、利用にお金がかからないようにした。また10月から神明台sTorehouse前で駄菓子屋さんをスタートし、お菓子を買いに来た子とつながる、はろ利用へのきっかけとなった。

地域の課題や今後の課題

学童保育が利用できなくなる事へ不安、心配を抱える保護者が多く、特に3年生の利用、問い合わせが多くなった。放課後、安心して過ごす事ができる地域の居場所は必要であると感じる。人が集まる事で、可視化される問題・課題は多い。こどもの居場所づくりへの関心、そして様々なかたちの居場所が創設されるよう、実施団体や行政、地域との連携、協働が進む体制づくりにも取り組んでいきたい。

社会福祉法人亀鶴会 特別養護老人ホーム神明園 多世代の居場所づくりプロジェクトUI～結～ 神明台自主室 みらい

- 開催日程 毎週水・土曜日 15時～19時（夕食17時30分～）
○実施回数 9月7回 10月7回 11月7回 計21回
- 参加人数 11名

実施の目的

中学生が地域の人々と交流を図りながら、安心できる環境で勉強ができる場の創設。地域がセーフティネットとして機能し、日々の生活を豊かにする地域の可能性を広げる。



当日の様子

中学生が自習室を継続的に利用、活用できるよう実施日を定期考査前のみから、毎週水・土曜日に変更した。一時的に利用者は増えたが、段々と利用している中学生に学習に対する姿勢に大きなズレができてしまった。自習室としての機能を強化する為、助成金を申請しブーステーブルを設置するなど環境の見直しを行ったが参加につながっていない。自習室に誰がいるか確認し帰ってしまう、夕食の時間だけ来るという子もいた。

地域の課題や今後の課題

近くに公共施設がなく、学校や家庭以外に落ち着いて学習できるスペースが少ないという地域課題が見つかった事が「神明台自習室みらい」を始めるきっかけとなった。ポスター掲示、チラシ配布を実施したところ、実際に中学生からの問い合わせもあり、学習の場ではなく、友達と遊んだり自由に過ごす場、居場所を探しているという事がわかってきた。自習室を拠点として、中学生の居場所をどう展開していくか再度検討したい。

あきる野市、あきる野市地域包括支援センター、 あきる野市介護事業者連絡協議会 介護サービス普及啓発イベント「介護の日」

■開催日程 11/9 10:00～16:00

プレイベント 11月5日～8日 9:00～17:00

（ただし、5日は13:00から、8日は12:00まで）

■参加団体 あきる野市、あきる野市地域包括支援センター（3センター）、あきる野市介護事業者連絡協議会（会員102事業所）、その他協賛企業・事業所等

■参加人数（係員等含まず）582名

実施の目的

各種展示や体験・相談コーナーなど多様なメニューを展開し、あきる野市民に対し広く介護サービスの普及啓発を図ります。



当日の様子

プレイベントでは通所サービス利用者の作品や福祉用具、行政・地域包括支援センター・各種サービス等のパネルを展示しました。

メインイベントでは上記に加え、訪問入浴の実演、ロコモチェックや骨密度測定、認知症理解促進のための声掛け模擬体験、配食事業者による試食、小型モビリティの体験試乗、宅配弁当の展示や試食など多彩なメニューを展開しました。

隣接する秋留台公園でのあきる野市産業祭と同日開催ということもあり、家族連れなど多くの方に来場いただきました。

地域の課題や今後の課題

一般市民にとって介護・福祉サービスは、必要に迫られるまで身近なものではないことを実感しています。一方で、あきる野市が行った調査では、高齢者はつらつセンター（地域包括支援センター）の認知度が、他の福祉関連施設・拠点に比べて高くなっており、この取り組みの継続も認知度向上に役立っていると考えられる。

今後も、介護や福祉についての情報提供をし、市民一人一人が自分の望む生活について日頃から考えられるよう、その結果、介護や福祉のサービスが身近なものとなるような働きかけが必要と考えられる。

原小宮町内会・原小宮ふれあい福祉委員会・あすなろみんなの家 ふれあいお茶飲み会

- 開催日程 共催している原小宮町内会・原小宮ふれあい福祉委員会との調整の結果、令和7年3月に開催することとなった。
- 参加団体 原小宮町内会・原小宮ふれあい福祉委員会・あすなろみんなの家
- 参加人数 ■名

実施の目的

町内会の高齢者のふれあい・交流の場として、昼食やゲームを通じ、「笑って歌って元気よく」楽しいひとときを過ごす。

「あすなろみんなの家」の事業や、介護保険・高齢者福祉のサービスについて理解していただく。

当日の様子

町内会行事である敬老の集いが諸般の事情により開催日程が見直されたことから、対象者が重複するふれあいお茶飲み会の行事日程についても変更し、令和7年3月に開催することとなった。

地域の課題や今後の課題

新型コロナウイルス感染症の5類への移行後、徐々に活動の機会や範囲は以前の状態に戻りつつあるが、活動が停滞していた期間が長かったため、担い手やノウハウの継承に課題を抱えている団体等も多いと感じている。

施設としても、利用者や職員の安全を確保しつつ、地域の方々に施設にお越し頂くための工夫をしているが、いまだに迷っている部分もある。

あすなろみんなの家 あすなろマルシェ

- 開催日程 ① 9 / 9 15 : 00 ~ 18 : 00
② 10 / 7 15 : 00 ~ 18 : 00
- 参加団体 あすなろみんなの家、秋川あすなろ保育園
- 参加人数 70名

実施の目的

施設の畑や庭で育てている野菜や果物等が、給食で使いきれずに余ることがあります。そんな時、自然の恵み・手間暇かけた成果を、地域の皆様に「お裾分け」します。

当日の様子

当施設や隣接する秋川あすなろ保育園で栽培・収穫された野菜や果物等を、両施設の玄関前にて低廉な価格にて販売した。

ご家庭での参考となるよう、給食メニュー等のレシピを添付した。

保育園のお迎えに来る保護者のほか、少人数ではあるが、ご近所の方々にもお買い上げいただくことが出来た。

保育園では、給食で食べている子どもたちの「家でも食べたい」との言葉をきっかけにお買い上げいただく光景も見られた。

地域の課題や今後の課題

原小宮地区は近くにスーパーやコンビニエンスストアがなく、移動手段の限られる高齢者等は買い物等に苦勞が付きまとう。

また、デイサービスの利用者やご家族、保育園園児の保護者にも、食に関する様々な課題がある。

デイサービスや保育園における栽培など日々の活動で産み出されたものや給食調理のノウハウを提供することで、食事環境を整え健康の増進に貢献できればと考えている。

現在は「試行的」な取り組みにとどまっているが、定期的な実施を見据えて体制を整えていきたいと考えている。

あすなろみんなの家 シルバー麻雀「リーチクラブ」への協力

- 開催日程 毎週水曜日 12:00～16:00
- 参加団体 リーチクラブ、あすなろみんなの家
- 参加人数 (キャンペーン期間中) 330名

実施の目的

地域の高齢者に趣味活動等の場所を提供することで、高齢者の生きがいづくり・閉じこもり予防・健康維持や介護予防につなげるとともに、介護サービス現場を身近なものとして感じていただく。

当日の様子

あきる野市内の高齢者が自主運営する麻雀サークルで、毎回20人以上の方が参加されている。

活動には、当施設の機能訓練室（通所介護の基準外）を提供し、事前準備から片づけまで、サークルにお任せしている。

施設は、水分補給用のお茶等を提供するほか、介護に関する情報提供等を、資料配布や掲示などにより、適宜行っている。

地域の課題や今後の課題

当市内では高齢者に限らず様々な団体・サークルが存在しているが、活動場所の確保に苦労している場合も少なくない。

当施設は、以前より麻雀サークル・合唱団等に、活動場所を提供していたが、コロナ禍の感染症対策として、ここ数年は提供を中止していた。

今年度より、1団体あたりの提供（活動）時間と人数を制限（以前はいずれも無制限）した形で提供を再開したが、館内での食事は原則禁止とするなど、まだまだ使い勝手が良いとはいえない部分もある。

感染症対策と地域貢献・開かれた施設の両立に向け、さらに工夫が必要と感じている。

増戸ホーム、五日市ホーム 地域とつながる防災訓練

■開催日程 10/17 14:00～15:00

■参加団体 小机自治会、秋川消防署、五日市ホーム、金木星の郷、増戸ホーム

■参加人数 40名

実施の目的

この訓練は今年で10回目となる。応援協定を結んでいる地域や近隣施設との絆をより一層深めることを目的とし、継続することで得られる顔なじみの関係が強い力となることを目指す。



当日の様子

はしご車体験、まちかど防災訓練車放水体験、初期消火訓練、炊き出し訓練（キッチンカー）を実施。訓練当日は想定を遥かに超える、合計40名の方々に御参加頂き、大盛況であった。いまだ過剰な感染対策も散見される世間情勢の中、様々な訓練を通じて参加者相互で自然とコミュニケーションが発生し、特に、はしご車体験や炊き出し訓練の際には御参加頂いた各団体の方がその所属を超えた交流や情報交換が多くみられた。

地域の課題や今後の課題

新型コロナウイルス感染症や地域全体の高齢化等々により、近年希薄になりつつあった関係性の再構築の一助になった。だが、継続して行っていく風土や習慣を醸成しなければ、有事の際は勿論、関係性の維持という点においても、衰退していく一方である。地域の活動の機会が少なくなり、かつ、その規模も小さくなっている現状で、今回のように炊き出し訓練を想定したキッチンカーの導入等、訓練といえども楽しみともなる、新たな試みが必要と考える。

特別養護老人ホーム 麦久保園 地域敬老会サポート

- 開催日程 9/8 11:30～14:00
- 参加団体 折立町内会、折立ふれあい福祉委員
- 参加人数 60名

実施の目的

地域住民のつながり、地域住民と施設職員の顔の見える関係性の構築

当日の様子

イベントでは、当園調理スタッフが祝い弁当を準備。会食では各々のテーブルで話も盛り上がっていた。会食後にはあきる野市社会福祉協議会へ登録しているボランティア団体より、尺八演奏、ギター演奏が披露された。

ギター演奏は、参加者を巻き込みながら手拍子、合唱、アンコールと盛り上がりを見せていた。

祝い弁当のほか、初めて手作りのアイスクリームを振舞うと、大好評で地域の皆様からの満足したコメントを受け取り、調理スタッフも施設外部からの評価をいただくことができた。

地域の課題や今後の課題

高齢化に伴うコミュニティの縮小、坂の多い土地柄による行動（活動）範囲の制限、インフォーマル支援の限界を感じる。

施設の役割として、職員への負担、費用負担が過剰にならないよう、地域との共同活動のスタンスまたは職員が楽しめる活動を通した関わり方を引き続き探索する。

社会福祉法人 梅の樹会 フラワープラム こども食堂 フラワープラム ～たくさん遊んで・お腹いっぱい食べよう！～

■開催日程 11/24 11:00～13:00

毎月第4日曜日 11:00～13:00

■参加団体 瑞穂町社会福祉協議会、元高齢者サロン「ばらの会」の皆様、絵本の読み聞かせ「ピーターぱんだ」の皆様、バンド演奏「OverAge's」の皆様、地域ボランティアによるワークショップの皆様、社会福祉法人 梅の樹会 フラワープラム

■参加人数 389名

実施の目的

こどものとまり木__共食と体験の提供

パパ・ママ応援団__日曜日のご飯づくりはひとやすみ

生きがい活動応援団__学生・元気高齢者主体の運営で
役割創出

学生応援団__こどもと触れ合い体験の創出



当日の様子

今月のカレーは、、、ハムマヨサラダフライトopping。

地域住民さんからのご寄付で大根・ねぎ・里芋の寄付があり、里芋いっぱいの芋汁もついて、豪華なランチとなりました😊

フィナーレでは西多摩地区を中心とした介護事業所で働く仲間と結成された5人組バンド「OverAge's」さんをお迎えして、お子様向けのアニメソングを中心に生演奏を披露してくださいました。体操のリスペクト隊のお兄さんも登場！

ココロもカラダも温まりました。

こども食堂フラワープラムのオリジナルソングも作成してくださいました♪

地域の課題や今後の課題

貧困救済をいったこども食堂の先行イメージの払拭を行いながら、広く地域の方に知ってもらうことが課題である。

元気高齢者（アクティブシニア）の役割の場として活動を担っていただき、多世代・地域で子育てができる環境を整えて行ければと思います。

ホームページやSNSなどの情報を頻回更新を行い、新規来場者の獲得・運営ボランティア・協力者の増員も目指していきたい。

社会福祉法人 梅の樹会 フラワープラム 認知症カフェ 『楽笑プラムカフェ』

■開催日程 11/28 12:30～14:00

毎月第4木曜日 12:30～14:00 ランチ500円 ワンドリンク200円

■参加団体 瑞穂町役場高齢課、瑞穂町西部包括支援センター、社会福祉協議会、ボランティア団体「みずほハーモニカクラブ」、社会福祉法人 梅の樹会 フラワープラム

■参加人数 46名

実施の目的

認知症の方を介護するご家族様の支援を目的に定期開催。

管理栄養士監修のワンコインランチを食べながら、本人・家族・専門職が気軽におしゃべりができる認知症カフェ。



当日の様子

認知症を介護されているご家族様・地域住民の方・行政（高齢課・包括）などが集まり、日頃の介護にまつわるお話を中心にランチをしながら情報共有をされています。ランチはホットサンド！中身をオリジナルでチョイスし、お好みの焼き加減で召し上がることができます。

みずほハーモニカクラブによるハーモニカや打楽器を使用しての演奏もあり聞き馴染みのある曲に合わせ穏やかな時間が流れていました♪

お土産には、アクティブル君のエコバックもプレゼントさせていただきました。

地域の課題や今後の課題

昨今、認知症を患っている方は多いが、カフェ開催の認知度の低さにより新規での参加が少なく、家庭で支えることが大変になってきているご家族の参加が多い状況。当事者本人が初期段階で参加ができ、小さな不安や心配事を気軽に相談ができる場として時には専門職のアドバイスを受けられるような場となればと思います。地域で支えられるような場の一つとして活動を継続していきたい。

良友園 ふれんどサロン

- 開催日程 ① 9/17 10:30~11:30
② 11/19 10:30~11:30
- 参加人数 22名

実施の目的

介護予防として、体操の他、ゲーム感覚で体を動かすプログラムを実施。

当日の様子

タオルを使った体操や、風船を使ったゲーム、チーム戦など、レクリエーション要素を入れながら体を動かす体操を行った。参加者の皆さま、笑顔が見られ、新しいゲームには苦戦しながらも、楽しい雰囲気だった。



地域の課題や今後の課題

楽しみながら体を動かすことができるよう、今後もプログラムを考えていきたい。コロナ前は体操後にランチを提供していたが、現在は中止している。地元の方々の交流機会にもなるよう、代替手段を検討できればと思う。

良友園 ふれんどファーム

- 開催日程 ①10/22 10:00～10:30
②10/24 10:00～10:30
- 参加団体 ぴよぴよ保育園、東松原保育園、ひじり保育園
- 参加人数 30名

実施の目的

- ・施設裏の畑の活用
- ・子どもたちに自然に触れる機会を提供
- ・畑で作物を育てる体験
- ・施設ご利用者に対し、子どもたちと触れ合える機会を提供



当日の様子

春に自分たちで植えたサツマイモを収穫。1キロ以上の道のりを歩いてきたにもかかわらず、笑顔いっぱいでお芋ほりを楽しんでいた。「大きいのが獲れたー！」と、見学するご利用者に見せる様子も。お芋ほりのあとは、子どもたちからご利用者に歌のプレゼントがあり、元気な歌声にご利用者も笑顔で喜んでいらっしまった。

地域の課題や今後の課題

コロナ前は、施設のホールで直接ご利用者と子どもたちが触れ合えるような行事を行っていたが、非接触での開催になっている。今後どのように緩和していくかは検討が必要。また、現在は「ふれんどファーム」として畑での地域貢献活動を行っているが、芝生の園庭も活用できるため、新たな活動にも挑戦していきたい。

特別養護老人ホーム ひのでホーム 応援協定による地域との防災訓練

■開催日程 10/13 13:00～15:00

■参加団体 第三自治会会員、消防団、特養：栄光の杜、福祉事業所：さくら・日の出舎・かたくり

■参加人数 30名

実施の目的

自治会・福祉事業所による、応援協定の確認に伴う災害時想定の実集訓練

当日の様子

日の出町第三自治会と、高齢事業所・障害事業所と共に応援協定に基づき実集訓練を実施した。ひのでホームへの自治会からの参加者は自治会長はじめ計28名、消防団2名の参加でありスムーズな進行と共に、改め災害時の協力体制を確認しあえた。



地域の課題や今後の課題

通信障害時の対応・対策

ハザードマップ危険地域もあるため、インフラ異常時の対応

社会福祉法人ほうえい会特別養護老人ホーム栄光の杜 日の出町産業祭りで地域交流

- 開催日程 ①10/26 10:00～16:00
②10/27 10:00～16:00
- 参加団体 栄光の杜、ひのでホーム、藤香苑ほか
- 参加人数（のべ） 600名（栄光の杜ブースのみ）

実施の目的

町の事業に参加し、福祉施設として住民の方に広く知っていただく。参加した職員、ボランティアにも地域とのかかわりを知ってもらう。

当日の様子

来場者に風船アートを渡したりタピオカ屋を通して地域の方と触れ合った。

ボランティアとして介護福祉士養成校の学生、高校生にも参加してもらい、活動を通して地域と施設の関係についても知ってもらうことができた。

お子さんなど購入しない方にも積極的に風船を渡し、交流を持つことが出来た。

地域の行事を知らない世代にも出店側としてかかわることで地域に興味をもってもらうことができた。

また社会福祉法人で隣同士で出展することができたので、地域の方に施設名などを覚えて頂けた他、職員同士の交流もできた。

地域の課題や今後の課題

地域のことを知るチャンスが少ないため、地域のイベントを利用して若い職員や地域の方に福祉施設をしてもらうことはとても意味のあることだと思う。今回のような参加型ではなくとも、地域の人を結びつけるような動きを続けていきたいと思う。

特別養護老人ホーム 第3 サンシャインビラ モノづくりカフェ

■開催日程 11/15 14:00~16:00

■参加団体 地域の方々

■参加人数 5名

実施の目的

地域の方との交流の場を設け、少しでも施設の雰囲気を知っていただく。

当日の様子

利用者様と地域の方が同じ空間で押し花を楽しめました。

好きなお花を選んだり、デザインを考えながらワイワイと楽しく作れました。今回は当日に作品を持ち帰っていただくため、アイロンを使ったやり方をしました。「簡単で楽しい。また開催してほしい。」との声が挙がり、最後は皆でコーヒーを飲みながらお話しをして、とても和やかな雰囲気の会となりました。

地域の課題や今後の課題

気軽に楽しく地域の方とコミュニケーションがとれる場が提供できるよう考えていきたいと思います。

特別養護老人ホーム藤香苑 みんなのホッとランチSP

■開催日程 ①11/9 12:00～13:00

②11/17 12:00～13:00

■参加人数 127名

実施の目的

特養で提供中の食事&プリンをテイクアウト形式で販売し、地域の方への食事支援、レスパイトケア、社会参加のきっかけ作りなど受け取り手のニーズに応じて柔軟に寄り添うことを目的とする。



当日の様子

予想を超える予約数で急遽食数を増やし対応した。ドライブスルー形式で購入される方が大半であったが、徒歩で買いに来られる方や今回イートイン形式も可としたため、施設の中で温かい食事を召し上がられた方もいた。お弁当販売を通して、日常生活において普段なかなか出向く機会のない特養に、高齢者から子どもまで足を運ぶきっかけとなったことは、「ふくしをひらく」うえで大きな一歩になったと感じた。

地域の課題や今後の課題

地域柄、スーパーやコンビニが少なかったり、車がないと不便など環境的な課題は多く感じる。また、今回お弁当の受け渡しはボランティアの子どもたちに手伝ってもらい、普段子どもと接することの少ない地域の高齢者の方からも好評であった。社会福祉法人として施設利用者含めた地域の方々が「普通の生活を普通にする」「普通に高齢者と子どもが触れ合う」ために、特別なことができるわけではないかもしれないが、そんな「普通」のくらしを実現するためのハブとなるような取り組みを今後も実施していきたいと考える。

桧原サナホーム とびっこクラブ

- 開催日程 10/22、11/5、12/3
- 参加団体 小沢とびっこクラブ
- 参加人数 11名

実施の目的

同じ地域に住んでいても、外出が困難になり以前のように集まることが難しくなった為、サロン開催により地域高齢者の交流の機会を確保する。

当日の様子

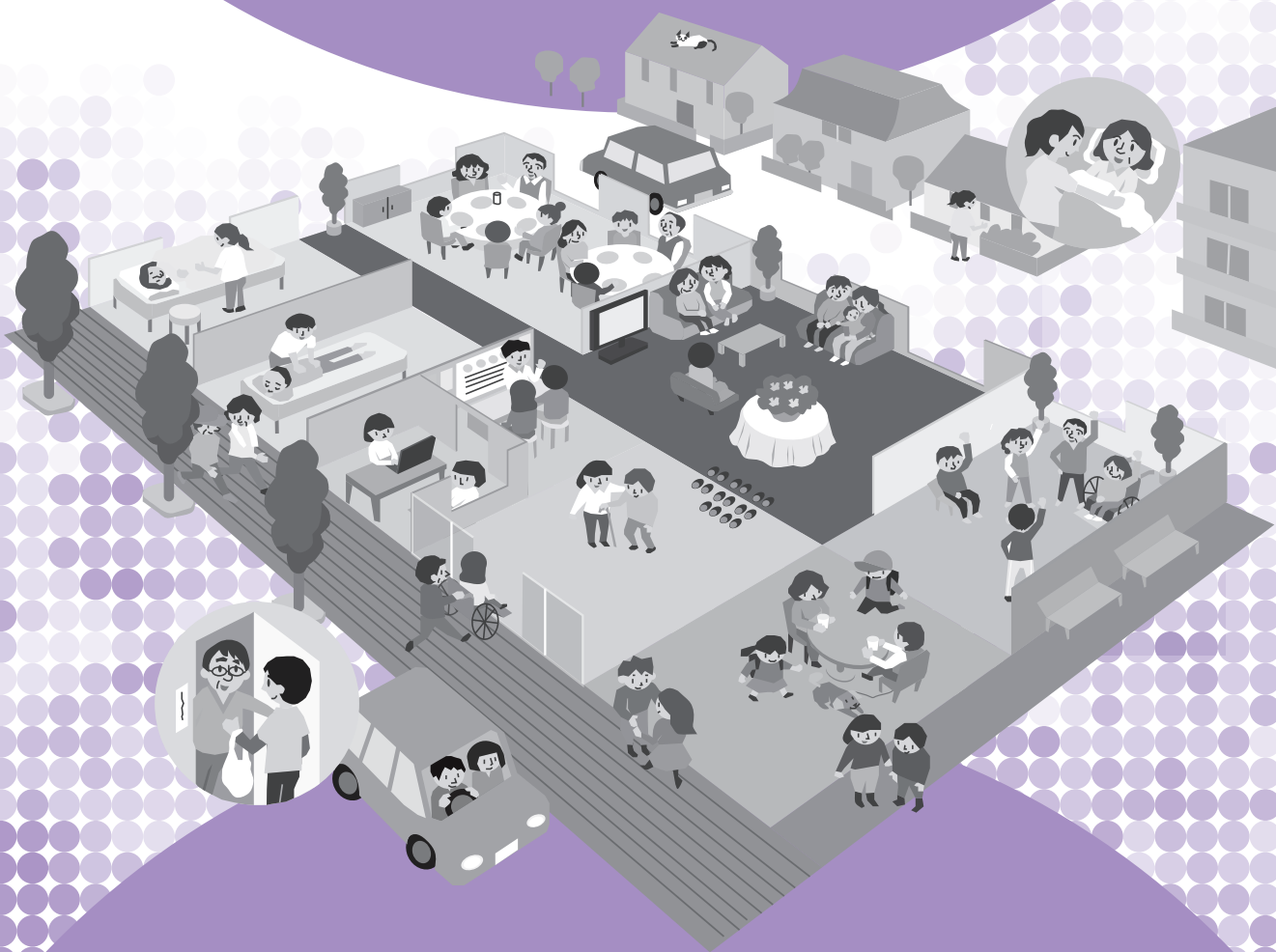
施設の車でお迎え。地域のコミュニティセンター着後、健康チェック。水分補給しながら談笑。最近の出来事やプチお困り相談など…皆さんが落ち着いたら、施設PTによる介護予防体操（同地区から入所された方も参加）。失敗も笑いの種！みんなで輪になりできない所は教えあいながら体操。昼食（施設の昼食を提供！）午後は脳トレや活動、作品づくり（1時間程度）施設の車で自宅へ送迎。また、年に2回ほど近隣に外出もしている。



地域の課題や今後の課題

課題：人口減少により、対象者減少のため参加者の確保と共に、実施する職員の確保。
今後の活動：現状の体制で継続予定

資料





「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO（略称：つなひろ）」は、都内の高齢者福祉施設・事業所による地域に開かれた取組みを増やしPRする目的で、2016年度から開始しました。東京都高齢者福祉施設協議会の会員事業所にて9～11月の期間中に行われる地域交流・介護予防・学びの機会などを周知するものです。

皆様のご賛同と積極的なご参加により、高齢者福祉施設・事業所ならびに社会福祉法人における地域の取組みへの認知度が高まります。ぜひご参加ください。

1 開催状況－過去の実績より

2023年度のキャンペーンは、コロナの5類移行を機に4年ぶりに再開し、59事業の参加がありました。コロナ禍前の2019年度には、118事業を実施、33,748人の参加がありましたが、コロナ禍ではキャンペーンの形を変えて、高齢者福祉施設や社会福祉法人が行う活動についての事例集めとアンケートを実施しました。

＜2023年度のキャンペーンの様子＞



合同防災訓練
社会福祉法人多摩養育園・府中分梅高倉自治会（府中市）



買い物支援
社会福祉法人 大三島育徳会 博水の郷（世田谷区）



アルツハイマーイベント「認知症」やさしい街では「認知笑」2023
ケアタウン成増（板橋区）

＜2023年度実施データ＞

取組み種別	取組み数	構成比（％）
認知症への対応	1	1.7
介護予防・高齢者支援	8	13.6
アウトリーチ	0	0.0
相談・家族支援	3	5.1
カフェ・居場所づくり	7	11.9
地域住民の学びの機会	8	13.6
地域団体との協働	6	10.2
地域交流	22	37.3
防災への取組み	1	1.7
その他	3	5.1
合 計	59	100.0

施設種別	取組み数	構成比（％）
特別養護老人ホーム	40	41.7
養護老人ホーム	3	3.1
軽費老人ホーム	6	6.3
デイサービスセンター	23	24.0
地域包括支援センター	12	12.5
在宅介護支援センター	1	1.0
区市町村施設連絡会	0	0.0
複数施設との共催	4	4.2
その他	7	7.3
合 計	96	100.0

※過去の開催状況などの詳細はHPをご覧ください。

2 つなひろの目的

1. 地域でこぼれ落ちる人がいないよう、誰もが安心して暮らせるまちを目指して、高齢者福祉施設・事業所が、地域に寄り添うことで「ちいきの輪」をつくります。
→地域で暮らす方々がつながり、その輪がひろがることを目指しています。
2. 東京都内の高齢者福祉施設・事業所の取組みを、ひとつでも多く発信（見える化）することで、社会福祉法人に対する信頼と評価が高まります。
→皆様の主体的かつ積極的な「つなひろ」へのご参加が不可欠です。
3. 他施設の取組みを参考にし、施設・法人での新たな取組みや、複数施設と協働した取組みに発展することを期待しています。
→見学会や実践報告会等で、地域に開かれた取組みを学び、深める機会を作ります。

◎キャンペーンについて

貴施設・事業所で9～11月に行う「地域とつながる活動」があれば、是非ご参加ください。

- 9月第3月曜日の敬老の日と、11月11日の介護の日に合わせて、キャンペーン期間を9～11月としています。この期間に行われる活動があれば、ぜひご参加ください。
- 地域住民への寄り添いが趣旨の活動であれば、どのような取組みでも構いません。これから新たに取組みを実施しようとされている法人や、取組み方法がよく分からない法人の皆様のヒントになるかもしれませんので、貴施設・事業所の取組みのご参加をお願いします。
- 単独の施設・事業所による取組みのほか、複数施設との共催（法人内施設・事業所、他法人、他業種の福祉施設・事業所、民間企業、地域の住民組織等）の取組みでもご参加いただけます。
※東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員ではない事業所との協働参加の場合、申込は高齢協の会員事業所名をお願いいたします。

<取組み事例>

- 高齢者を支える取組み…介護予防教室や認知症カフェの開催／高齢者が対象の閉じこもり防止や交流を目的とした取組み／地域の高齢者が対象の訪問・見守り・配食活動
- 多世代交流を支える取組み…福祉や介護に関する相談の場の提供／介護をする家族を対象とした講座／施設を会場としたカフェや居場所づくり／福祉や健康に関する市民向け学習会
- 地域を支える取組み…地元イベントの参加など地域団体との協働／まちづくり懇談会など地域内での交流会／福祉避難所設置訓練など住民向けの防災活動 等

施設のお祭りや
敬老の日のイベントなど
施設で毎週・毎年行っている
取組みでも参加できるブル！



3 参加方法

令和6年7月24日（水）までに、東京都高齢者福祉施設協議会HPより、所定のフォームに必要事項を登録してください。いただいた情報については、つなひろのHP上に「参加施設一覧」として、施設名・取組み内容・会場名・開催日などを掲載する予定です。

【東京都高齢者福祉施設協議会HP】<http://www.tcs.w.tvac.or.jp/bukai/kourei/>

東京 高齢協議会 で検索！

※「最新情報」または「つながれひろがれちいきの輪」のページよりお申込みできます。

⇒会員のお申込みには**会員コード**の入力が必須となります。

本通知左上または案内メールに記載しています。

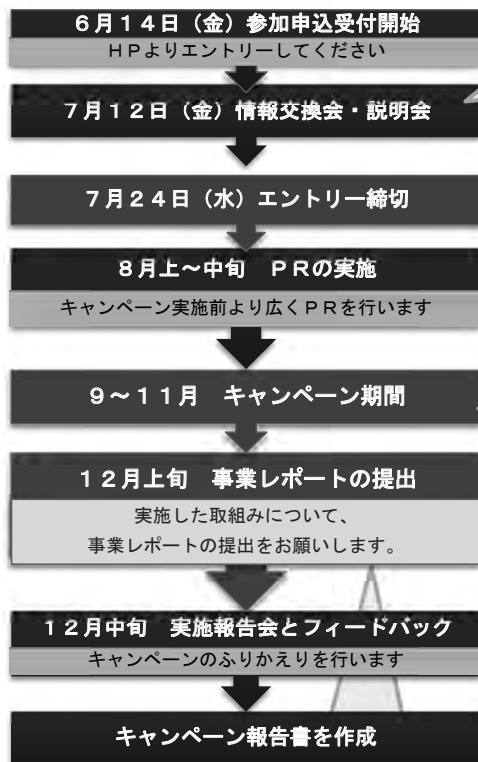


↑高齢協HP内「つながれひろがれちいきの輪 in TOKYO」QRコード

※複数の取組み（予定を含む）がある場合、大変お手数ですが、1件ずつ書き込んで送信してください。たくさんの事例を集めて取組みのヒントとして発信するため、ぜひご協力をお願いいたします。

※規模の大小、定例か単発開催かなどは問いません。また、日程未定・内容検討中でも、現時点で9月～11月に実施予定があれば、エントリー可能です。日程未定・内容検討中として参加いただいた取組については、情報更新用のフォームを設置し、更新内容をお知らせいただくようにいたします。

4 キャンペーンの流れ



★情報交換会・説明会

参加検討中の事業所の方も、お気軽にご参加ください😊

日時 7月12日(金) 14:00～16:30

会場 研究社英語センタービル地下2階 大会議室

内容 情報交換会・キャンペーン説明など

※今年度参加予定の施設・事業所は可能な限りご参加ください。

※詳細は別途送付する案内をご覧ください。

★広報グッズの送付

つなひろ参加事業所には、キャンペーン促進グッズとして、つなひろのチラシやグッズをお送りします。昨年はアクティブぬいぐるみ、ミニのぼり、シャープペンシルを送付しました。

★キャンペーン参加施設・事業所見学会

(2-3回程度を予定)

施設・事業所の取組の様子を見学することができます(希望者のみ)。日時・場所等の詳細は後日送付する案内をご覧ください。

★事業レポートの作成

つなひろにご参加いただいた取組について、実施の様子などをレポートと写真でご提出いただけます。いただいた内容は、報告書等に掲載します。



↑ 2023 年度チラシ



↑ 2023 年度広報グッズ

5 Q & A

【Q】従来から実施している取組でも参加できますか。

【A】できます。従来からの活動も含めてPRすることがキャンペーンの目的です。なお、キャンペーンを契機として、施設・事業所内で新たな取組を検討いただく形での参加も可能です。ただし、自治体の委託事業など主催が他団体の取組みの場合、事前に主催団体に了承を得た上でご申込みください。

【Q】1日間、半日間、通年で実施している取組でも参加できますか。

【A】広く地域住民を対象とする取組みであれば、実施時間や期間の制限は特にありません。

【Q】開催日時は施設側で決めてもよいのでしょうか。

【A】各施設でお決めください。その際、日程が重ならないよう近隣施設との調整をお願いします。

【Q】キャンペーン期間(9～11月)に行わなければいけませんか。

【A】期間外の取組みでもご参加いただけますが、報告書に掲載できない可能性があります。事務局までご相談ください。

【Q】施設のある地域の在住者のみを対象とする取組みでも参加できますか。

【A】ご参加いただけます。その場合、参加申込書の該当欄(参加条件)に記載ください。

【Q】会員以外の事業所との共同(高齢分野以外の施設等との連携を含む)での参加はできますか。

【A】可能です。ただし申込時の担当施設・事業所名は、高齢協の会員施設・事業所名でお願いいたします。

【Q】取組みやイベントの経費負担、ブロック活動助成の活用方法について教えてください。 【A】取組みやイベントの実施にかかる経費は、会員施設・事業所によりご負担ください。 なお、(高齢協会員である)複数の施設・法人での合同事業など区市町村単位・地域ブロック会単位で活動を行う場合には、地域ブロック会活動経費、地域ブロック会協働助成事業をご活用いただくこともできます。その場合には、各地域ブロック会長または事務局までご連絡ください。 キャンペーン全体の広報・PRにかかる経費(キャンペーン紹介チラシやグッズ等)は、東京都高齢者福祉施設協議会が負担します。	【Q】キャンペーン全体のPRはどのように行うのでしょうか。 【A】キャンペーンを紹介するチラシを作成し、東京都高齢者福祉施設協議会のHPに繋がるQRコードのリンクを掲載します。各団体の取組みをHPにとりまとめ、施設名や法人名、所在地、参加する取組みやイベントに関する情報を掲載します。イベント当日などにチラシを配布いただきながら、都内全体の取組みとしてキャンペーンをご紹介します。また、行政や関係団体等にも情報を発信します。
【Q】キャンペーンのロゴや名称はありますか。それをどのように使うのですか。 【A】チラシやウェブサイト、また職員名刺や広報誌などに記載することで、趣旨に賛同しながら都内の高齢者福祉施設が丸となって行っている姿を伝えるよう、ロゴマークの使用にご協力をお願いします。 HPよりダウンロード可能です。また取組み名称は、キャンペーンの趣旨にご理解をいただきながら、実施施設・事業所で任意に名称を設定していただいてもかまいません。	【掲載例】 つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 東京都高齢者福祉施設協議会 特別養護老人ホーム ○○苑 地域交流会・介護相談会 11月○○日(○) 10時～15時 
【Q】チラシ以外に、キャンペーン広報グッズはありますか。 【A】作成する予定です。参加施設・事業所にはキャンペーン実施前にグッズを配布いたします。これまでは、施設・事業所用にミニのぼり・アクティブルぬいぐるみ、イベント時の参加者配布用にシャープペンシル・付箋・ボールペン・クリアファイルなどを配布しました。詳細は、事務局までお問い合わせください。	
【Q】終了後の報告はどのように行うのでしょうか。 【A】事業レポート、活動に関する写真の送付をお願いします。 レポートのフォーマットをHPよりダウンロードの上、作成し、事務局までお送りください。あわせて、HPやFacebook等に掲載可能な写真を1～2枚程度お送りください。レポートにて地域の方々の声、活動を通して浮き彫りになった福祉課題などについて伝えます。	
【Q】社会福祉法人ではなくてもキャンペーンに参加できますか。 【A】可能です。ぜひご参加ください。	
【Q】キャンペーンの取組みに対するリスク対応について。 【A】事故等のリスクへの対応は、各施設・事業所でご対応いただくようお願いいたします。	
【Q】地域における公益的な取組との違いについて知りたい。 【A】つながれ ひろがれ ちいきの輪では、<u>地域における公益的な取組も含め</u>、地域住民の暮らしの中での困りごとなど、日々の出来事によりそい、高齢者福祉施設・事業所としてできることから支えていく活動であればどのような取組みでも参加いただけます。また、「東京都地域公益推進協議会」(事務局：東社協経営支援担当)とは異なる高齢協独自の取組みであり、参加において別途参加費等を請求することはありません。	

◎報告書について

一年間のまとめとして、毎年報告書を発行しております。2023年度報告書には、各事業所での取組み事例や、つなひろの活動の様子、2024年1月12日に実施した「つながれひろがれちいきの輪 inTOKYO 実践報告会」の様子を収録しています。

高齢協のウェブサイトにて公開しておりますので、ぜひご覧ください。

【URL】

<https://www.tcs.w.tvac.or.jp/bukai/kourei/tiikinowa/tsunahiro-archive.html>

◎お問合せ先

東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当(渡邊・宮田)

TEL : 03-3268-7172 FAX : 03-3268-0635 メール : kourei@tcs.w.tvac.or.jp



↑ 2023年度報告書

つながれひろがれちいきの輪 in TOKYO 2024 実施状況

1 実施期間

2024年9月1日～11月30日

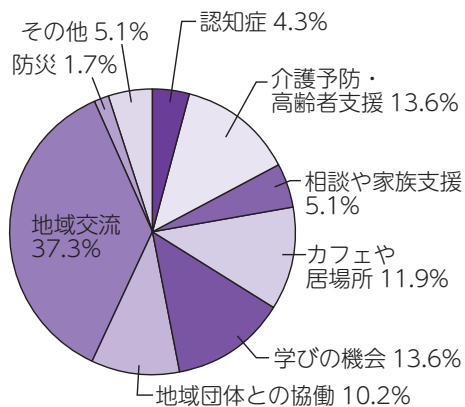
2 実施状況概要

参加事業数	69
参加団体数	509
実施区市町村数	27

3 実施事業内訳

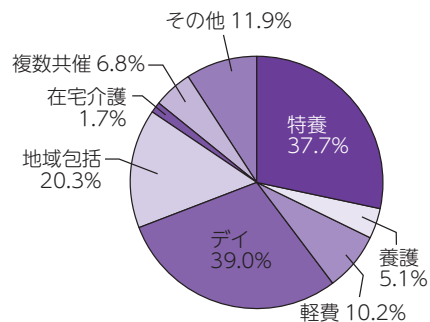
(1)取組み種別

	事業数	構成比
認知症	3	4.3%
介護予防や高齢者支援	8	13.6%
アウトリーチ（訪問活動）	0	0.0%
相談や家族支援	1	5.1%
カフェや居場所	13	11.9%
学びの機会	4	13.6%
地域団体との協働	3	10.2%
地域交流	30	37.3%
防災	4	1.7%
その他	3	5.1%
合 計	69	



(2)施設・事業所種別

	事業数	構成比
特別養護老人ホーム	52	37.7%
養護老人ホーム	2	5.1%
軽費老人ホーム	6	10.2%
デイサービスセンター	32	39.0%
地域包括支援センター	20	20.3%
在宅介護支援センター	7	1.7%
区市町村施設連絡会	0	0.0%
複数施設との共催	5	6.8%
その他	14	11.9%
合 計	138	



広報グッズ紹介

1 ロゴマーク

各施設がキャンペーンの一環として都内全域で取り組んでいることをPRするためのロゴマークです。東京の街並みや暮らす人を1つの輪にすることで「ちいきの輪」を表しています。パンフレット、名刺、ホームページなど様々な用途に活用いただきました。



2 チラシ

キャンペーンの趣旨や今年度の実施施設・事業所の取組みを1枚のチラシにまとめました。

表面のイラストには、「様々な高齢者福祉施設の活動の姿」「地域によりそう場」のイメージが込められています。高齢者福祉施設の取組みについて知っていただく機会に都内の関係団体や実施施設・事業所のかわりのある住民に向けて配布を行いました。



3 トートバッグ

各施設・事業所の取組みの会場にて配布し、キャンペーンのPRをするグッズとして、今年度新しく作りました。キャンペーンの取組み以外でも配布できるように手に取りやすいデザインとなっています。

4 のぼり

各施設・事業所の取組みの会場に置いてキャンペーンのPRをするグッズ。高齢者施設や社会福祉法人が暮らしの困りごとを気軽に相談できるところであることも伝えていきます。

5 アクティブルぬいぐるみ

東京都高齢者福祉施設協議会のマスコットキャラクターのぬいぐるみ。今年はキャンペーンのテーマカラーの紫色のTシャツを着ています。のぼりと一緒に各施設の取組み会場に置いてキャンペーンのPRに活用いただきました。



広報ツール紹介

1 キャンペーン特設サイト

東京都高齢者福祉施設協議会のウェブサイト内に特設コーナーにて、今年度のキャンペーンの実施状況、これまでの開催状況など1年を通じてキャンペーンを知る機会として作成しました。

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYOキャンペーン特設サイト

<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/tiikinowa/index.html>



2 Facebook

東京都高齢者福祉施設協議会のFacebookページにキャンペーン開始のお知らせを掲載しました。

3 東京新聞の広告掲載

キャンペーン中の11月11日（介護の日）に、情報広報室の協力のもと、東京新聞に東京都高齢者福祉施設協議会の全面広告としてキャンペーン再開の記事を掲載しました。

明日11月11日は
介護の日
～高齢者福祉施設協議会～

地域の高齢者に対して、
さまざまなカタチで支援を行っている
東京都高齢者福祉施設協議会
(以下、高齢協)。
この一年の主な活動をご紹介します!

「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」実施中!
～お近くの高齢者福祉施設・事業所の活動にぜひご参加ください～

高齢協では、認知症ケアや介護保険、生活支援など、さまざまな分野で高齢者の生活を支える活動を行っています。また、高齢者の生活を支えるための様々な活動を行っています。この活動を通じて、高齢者の生活を支えるための様々な活動を行っています。

「アクティブ福祉in東京」を開催
2024年9月26日、「アクティブ福祉in東京」24年度王サザナホルンで開催しました。アクティブ福祉とは、都内の高齢者福祉施設が連携して取り組む活動や事業、啓発活動など、高齢者の生活を支えるための様々な活動です。この活動を通じて、高齢者の生活を支えるための様々な活動を行っています。

2025年度大会
日時 2025年6月12日(木)～13日(金)
会場 東京ビッグサイト
開会式/閉会式
2025年6月12日(木) 開会式
2025年6月13日(金) 閉会式
TOKYO時間 20時

4 つなひろ通信

キャンペーンの進捗状況を都内の高齢者施設や都民の方に定期的に伝えるものとして発行しました。今年度もつながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO のキャンペーンを企画・運営を担当するワーキングチームのメンバーに見学会の様子を紹介していただきました。実践で取組まれている視点から感じたことや考えたことをまとめ、伝えています。

2024年10月7日号(送信枚数:全1枚)

つなぐれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ニュース

つなひろ通信 vol. 1



東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 (企画実施担当・つなぐれひろがれちいきの輪 in TOKYO W.T.)

○このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム(ケアハウスを含む)、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

トピックス1

9月1日キャンペーン開始!—ホームページに開催情報掲載

「つなぐれひろがれちいきの輪 in TOKYO 2024」は、都内27の区市町村で、69事業所の参加により、9月1日にスタートしました。コロナ禍での中断を経て再開後2年目となります。参加事業所数は、昨年度と比べると増加したものの、コロナ禍以前の水準には戻っていません。まだ感染症への対応が影響しているほか、職員体制なども大きな課題と考えられますし、一度途切れた関係や取り組みを再構築していくことの難しさもあるでしょう。そんな中でも、着実に取り組みを広げていきたいと考えています。

キャンペーンの詳細は、下記ウェブサイトでご確認いただけます。また、地域に寄り添うヒントを得る機会として、エントリー事業所の取り組みの見学会も実施予定です。見学会以外の個別の見学希望や活動に関するご相談も、下記の事務局までお問い合わせください。



エントリー事業所に
送付したグッズ

トピックス2

9月7日(土)キックオフ記者会見

今年度の『つなぐれ ひろがれ ちいきの輪』キャンペーンが始まり、キックオフ記者会見として、府中市立介護予防推進センター(社会福祉法人多摩養育園)の『地域防災訓練』にお邪魔しました。

分梅地区の自治会と、いきいきプラザ(介護予防推進センター・分梅高倉保育園)の合同防災訓練で、自治会の方々や保育園児・保護者、介護予防推進センターの利用者など100人を超える参加のもと、消火訓練や煙体験・起震車の体験、調理ボランティアさんによるバッククッキングの試食などがありました。

報道関係者にもお集まりいただき、つなひろキャンペーンの目的や実施状況と、今回の訓練や自治会と介護予防推進センターとの関係性について説明・質疑を行いました。キャンペーンの実施状況や課題については様々な質問があり、社会福祉法人が行う地域に向けた活動についての興味や期待を感じました。また、自治会役員さんや介護予防推進センター長からは、「以前は自治会活動への“来賓”といった関わりだったが、今は企画・準備段階から“一員”として加わっている」というお話があり、積極的に地域の活動に参画している様子がうかがえ、社会福祉法人・施設のあるべき姿を改めて考えさせられました。



見学会開催予定

あしたばカフェ(若年性認知症カフェ)

なぎさ和楽苑(江戸川区)

10/20(日) 13:30~15:30 開催

江戸川区内唯一の若年性認知症専門デイサービスと家族会協力の下、偶数月に若年性認知症カフェを実施しています。認知症に対する知識の向上やイベントを行い、楽しく交流しています。

※参加希望の場合、下記HPからお申込みください。

パールよろず博 2024

パール総合福祉プラザ(渋谷区)

11/29(金) 10:00~ 開催

地域住民・関係機関等の皆様に、パールの施設内や職員の業務を見ていただき、身近な存在としての役割を認知していただくことを目的としたイベントを年1回開催します。

※10/7現在の予定です。見学先・時間の変更などある場合がございます。詳細は別途案内いたします。

▼キャンペーンの詳細はこちらから

<http://www.tcs.w.tvac.or.jp/bukai/kourei/>

※会員向けメールでもご案内しております。

東京 高齢協議会 で検索!

送信元

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当

TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail: kourei@tcs.w.tvac.or.jp



○各施設や地域でのキャンペーン周知にご協力をお願いします。ご希望の施設・事業所にはチラシやグッズを追加で送付することができます。送信元までご相談ください。

つなぐれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ニュース

つなひろ通信 vol.2



東社協 東京都高齢者福祉施設協議会(企画実施担当・つなぐれひろがれちいきの輪 inTOKYO W T)

○このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム(ケアハウスを含む)、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

トピックス1 あしたばカフェ(若年性認知症カフェ)の見学会開催!

『木漏れ日差し込むスペースに漂う珈琲と焼き芋の香りと優しい秋風!』

なぎさと楽苑(江戸川区)の1階で開催されている「あしたばカフェ(若年性認知症カフェ)」にお邪魔させていただきました。この素敵なカフェは、若年性認知症専門デイサービスと家族会協力の下、偶数月に1度、認知症に対する知識の向上やイベントを行っているそうです。今回は、理学療法士の方によるフレイル予防講座と、家族会の方が演奏するミニコンサートがありました。お伺いする前は、デイサービスの方が主に行っているものなのかと思っておりましたが、運営企画その他、家族会の方が中心で進められていて、とてもアットホームな印象を受けました。当事者の方もたくさん参加されていて、表情豊かに笑顔がはちきれんばかりでした。カフェの開催中に、施設の屋上で栽培したという4種類のサツマイモがベランダで焼き芋に変身し、皆で美味しくいただきました。

家族会の方が入れてくださった珈琲、生ギター・ピアノ演奏!「また来たいな!」と思える本当に素敵な午後の時間でした♡



トピックス2 令和7年1月20日(月) つなひろ実践報告会開催予定!

昨年度に引き続き今年も開催します!都内の各地域の高齢者福祉施設では、地域の様々な方とともに、福祉や介護サービスが必要な高齢者だけではなく、地域によりそう幅広い取組みを展開しています。最初のきっかけは何だったのか、まずやってみたこととは、施設内や地域への理解をどう広げてきたか・・・実際の取組みをひも解きながら、多様な地域の方々が地域の一員として明日からできることを一緒に考える機会にします。※つなひろキャンペーン参加の有無に関わらずご参加いただけます。

実践報告会「だれもが安心して暮らせるために地域でできること」

日時: 令和7年1月20日(月) 14:00~17:00(受付13:30~)

会場: 研究社英語センタービル地下2階 大会議室(新宿区神楽坂1-2)

※詳細は後日ご案内いたします!



見学会開催予定

パールよろず博2024

会場: パール総合福祉プラザ(渋谷区)

日時: 11/29(金) 10:00~開催 ※集合10:30

地域住民・関係機関等の皆様に、パールの施設内や職員の業務を見ていただき、身近な存在としての役割を認知していただくことを目的としたイベントを年1回開催します。

お願い

事業レポートの提出について
(キャンペーン参加施設向け)

つなひろにご参加の施設・事業所の皆様には、「事業レポート」の提出をお願いしております。提出いただいたレポートと写真は、今後作成予定の報告書などに掲載を予定しております。フォーマットは高齢協HP「つなぐれひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」の「参加施設・事業所専用ページ」よりダウンロードできます。

▼キャンペーンの詳細・お申込みはこちらから

<http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/>

※会員向けメールでもご案内しております。

東京 高齢協議会 で検索!

※申込フォームは、「つなぐれひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」の「参加施設・事業所専用ページ」にあります。

送
信
元

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当

TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail: kourei@tcsw.tvac.or.jp



○各施設や地域でのキャンペーン周知にご協力お願いします。ご希望の施設・事業所にはパンフレットやグッズを追加で送付することができます。送信元までご相談ください。

2024 年 12 月 24 日号 (送信枚数: 全 1 枚)

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ニュース

つなひろ通信 vol. 3



東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 (企画実施担当・つながれひろがれちいきの輪 in TOKYO W T)

●このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム (ケアハウスを含む)、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

トピックス 1 2024 つなひろ見学会 part 3 『パールよろず博』開催!

快晴の青空の中、若者の街『渋谷』の駅からほど近い閑静な住宅街にある、特別養護老人ホーム パール代官山で開催された『パールよろず博』にお邪魔させていただきました!(^^)!

このイベントは、地域の方が施設の様子や職員の業務を見ることが、身近な存在として施設を認知して頂くことを目的に開催されているということでした。そのためイベントの内容も、福祉機器の展示やマッサージコーナーなど私たち福祉従事者が日ごろ目に見えている光景でした。福祉機器コーナーでは電動車いすの展示があり、試乗することができました。電動車いすは子どもの好奇心をそり、ちょっとした体験から『福祉』に興味を持つことが出来るかもと感じました。

当日は理事長のお話も伺うことが出来ました。ボランティアの力を活かす事、法人設立から現在まで続く地域との繋がり、時代の求めに応じる法人の役割…等。御年 90 を超えるとの事でしたが、とても若たく活き活きとしていました。「最近の若い人は物足りない、もっと頑張らないと。今度はあなたが頑張る番!」と。エールを送られ、明日から更に『頑張ろう』と気持ちを引き締め帰路につきました。



施設の厨房で作った特製の『おでん』は大人気でした。
価格もリーズナブルです!

トピックス 2 令和 7 年 1 月 20 日 (月) つなひろ実践報告会開催予定!

昨年度に引き続き今年も開催します! 都内の各地域の高齢者福祉施設では、地域の様々な方とともに、福祉や介護サービスが必要な高齢者だけではなく、地域によりそう幅広い取組みを展開しています。最初のきっかけは何だったのか、まずやってみたことは、施設内や地域への理解をどう広げてきたか・・・実際の取組みをひも解きながら、多様な地域の方々が地域の一員として明日からできることを一緒に考える機会にします。※つなひろキャンペーン参加の有無に関わらずご参加いただけます。

実践報告会「だれもが安心して暮らせるために地域でできること」

日時: 令和 7 年 1 月 20 日 (月) 14:00~17:00 (受付 13:30~)

会場: 研究社英語センタービル地下 2 階 大会議室 (新宿区神楽坂 1-2)

発表事業所: 府中市立介護予防推進センター、なぎさ楽苑、

社会福祉法人パール、神明園 *詳細はチラシをご参照ください。



←申込みはこちら!



通知文・
チラシ→

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム 委員募集!

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチームでは、キャンペーンをすすめていくために、一緒に活動していただける方を募集しています。対象は東京都高齢者福祉施設協議会の会員事業所の職員になります。ご興味がある方は、下記「送信元」に記載の事務局までご連絡をお願いいたします。

*必要に応じてご所属の法人代表や事業所長に派遣依頼文等を作成いたします。

★2024 年度ワーキングチームの活動★

- ・年 7 回程度の委員会の開催
- ・キャンペーングッズ・チラシ・報告書の企画作成
- ・つなひろ参加施設への見学会 (3 回) や、実施報告会の企画運営 など



▼キャンペーンの詳細はこちらから

<http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/>

※会員向けメールでもご案内しております。

東京 高齢協議会 で検索!

※申込フォームは、「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」の「参加施設・事業所専用ページ」にあります。

送信元

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当

TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail: kourei@tcsw.tvac.or.jp



○各施設や地域でのキャンペーン周知にご協力お願いします。ご希望の施設・事業所にはパンフレットやグッズを追加で送付することができます。送信元までご相談ください。

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム 委員募集

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチームでは、キャンペーンをすすめていくために、一緒に活動していただける方を募集しています。対象は東京都高齢者福祉施設協議会の会員事業所の職員になります。ご興味がある方は、下記に施設・事業所名とお名前、ご連絡先をご記入の上、FAX・メールにてお送りください。

* 必要に応じてご所属の法人代表や事業所長に派遣依頼文等を作成いたします。

2023 年度ワーキングチームの活動

- ・ 年 8 回程度の委員会の開催
- ・ キャンペーングッズ・チラシ・報告書の企画作成
- ・ つなひろ参加施設への見学会（3 回）や、実施報告会の企画運営 など



見学会 実際に目で見て地域の実践を学べる場をつくりました



実践報告会 グループワークに入って一緒に考えることも！

地域によりそう実践から、都内の高齢者福祉施設などが、福祉や介護サービスが必要な高齢者だけではなく、だれもが安心して暮らせるまちづくりのためにできることは何か、を日頃から考えて取り組んでいます。

自施設・事業所の取組につながるヒントを得られるチャンスに、和気あいあいとした雰囲気の中で情報交換をしながら、キャンペーンの企画内容の検討やイベントの運営一緒にしてみませんか。みなさまのご参加お待ちしております。

地域の活動を支える仲間づくりや他施設のアイデアを知る機会に！ぜひ一緒にキャンペーンを支えてほしいブル！



■お問合せ先

東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当（渡邊・宮田）

TEL：03-3268-7172 FAX：03-3268-0635 メール：kourei@tcs.w.tvac.or.jp

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO WT 委員参加希望

事業所名： _____ お名前： _____

TEL： _____ FAX： _____

Mail： _____

東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会
2024年度 地域包括ケア推進委員会
つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム 名簿

No.	所属	氏名
1	あすなろみんなの家	今 裕司
2	品川区立中延在宅介護支援センター・ 品川区中延在宅サービスセンター	小山 正子
3	高田介護予防センター	相澤 和彦
4	とらいふ武蔵野	大脇 秀一
5	東久留米市中部包括支援センター	津雪 聡子
6	府中市地域包括支援センター白糸台	清野 哲男
7	府中市立介護予防推進センター	沼尾 治巳
8	東京都民生児童委員連合会	藤野 真琴
9	東京ボランティア・市民活動センター	榎本 朝美

※2025年3月時点

東京の高齢者福祉施設による、地域によりそうキャンペーン つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 2024 報告書

2025年6月発行

編集 東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会

発行者 東京都社会福祉協議会

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1

TEL 03-3268-7172 FAX 03-3268-0635

<http://www.tcsw.tvac.or.jp/>



お問い合わせ

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
東京都高齢者福祉施設協議会

事務局 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当
〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸 1-1
飯田橋セントラルプラザ内
TEL 03-3268-7172 FAX 03-3268-0635
URL <http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/>